工　事　設　計　書

年度	平成29年度	技術管理者	課長	係長	係長	精算者	設計者	老朽管整備事業費	
工事番号	29-2210							設計年月日	平成30年 1月 16日
着工番号								精算年月日	平成30年 1月 16日

施工理由			
施工箇所	明石市松が丘3丁目ほか地内	施工方法及び工事期限	(請負) 単価契約 平成30年3月31日まで
工事名称	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事	支払い方法	前払金：あり（40%以内） 中間前払金：あり（20%以内） 部分払：無し

工事概要
配水管布設工計　L=554.3m
配水管布設工　φ75　L=9.0m　、φ100　L=7.2m　、φ150　L=3.0m　、φ200　L=56.1m　、φ300　L=479.0m
仕切弁設置工　φ75　1基　、　φ100　1基　、　φ150　1基　、　φ200　4基　、　φ300　2基
消火栓設置工　φ200　1基　、　φ300　3基
空気弁設置工　φ300　1基
仮配水管布設撤去工　一式
舗装復旧工　一式

当初設計金額	円	消費税相当額	円	当初請負金額	円	消費税相当額	円
変更設計金額	円	消費税相当額	円	変更請負金額	円	消費税相当額	円
増　減	円	増　減	円	増　減	円	増　減	円

総 括 情 報 表

単価適用年月日	0-30.01.01(0)	
	今　　回	前　　回
工種区分 施工地域区分	01　開削工事及び小口推進工事 01　市街地	

工　事　費　内　訳　書

費目・工種・種別・細目	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
本工事費					
管路(開削)					
φ75管路					
φ75管布設工	1	式			工種　第0001号明細表
φ75管布設土工	1	式			工種　第0004号明細表
φ100管路					
φ100管布設工	1	式			工種　第0006号明細表
φ100管布設土工	1	式			工種　第0009号明細表
φ150管路					

工　事　費　内　訳　書

費目・工種・種別・細目	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
φ150布設工	1	式			工種　第0011号明細表
φ150管布設土工	1	式			工種　第0014号明細表
φ200管路					
φ200布設工	1	式			工種　第0016号明細表
φ200布設土工	1	式			工種　第0019号明細表
φ300管路					
φ300布設工	1	式			工種　第0021号明細表
φ300布設土工	1	式			工種　第0024号明細表
付帯工					

工　事　費　内　訳　書

費目・工種・種別・細目	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮配水管布設撤去工	1	式			工種　第0026号明細表
既設管撤去工	1	式			工種　第0030号明細表
舗装復旧工	1	式			工種　第0033号明細表
区画線工	1	式			工種　第0038号明細表
交通管理工					
交通管理工	1	式			工種　第0040号明細表
直接工事費計					
共通仮設費計					
運搬費		式			

工　事　費　内　訳　書

費目・工種・種別・細目	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮設材運搬費	1	式			工種　第0042号明細表
準備費		式			
試掘調査工	1	式			工種　第0043号明細表
技術管理費		式			
通水試験費	1	式			工種　第0044号明細表
共通仮設費率分		式			
純工事費計					
現場管理費		式			
工事原価計					

工　事　費　内　訳　書

費目・工種・種別・細目	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
一般管理費等		式			
工事価格計					
消費税相当額		式			
総　計					

φ75管布設工

工 種 明 細 表

工種　第0001号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
管材	(1)	式			工種　第0002号明細表
手間	(1)	式			工種　第0003号明細表
合計	1	式			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0002号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
DGX-S 直管 φ 75×4000 ｺﾞﾑ輪・ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ(ﾎﾙﾀﾞｰ含) 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	2	本			
DGX 挿し受片落管 φ100× 75 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 曲管 φ 75×45° ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 両受曲管 φ 75×45° ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 継ぎ輪 φ 75 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
GX形ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿し) φ 75 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装	1	基			
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)(H=740) 鉄蓋含む	1	組			施工　第0-0005号内訳表
GX形P-Linkｾｯﾄ φ 75 切管直管受用	1	組			
GX形G-Linkｾｯﾄ φ 75 切管異形管受用	4	組			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0002号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
GX形接合ｾｯﾄ　φ 75 異形管・V用	3	組			
GX形ﾗｲﾅ　φ 75 ﾗｲﾅﾎﾞｰﾄﾞ含	1	組			
表示帯	9.0	m			
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ75 固定材料含む	9.0	m			施工　第0-0006号内訳表
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50mm 1巻 20m) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定品	1	巻			
合　　計	1	式			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0003号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
鋳鉄管吊込み据付（機械力） 呼び径　75mm以下	8.5	m			
鋳鉄管(新設管)切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管　呼び径75mm	3	口			
鋳鉄製仕切弁(機械力)設置 縦型仕切弁　呼び径　100mm以下	1	基			
円形1号ﾎﾞｯｸｽ設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	1	箇所			
ＧＸ継手接合(呼び径　75mm) 直管	2	口			
ＧＸ継手接合(呼び径　75mm) P-Linkの接合	1	口			
ＧＸ継手接合(呼び径　75mm) G-Linkの接合	4	口			
ＧＸ継手接合(呼び径　75mm) 異形管	3	口			
管明示シート工（鋳鉄管布設工）	9.0	m			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0003号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ被覆(呼び径 75mm)	9.0	m			
管明示テープ工（鋳鉄管布設工） φ75	9.0	m			
合　　計	1	式			

φ75管布設土工

工 種 明 細 表

工種　第0004号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
土工	(1)	式			工種　第0005号明細表
合計	1	式			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0005号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	18	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	5	m2			
掘削積込工	5	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	0.4	m3			施工　第0-0003号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	5	m3			施工　第0-0004号内訳表
仮復旧工 [密粒度[再](13)] 厚 5cm	5	m2			施工　第0-0002号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚10cm	1	m2			
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚15cm	3	m2			
フィルター層 ｔ＝40㎜以上60㎜未満 洗砂	1	m2			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0005号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
埋戻工（埋戻し材->再生切込砕石）	2	m3			
埋戻工（埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ）	2	m3			
合　　計	1	式			

φ100管布設工

工 種 明 細 表

工種　第0006号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
管材	(1)	式			工種　第0007号明細表
手間	(1)	式			工種　第0008号明細表
合計	1	式			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0007号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
DGX-S 直管　φ100×4000 ｺﾞﾑ輪・ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ(ﾎﾙﾀﾞｰ含) 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	2	本			
DGX 曲管　φ100×45° ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 両受曲管　φ100×45° ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 継ぎ輪　φ100 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 栓(異形管用)　φ100 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	2	個			
DGX 耐震型特殊分岐管　φ100×　75 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ　φ　75 V型ソフトシール弁・V型用Oリング	1	基			
特殊分岐管用中栓　φ　75 中栓・栓（蓋）・中栓用特殊ゴム	2	組			
GX形ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿し)　φ100 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装	1	基			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0007号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)(H=740) 鉄蓋含む	1	組			施工　第0-0005号内訳表
GX形G-Linkｾｯﾄ　φ100 切管異形管受用	4	組			
GX形接合ｾｯﾄ　φ100 異形管・V用	5	組			
GX形ﾗｲﾅ　φ100 ﾗｲﾅﾎﾞｰﾄﾞ含	2	組			
表示帯	7.2	m			
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ100 固定材料含む	7.2	m			施工　第0-0008号内訳表
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50mm 1巻 20m) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定品	1	巻			
合　　計	1	式			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0008号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
鋳鉄管吊込み据付（機械力） 呼び径　100mm	6.7	m			
鋳鉄管(新設管)切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管　呼び径100mm	3	口			
鋳鉄製仕切弁(機械力)設置 縦型仕切弁　呼び径　100mm以下	1	基			
円形1号ﾎﾞｯｸｽ設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	1	箇所			
ＧＸ継手接合(呼び径 100mm) 直管	1	口			
ＧＸ継手接合(呼び径 100mm) G-Linkの接合	4	口			
ＧＸ継手接合(呼び径 100mm) 異形管	5	口			
ＧＸ 栓設置工(呼び径 100mm) 異形管	2	口			
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ設置 縦型仕切弁　呼び径　100mm以下	1	基			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0008号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ撤去 縦型仕切弁　呼び径　100mm以下	2	基			
特殊分岐管用中栓設置工　φ 75 平日・昼間施工	2	基			
管明示シート工（鋳鉄管布設工）	7.2	m			
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ被覆(呼び径 100mm)	7.2	m			
管明示テープ工（鋳鉄管布設工） φ100	7.2	m			
合　　計	1	式			

φ100管布設土工

工 種 明 細 表

工種　第0009号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
土工	(1)	式			工種　第0010号明細表
合計	1	式			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0010号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	24	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	7	m2			
掘削積込工	4	m3			
掘削積込工(補助的作業なし)	2	m3			施工　第0-0009号内訳表
掘削［人力土工］ 土砂	1	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	0.4	m3			施工　第0-0003号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	8	m3			施工　第0-0004号内訳表
仮復旧工［密粒度[再](13)］ 厚 5cm	7	m2			施工　第0-0002号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚10cm	6	m2			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0010号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚15cm	0.8	m2			
フィルター層 ｔ＝40㎜以上60㎜未満 洗砂	2	m2			
埋戻工（埋戻し材->再生切込砕石）	4	m3			
埋戻工（埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ）	3	m3			
合　　計	1	式			

φ150布設工

工 種 明 細 表

工種　第0011号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
管材	(1)	式			工種　第0012号明細表
手間	(1)	式			工種　第0013号明細表
合計	1	式			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0012号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
DGX-S 直管　φ150×5000 ｺﾞﾑ輪・ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ(ﾎﾙﾀﾞｰ含) 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	本			
DGX 継ぎ輪　φ150 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 両受短管　φ150 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
簡易バルブ付耐震型割T字管　φ150×150 3DkN以上　密着コア（SUS製）含む 特殊曲管K型挿し口	1	基			
不断水簡易ﾊﾞﾙﾌﾞ(鋳鉄管用)　φ150	1	基			
GX形ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿し)　φ150 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装	1	基			
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)(H=740) 鉄蓋含む	2	組			施工　第0-0005号内訳表
GX形G-Linkｾｯﾄ　φ150 切管異形管受用	4	組			
GX形接合ｾｯﾄ　φ150 異形管・V用	1	組			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0012号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
DK 帽　φ150 特殊押輪(3DkN),接合材含む 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
表示帯	3.0	m			
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ150 固定材料含む	3.0	m			施工　第0-0010号内訳表
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50㎜ 1巻 20m) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定品	1	巻			
合　　計	1	式			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0013号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
鋳鉄管吊込み据付（機械力） 呼び径　150mm	2.5	m			
鋳鉄管(新設管)切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管　呼び径150mm	2	口			
不断水連絡工(φ150mm×φ150mm)	1	箇所			
密着コア取付工　φ150	1	個			
不断水ﾊﾞﾙﾌﾞ設置工(鋳鉄管用)　φ150	1	基			
鋳鉄製仕切弁(機械力)設置 縦型仕切弁　呼び径　150mm	1	基			
円形1号ﾎﾞｯｸｽ設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	2	箇所			
ＧＸ継手接合(呼び径 150mm) G-Linkの接合	4	口			
ＧＸ継手接合(呼び径 150mm) 異形管	1	口			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0013号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
帽設置工(呼び径　150mm) 継手：K形　特殊押輪使用あり	1	口			
管明示シート工（鋳鉄管布設工）	3.0	m			
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ被覆(呼び径 150mm)	3.0	m			
管明示テープ工（鋳鉄管布設工） φ150	3.0	m			
合　　計	1	式			

φ150管布設土工

工 種 明 細 表

工種　第0014号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土工	(1)	式			工種　第0015号明細表
合　計	1	式			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0015号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	20	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	6	m2			
掘削積込工	2	m3			
掘削積込工(補助的作業なし)	3	m3			施工　第0-0009号内訳表
掘削［人力土工］ 土砂	2	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	0.3	m3			施工　第0-0003号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	8	m3			施工　第0-0004号内訳表
仮復旧工［密粒度[再](13)］ 厚 5cm	6	m2			施工　第0-0002号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚10cm	6	m2			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0015号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚15cm	0.3	m2			
フィルター層 ｔ＝40㎜以上60㎜未満 洗砂	4	m2			
埋戻工（埋戻し材->再生切込砕石）	3	m3			
埋戻工（埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ）	3	m3			
合　　計	1	式			

φ200布設工

工 種 明 細 表

工種　第0016号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
管材	(1)	式			工種　第0017号明細表
手間	(1)	式			工種　第0018号明細表
合計	1	式			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0017号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
DGX-S 直管　φ200×5000 ｺﾞﾑ輪・ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ(ﾎﾙﾀﾞｰ含) 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	10	本			
DGX 曲管　φ200×45° ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	7	個			
DGX 両受曲管　φ200×45° ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	5	個			
DGX ﾌﾗﾝｼﾞ付きT字管　φ200×　75 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 継ぎ輪　φ200 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	4	個			
DGX 耐震型特殊分岐管　φ200×100 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ　φ100 V型ソフトシール弁・V型用Oリング	1	基			
特殊分岐管用中栓　φ100 中栓・栓（蓋）・中栓用特殊ゴム	2	組			
簡易バルブ付耐震型割T字管　φ200×200 3DkN以上 K型受口	1	基			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0017号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
不断水簡易ﾊﾞﾙﾌﾞ(鋳鉄管用) φ200	1	基			
GX形ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿し) φ200 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装	4	基			
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)(H=740) 鉄蓋含む	5	組			施工　第0-0005号内訳表
ｹﾚｯﾌﾟ式単口消火栓(浅埋形) φ75×65 JWWA B 103,地下式,単口式,0.75MPa FCD 内外面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	基			
ﾌﾗﾝｼﾞ短管 φ 75×150 0.75MPa 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
補修弁 (ｷｬｯﾌﾟ式) φ75×100 JWWA B 126,0.75MPa FCD 内外面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	基			
ﾌﾗﾝｼﾞ接合補強具(LSP形) φ 75 7.5K　LSPﾊﾟｯｷﾝ ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ(SUS304製)緩み防止仕様	3	組			
消火栓ﾎﾞｯｸｽ(円形3号)(H=740) 鉄蓋及び無収縮ﾓﾙﾀﾙ含む	1	組			施工　第0-0011号内訳表
GX形P-Linkｾｯﾄ φ200 切管直管受用	1	組			

工 種 明 細 表

工種　第0017号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
GX形G-Linkｾｯﾄ φ200 切管異形管受用	24	組			
GX形接合ｾｯﾄ　φ200 異形管・V用	11	組			
GX形ﾗｲﾅ φ200 ﾗｲﾅﾎﾞｰﾄﾞ含	7	組			
DK 曲管 φ200×45° JIS G 5527,5528,JWWA G 112,114 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	2	個			
DK 帽 φ200 特殊押輪(3DkN),接合材含む 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DK 特殊押輪(3DkN以上) φ 200 接合材含む	2	組			
表示帯	56.1	m			
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ200 固定材料含む	56.1	m			施工　第0-0012号内訳表
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50mm 1巻 20m) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定品	6	巻			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0017号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
合　　計	1	式			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0018号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
鋳鉄管吊込み据付（機械力） 呼び径　200mm	53.7	m			
鋳鉄管(新設管)切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管　呼び径200mm	17	口			
不断水連絡工(φ200mm×φ200mm)	1	箇所			
不断水ﾊﾞﾙﾌﾞ設置工(鋳鉄管用)　φ200	1	基			
鋳鉄製仕切弁(機械力)設置 縦型仕切弁　呼び径　200mm	4	基			
円形1号ﾎﾞｯｸｽ設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	5	箇所			
消火栓(地下式 単口)設置工 機械施工　ﾌﾗﾝｼﾞ接合1口含む	1	箇所			
フランジ継手 接合(呼び径　75(80)mm) ＪＷＷＡ 7.5Ｋ	2	口			
円形3号ﾎﾞｯｸｽ設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	1	箇所			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0018号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ＧＸ継手接合(呼び径 200mm) 直管	10	口			
ＧＸ継手接合(呼び径 200mm) G-Linkの接合	24	口			
ＧＸ継手接合(呼び径 200mm) 異形管	11	口			
帽設置工（呼び径　200mm) 継手：K形　特殊押輪使用あり	1	口			
ﾒｶﾆｶﾙ継手 接合(呼び径　200mm) 継手：K形　特殊押輪使用あり	2	口			
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ設置 縦型仕切弁　呼び径　100mm以下	1	基			
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ撤去 縦型仕切弁　呼び径　100mm以下	2	基			
特殊分岐管用中栓設置工 φ100 平日・昼間施工	2	基			
管明示シート工（鋳鉄管布設工）	56.1	m			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0018号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ被覆(呼び径 200mm)	56.1	m			
管明示テープ工（鋳鉄管布設工） φ200	56.1	m			
合　　計	1	式			

φ200布設土工

工 種 明 細 表

工種　第0019号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土工	(1)	式			工種　第0020号明細表
合　計	1	式			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0020号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	130	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	40	m2			
掘削積込工	38	m3			
掘削積込工(補助的作業なし)	6	m3			施工　第0-0009号内訳表
掘削[人力土工] 土砂	4	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	2	m3			施工　第0-0003号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	47	m3			施工　第0-0004号内訳表
仮復旧工 [密粒度[再](13)] 厚 5cm	40	m2			施工　第0-0002号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚10cm	31	m2			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0020号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚15cm	8	m2			
埋戻工（埋戻し材->再生切込砕石）	21	m3			
埋戻工（埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ）	21	m3			
軽量鋼矢板建込引抜工（両側分）	3.4	m			
軽量鋼矢板建込引抜工（両側分）	1.4	m			
土留支保工（設置＋撤去） 切梁種別 水圧式ﾊﾟｲﾌﾟｻﾎﾟｰﾄ	3.4	m			
土留支保工（設置＋撤去） 切梁種別 水圧式ﾊﾟｲﾌﾟｻﾎﾟｰﾄ	1.4	m			
ｱﾙﾐ製支保工賃料（軽量鋼矢板2.0m用）	3.4	m			
ｱﾙﾐ製支保工賃料（軽量鋼矢板2.5m用） 2段	1.4	m			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0020号明細表

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
鋼矢板賃料		t			
鋼矢板修理費及び損耗費		t			
合　　計	1	式			

φ300布設工

工 種 明 細 表

工種　第0021号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
管材	(1)	式			工種　第0022号明細表
手間	(1)	式			工種　第0023号明細表
合計	1	式			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0022号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
DGX-S 直管　φ300×6000 ｺﾞﾑ輪・ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ(ﾎﾙﾀﾞｰ含) 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	83	本			
DGX 曲管　φ300×5° 5/8 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	16	個			
DGX 二受T字管　φ300×100 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	2	個			
DGX 二受T字管　φ300×150 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DGX 二受T字管　φ300×200 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	4	個			
DGX ﾌﾗﾝｼﾞ付きT字管　φ300×　75 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	4	個			
DGX 両受短管　φ300 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
GX形ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿し)　φ300 ロックリング含 内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装	2	基			
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)(H=740) 鉄蓋含む	2	組			施工　第0-0005号内訳表

管材

工 種 明 細 表

工種　第0022号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ｶﾑﾚﾊﾞｰﾛｯｸ式急速空気弁(補修弁含む) φ25 ﾌﾗﾝｼﾞ一体型,補修弁ｷｬｯﾌﾟ式φ75XH100含む 0.75MPa、FCD 内外面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	基			
ｹﾚｯﾌﾟ式単口消火栓(浅埋形) φ75×65 JWWA B 103,地下式,単口式,0.75MPa FCD 内外面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	3	基			
ﾌﾗﾝｼﾞ短管 φ 75×150 0.75MPa 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	4	個			
補修弁 (ｷｬｯﾌﾟ式) φ75×100 JWWA B 126,0.75MPa FCD 内外面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	3	基			
ﾌﾗﾝｼﾞ接合補強具(LSP形) φ 75 7.5K　LSPﾊﾟｯｷﾝ ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ(SUS304製)緩み防止仕様	12	組			
空気弁ﾎﾞｯｸｽ(円形3号)(H=740) 鉄蓋及び無収縮ﾓﾙﾀﾙ含む	1	組			施工　第0-0014号内訳表
消火栓ﾎﾞｯｸｽ(円形3号)(H=740) 鉄蓋及び無収縮ﾓﾙﾀﾙ含む	3	組			施工　第0-0011号内訳表
GX形P-Linkｾｯﾄ φ300 切管直管受用	2	組			
GX形G-Linkｾｯﾄ φ300 切管異形管受用	7	組			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0022号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
GX形接合ｾｯﾄ　φ300 異形管・V用	24	組			
GX形ﾗｲﾅ　φ300 ﾗｲﾅﾎﾞｰﾄﾞ含	31	組			
DGX 栓(異形管用) φ300 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
DK 帽　φ300 特殊押輪(3DkN),接合材含む 内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	1	個			
表示帯	479.0	m			
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ300 固定材料含む	479.0	m			施工　第0-0015号内訳表
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50mm 1巻 20m) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定品	49	巻			
合　　計	1	式			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0023号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
鋳鉄管吊込み据付（機械力） 呼び径　300mm	477.6	m			
鋳鉄管(新設管)切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管　呼び径300mm	9	口			
鋳鉄製仕切弁(機械力)設置 縦型仕切弁　呼び径　300mm	2	基			
円形1号ﾎﾞｯｸｽ設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	2	箇所			
空気弁　設置　呼び径　13～25mm	1	基			
消火栓(地下式 単口)設置工 機械施工　ﾌﾗﾝｼﾞ接合1口含む	3	箇所			
フランジ継手 接合(呼び径　75(80)mm) ＪＷＷＡ 7.5Ｋ	9	口			
円形3号ﾎﾞｯｸｽ設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	1	箇所			
円形3号ﾎﾞｯｸｽ設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	3	箇所			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0023号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ＧＸ継手接合(呼び径 300mm) 直管	83	口			
ＧＸ継手接合(呼び径 300mm) P-Linkの接合	2	口			
ＧＸ継手接合(呼び径 300mm) G-Linkの接合	7	口			
ＧＸ継手接合(呼び径 300mm) 異形管	24	口			
ＧＸ 栓設置工(呼び径 300mm) 異形管	1	口			
DK　帽設置工(呼び径　300mm) 継手：K形　特殊押輪使用あり	1	口			
管明示シート工（鋳鉄管布設工）	479.0	m			
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ被覆(呼び径 300mm)	479.0	m			
管明示テープ工（鋳鉄管布設工） φ300	479.0	m			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0023号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
合　　計	1	式			

φ300布設土工

工 種 明 細 表

工種　第0024号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土工	(1)	式			工種　第0025号明細表
合　計	1	式			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0025号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	960	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	335	m2			
掘削積込工	410	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	34	m3			施工　第0-0003号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	410	m3			施工　第0-0004号内訳表
仮復旧工 [密粒度[再](13)] 厚 5cm	335	m2			施工　第0-0002号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚15cm	335	m2			
埋戻工 (埋戻し材->再生切込砕石)	170	m3			
埋戻工 (埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ)	170	m3			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0025号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
合計	1	式			

仮配水管布設撤去工

工 種 明 細 表

工種　第0026号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮配水管材料	(1)	式			工種　第0027号明細表
仮配水管手間	(1)	式			工種　第0028号明細表
仮配水管土工	(1)	式			工種　第0029号明細表
合　　計	1	式			

仮配水管材料

工 種 明 細 表

工種　第0027号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮配管材(賃料)　φ80	14.2	m			
仮ﾊﾞﾙﾌﾞ(賃料)　φ80	2	基			
仮消火栓(賃料)　φ80 仮消火栓,仮ﾁｰｽﾞ	1	基			
仮配管材(賃料)　φ100	1.0	m			
仮配管材(賃料)　φ150	19.0	m			
仮ﾊﾞﾙﾌﾞ(賃料)　φ150	2	基			
仮消火栓(賃料)　φ150 仮消火栓,仮ﾁｰｽﾞ150X80	1	基			
仮ﾊﾞﾙﾌﾞﾎﾞｯｸｽ(損料)(H=300) 鉄蓋含む	4	組			施工　第0-0016号内訳表
仮消火栓ﾎﾞｯｸｽ(損料)(H=300) 鉄蓋含む	2	組			施工　第0-0017号内訳表

仮配水管材料

工 種 明 細 表

工種　第0027号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
合　　計	1	式			

工 種 明 細 表

工種　第0028号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮配水管布設撤去工φ80 継手工含む	14.2	m			施工　第0-0018号内訳表
仮ﾊﾞﾙﾌﾞ設置撤去工φ80 継手工含む	2	基			施工　第0-0019号内訳表
仮消火栓設置撤去工φ80 埋設用、継手工含む	1	基			施工　第0-0020号内訳表
仮配水管布設撤去工φ100 継手工含む	1.0	m			施工　第0-0021号内訳表
仮配水管布設撤去工φ150 継手工含む	19.0	m			施工　第0-0022号内訳表
仮ﾊﾞﾙﾌﾞ設置撤去工φ150 継手工含む	2	基			施工　第0-0023号内訳表
仮消火栓設置撤去工φ150 埋設用、継手工含む	1	基			施工　第0-0024号内訳表
仮ﾊﾞﾙﾌﾞﾎﾞｯｸｽ設置撤去工(H=300) 鉄蓋設置撤去含む	4	箇所			
仮消火栓ﾎﾞｯｸｽ設置撤去工(H=300) 鉄蓋設置撤去含む	2	箇所			

仮配水管手間

工 種 明 細 表

工種　第0028号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
合計	1	式			

仮配水管土工

工 種 明 細 表

工種　第0029号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	72	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	31	m2			
掘削積込工	6	m3			
掘削積込工(補助的作業なし)	2	m3			施工　第0-0009号内訳表
掘削[人力土工] 土砂	3	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	2	m3			施工　第0-0003号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	7	m3			施工　第0-0004号内訳表
仮復旧工 [密粒度[再](13)] 厚 5cm	31	m2			施工　第0-0002号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚10cm	15	m2			

仮配水管土工

工 種 明 細 表

工種　第0029号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
フィルター層 ｔ＝40㎜以上60㎜未満 洗砂	2	m2			
埋戻工（埋戻し材->再生切込砕石）	2	m3			
埋戻工（埋戻し材->流用土）	4	m3			
埋戻工（埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ）	3	m3			
合　　計	1	式			

既設管撤去工

工 種 明 細 表

工種　第0030号明細表

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
既設管撤去手間	(1)	式			工種　第0031号明細表
既設管撤去土工	(1)	式			工種　第0032号明細表
合　　計	1	式			

工 種 明 細 表

工種　第0031号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
鋳鉄管吊込み撤去（機械力） 呼び径　100mm	35.2	m			
鋳鉄管吊込み撤去（機械力） 呼び径　150mm	8.6	m			
鋳鉄管吊込み撤去（機械力） 呼び径　200mm	75.0	m			
鋳鉄管吊込み撤去（機械力） 呼び径　300mm	4.2	m			
鋳鉄管吊込み撤去（機械力） 呼び径　400mm	387.4	m			
鋳鉄管(既設管)撤去切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) 鋳鉄管　呼び径100mm	12	口			
鋳鉄管(既設管)撤去切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) 鋳鉄管　呼び径150mm	4	口			
鋳鉄管(既設管)撤去切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) 鋳鉄管　呼び径200mm	28	口			
鋳鉄管(既設管)撤去切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) 鋳鉄管　呼び径300mm	2	口			

工 種 明 細 表

工種　第0031号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
鋳鉄管(既設管)撤去切断工(ｴﾝｼﾞﾝｶｯﾀｰ) 鋳鉄管　呼び径400mm	130	口			
ＧＸ継手取外し(呼び径 100mm) G-Linkの接合	3	口			
ＧＸ継手取外し(呼び径 200mm) G-Linkの接合	1	口			
ＧＸ継手取外し(呼び径 300mm) G-Linkの接合	1	口			
鋳鉄製仕切弁(機械力)撤去 縦型仕切弁　呼び径　100mm以下	6	基			
鋳鉄製仕切弁(機械力)撤去 縦型仕切弁　呼び径　150mm	1	基			
鋳鉄製仕切弁(機械力)撤去 縦型仕切弁　呼び径　200mm	4	基			
円形1号ﾎﾞｯｸｽ撤去工 鉄蓋撤去含む	11	箇所			
消火栓(地下式 単口)撤去工 機械施工　ﾌﾗﾝｼﾞ接合1口含む	3	箇所			

工 種 明 細 表

工種　第0031号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
円形3号ﾎﾞｯｸｽ設置工 鉄蓋設置含む	3	箇所			
鉄 屑	41.0	t			
現場発生品・支給品運搬 ;ｱﾗｲﾒﾀﾙ(7.8km)	21	回			
モルタル充填工	11.2	m3			施工　第0-0029号内訳表
合　　計	1	式			

工 種 明 細 表

工種　第0032号明細表

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	1,020	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	462	m2			
掘削積込工	650	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	24	m3			施工　第0-0003号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	650	m3			施工　第0-0004号内訳表
仮復旧工 [密粒度[再](13)] 厚 5cm	462	m2			施工　第0-0002号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚10cm	452	m2			
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚15cm	10	m2			
フィルター層 ｔ＝40㎜以上60㎜未満 洗砂	391	m2			

既設管撤去土工

工 種 明 細 表

工種　第0032号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
埋戻工（埋戻し材->再生切込砕石）	640	m3			
ｱﾙﾐ矢板建込引抜工（両側分）	387.4	m			
土留支保工（設置＋撤去） 切梁種別 水圧式ﾊﾟｲﾌﾟｻﾎﾟｰﾄ	387.4	m			
ｱﾙﾐ製支保工賃料（軽量鋼矢板2.0m用）	387.4	m			
ｱﾙﾐ矢板整備費（基本料）		t			
ｱﾙﾐ矢板賃料		t			
合　　計	1	式			

舗装復旧工

工 種 明 細 表

工種　第0033号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
As1層部(市道車道)	(1)	式			工種　第0034号明細表
As2層部(実堀先行打替部)	(1)	式			工種　第0035号明細表
As2層部(切削ｵｰﾊﾞｰﾚｲ)	(1)	式			工種　第0036号明細表
As1層式部(市道歩道)	(1)	式			工種　第0037号明細表
合　　計	1	式			

工 種 明 細 表

工種　第0034号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	62	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	351	m2			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	18	m3			施工　第0-0003号内訳表
不陸整正工(粒調砕石) 施工幅：1.8m 以上、補足材厚3cm	351	m2			
表層(車道・路肩部) ｔ＝５０mm 密粒度ｱｽｺﾝ[再](13)	351	m2			
合　　計	1	式			

As2層部(実堀先行打替部)

工 種 明 細 表

工種　第0035号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	361	m2			
掘削積込工	18	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	18	m3			施工　第0-0003号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	18	m3			施工　第0-0004号内訳表
不陸整正工(補足材なし) 施工幅：1.8m 未満	361	m2			
基層(車道・路肩部) ｔ＝５０mm 密粒度ｱｽｺﾝ[再](13)	361	m2			
表層(車道・路肩部) ｔ＝５０mm 密粒度ｱｽｺﾝ[再](13)	361	m2			
合　　計	1	式			

As2層部(切削ｵｰﾊﾞｰﾚｲ)

工 種 明 細 表

工種　第0036号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	490	m			
切削ｵｰﾊﾞｰﾚｲ工 即日舗設一層 すりつけなし	1,570	m2			施工　第0-0030号内訳表
廃材処分工 [㈱明石資材(神戸)] 運搬距離　L=9.5km	78	m3			施工　第0-0031号内訳表
合　　計	1	式			

工 種 明 細 表

工種　第0037号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	29	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	951	m2			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	48	m3			施工　第0-0003号内訳表
不陸整正工(粒調砕石) 施工幅：1.8m 以上、補足材厚3cm	951	m2			
透水性アスファルト舗装 ｔ＝５０mm 一般･4t以下乗入部->開粒度As(13)	951	m2			
特殊ブロック舗装 作業区分->撤去	48	m2			
特殊ブロック舗装 作業区分->再利用設置 30cm×30cm(各種)	48	m2			
合　　計	1	式			

区画線工

工 種 明 細 表

工種　第0038号明細表

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
区画線工	(1)	式			工種　第0039号明細表
合　　計	1	式			

区画線工

工 種 明 細 表

工種　第0039号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
区画線設置［溶融式］ 実線　15cm　t=1.5mm	47	m			
区画線設置［溶融式］ 実線　45cm　t=1.5mm	83	m			
区画線設置［溶融式］ 矢印・記号・文字　15cm換算　t=1.5mm	91	m			
区画線設置［溶融式］ 実線　15cm　t=1.5mm	7	m			
合　　計	1	式			

交通管理工

工 種 明 細 表

工種　第0040号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
交通誘導警備員	(1)	式			工種　第0041号明細表
合　計	1	式			

交通誘導警備員

工 種 明 細 表

工種　第0041号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
交通誘導警備員B(保安要員) 昼間勤務－実働8時間(交替要員なし)	93	人日			
交通誘導警備員　B 昼間勤務－実働9時間(交替要員あり)	264	人日			
合　　計	1	式			

工 種 明 細 表

工種　第0042号明細表

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
仮設材等の運搬 製品長->12m以内		t			
仮設材等の積込み・取卸し 〔積込み取卸し(往復分)〕		t			
建設機械運搬［車載］ 路面切削機[廃材積込装置付切削幅2.0m]		式			
合　　計	1	式			

試掘調査工

工 種 明 細 表

工種　第0043号明細表

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
試掘調査工(As1層)	20	箇所			代価　第0001号内訳表
試掘調査工(As2層)	10	箇所			代価　第0002号内訳表
合　　計	1	式			

通水試験費

工 種 明 細 表

工種　第0044号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
通水試験費 給水車不要の場合	2	回			
合　　計	1	式			

試掘調査工(As1層)

代 価 表

代価　第0001号内訳表

1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	6.0	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	2.0	m2			
掘削積込工(補助的作業なし)	1.9	m3			施工　第0-0001号内訳表
掘削[人力土工] 土砂	1.0	m3			
埋戻工（埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ)	1.0	m3			
埋戻工（埋戻し材->再生切込砕石）	1.7	m3			
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚10cm	2.0	m2			
仮復旧工［密粒度[再](13)］ 厚 5cm	2.0	m2			施工　第0-0002号内訳表
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	0.1	m3			施工　第0-0003号内訳表

試掘調査工(As1層)

代 価 表

代価　第0001号内訳表

1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	2.9	m3			施工　第0-0004号内訳表
単　位　当　り	1	箇所			

試掘調査工(As2層)

代 価 表

代価　第0002号内訳表

1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	6.0	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	2.0	m2			
掘削積込工(補助的作業なし)	1.8	m3			施工　第0-0001号内訳表
掘削[人力土工] 土砂	1.0	m3			
埋戻工 (埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ)	1.0	m3			
埋戻工 (埋戻し材->再生切込砕石)	1.6	m3			
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚15cm	2.0	m2			
仮復旧工 [密粒度[再](13)] 厚 5cm	2.0	m2			施工　第0-0002号内訳表
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	0.2	m3			施工　第0-0003号内訳表

試掘調査工(As2層)

代 価 表

代価　第0002号内訳表

1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	2.8	m3			施工　第0-0004号内訳表
単　位　当　り	1	箇所			

施工単価表

施工　第0-0001号内訳表　　頁0-0082/0107

掘削積込工(補助的作業なし)

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　100　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			
ﾊﾞｯｸﾎｳ運転		時間			
合　計	100	m3			
単　位　当　り	1	m3			

施工単価表

施工　第0-0002号内訳表　　

仮復旧工 [密粒度[再](13)]

[規格１]厚 5cm　　[規格２]　　[摘要]　　100　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 (再生材) TOP13		t			
振動ﾛｰﾗ運転		日			
振動ｺﾝﾊﾟｸﾀ運転		日			
諸雑費		%			
合　計	100	m2			
単　位　当　り	1	m2			

施工単価表

施工　第0-0003号内訳表　　頁0-0084/0107

残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ)

［規格１］〔㈱明石資材(神戸)〕　　［規格２］運搬距離　L=9.5km　　［ 摘要 ］　　1　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
運搬 処理対象->As塊・Co塊（無筋）	1	m3			
処分費 ｱｽﾌｧﾙﾄ殻	1	式			
単　位　当　り	1	m3			

施工単価表

施工　第0-0004号内訳表　　頁0-0085/0107

残塊処分工(土砂)

［規格１］〔㈲ハリマ総合開発〕　［規格２］運搬距離　L=19.4km　［ 摘要 ］　1　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
運搬 　処理対象->土砂	1	m3			
処分費 　土 砂	1	式			
単　位　当　り	1	m3			

施工単価表

施工　第0-0005号内訳表　　

仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)(H=740)

［規格１］鉄蓋含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　組　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仕切弁鉄蓋(円形1号) 明石市型	1	個			
ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄM12×110 3ｹｾｯﾄ	1	個			
円形1号BOX 上部壁H=150	1	個			
円形1号BOX 中部壁H=100	1	個			
円形1号BOX 下部壁H=300	1	個			
円形1号BOX 底版H=40	1	個			
単　位　当　り	1	組			

施工単価表

施工　第0-0006号内訳表　　頁0-0087/0107

ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ75

［規格１］固定材料含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾎﾟﾘｽﾘｰﾌﾞ φ 75 粉体塗装管用	150	m			
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50㎜) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定製品 ｴｺﾏｰｸ認定品	51.0	m			
合　計	100	m			
単　位　当　り	1	m			

施工単価表

施工　第0-0008号内訳表　　頁0-0088/0107

ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ100

［規格１］固定材料含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾎﾟﾘｽﾘｰﾌﾞ φ100 粉体塗装管用	150	m			
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50㎜) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定製品 ｴｺﾏｰｸ認定品	51.0	m			
合　計	100	m			
単　位　当　り	1	m			

施工単価表

施工　第0-0009号内訳表　　頁0-0089/0107

掘削積込工(補助的作業なし)

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　100　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			
ﾊﾞｯｸﾎｳ運転		時間			
合　計	100	m3			
単　位　当　り	1	m3			

施工単価表

施工　第0-0010号内訳表　　頁0-0090/0107

ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ150

［規格１］固定材料含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾎﾟﾘｽﾘｰﾌﾞ φ150 粉体塗装管用	144	m			
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50㎜) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定製品 ｴｺﾏｰｸ認定品	83.6	m			
合　計	100	m			
単　位　当　り	1	m			

施工単価表

施工　第0-0011号内訳表　　頁0-0091/0107

消火栓ﾎﾞｯｸｽ(円形3号)(H=740)

［規格１］鉄蓋及び無収縮ﾓﾙﾀﾙ含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　組　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
消火栓鉄蓋(円形3号) 明石市型	1	個			
ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄM16×150 3ｹｾｯﾄ	1	個			
無収縮ﾓﾙﾀﾙ(25kg)	1	個			
円形3号BOX 上部壁H=200	1	個			
円形3号BOX 中部壁H=100	1	個			
円形3号BOX 下部壁H=300	1	個			
円形3号BOX 底版H=40	1	個			
単　位　当　り	1	組			

施工単価表

施工　第0-0012号内訳表　　頁0-0092/0107

ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ200

［規格１］固定材料含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾎﾟﾘｽﾘｰﾌﾞ　φ200 粉体塗装管用	144	m			
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50㎜) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定製品 ｴｺﾏｰｸ認定品	104.0	m			
合　計	100	m			
単　位　当　り	1	m			

施工単価表

施工　第0-0014号内訳表　　頁0-0093/0107

空気弁ﾎﾞｯｸｽ(円形3号)(H=740)

［規格１］鉄蓋及び無収縮ﾓﾙﾀﾙ含む　［規格２］　［ 摘要 ］　1　組　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
空気弁鉄蓋(円形3号) 明石市型	1	個			
ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄM16×150 3ｹｾｯﾄ	1	個			
無収縮ﾓﾙﾀﾙ(25kg)	1	個			
円形3号BOX 上部壁H=200	1	個			
円形3号BOX 中部壁H=100	1	個			
円形3号BOX 下部壁H=300	1	個			
円形3号BOX 底版H=40	1	個			
単　位　当　り	1	組			

施工単価表

施工　第0-0015号内訳表　　頁0-0094/0107

ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ φ300

［規格１］固定材料含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾎﾟﾘｽﾘｰﾌﾞ φ300 粉体塗装管用	140	m			
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50㎜) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定製品 ｴｺﾏｰｸ認定品	147.9	m			
合　計	100	m			
単　位　当　り	1	m			

施工単価表

施工　第0-0016号内訳表　　

仮ﾊﾞﾙﾌﾞﾎﾞｯｸｽ(損料)(H=300)

［規格１］鉄蓋含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　組　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仕切弁鉄蓋(円形1号)(損料) 明石市型	1	個			
円形1号BOX 上部壁H=150(損料)	1	個			
単　位　当　り	1	組			

施工単価表

施工　第0-0017号内訳表　　頁0-0096/0107

仮消火栓ﾎﾞｯｸｽ(損料)(H=300)

［規格１］鉄蓋含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　組　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
消火栓鉄蓋(円形3号)(損料) 明石市型	1	個			
円形3号BOX 上部壁H=200(損料)	1	個			
単　位　当　り	1	組			

施工単価表

施工　第0-0018号内訳表　　頁0-0097/0107

仮配水管布設撤去工φ80

［規格１］継手工含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮配管工φ80(75) 布設撤去	100	m			
仮配管継手工φ80(75) 設置撤去	33	口			
合　計	100	m			
単　位　当　り	1	m			

施工単価表

施工　第0-0019号内訳表　　頁0-0098/0107

仮ﾊﾞﾙﾌﾞ設置撤去工φ80

［規格１］継手工含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　基　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮ﾊﾞﾙﾌﾞ工φ80(75) 設置撤去	1	基			
仮配管継手工φ80(75) 設置撤去	1	口			
単　位　当　り	1	基			

施工単価表

施工　第0-0020号内訳表　　頁0-0099/0107

仮消火栓設置撤去工φ80

［規格１］埋設用、継手工含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　基　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮消火栓工 　設置撤去 単口 継手工1口含む	1	基			
仮配管継手工φ80(75) 　設置撤去	1	口			
単　位　当　り	1	基			

施工単価表

施工　第0-0021号内訳表　　頁0-0100/0107

仮配水管布設撤去工φ100

［規格１］継手工含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮配管工φ100 布設撤去	100	m			
仮配管継手工φ100 設置撤去	33	口			
合　計	100	m			
単　位　当　り	1	m			

施工単価表

施工　第0-0022号内訳表　　頁0-0101/0107

仮配水管布設撤去工φ150

［規格１］継手工含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮配管工φ150 布設撤去	100	m			
仮配管継手工φ150 設置撤去	33	口			
合　計	100	m			
単　位　当　り	1	m			

施工単価表

施工　第0-0023号内訳表　　

仮ﾊﾞﾙﾌﾞ設置撤去工φ150

［規格１］継手工含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　基　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮ﾊﾞﾙﾌﾞ工φ150 　設置撤去	1	基			
仮配管継手工φ150 　設置撤去	1	口			
単　位　当　り	1	基			

施工単価表

施工　第0-0024号内訳表　　頁0-0103/0107

仮消火栓設置撤去工φ150

［規格１］埋設用、継手工含む　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　基　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
仮消火栓工 　設置撤去 単口 継手工1口含む	1	基			
仮配管継手工φ150 　設置撤去	1	口			
単　位　当　り	1	基			

施工単価表

施工　第0-0029号内訳表　　頁0-0104/0107

モルタル充填工

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　10　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
モルタルC600	10.4	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車運転		時間			
養生工	10	m3			
諸雑費		%			
合　計	10	m3			
単　位　当　り	1	m3			

施工単価表

施工　第0-0030号内訳表　　頁0-0105/0107

切削ｵｰﾊﾞｰﾚｲ工

［規格１］即日舗設一層 すりつけなし　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
ﾎﾟｰﾗｽｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(ﾎﾟﾘﾏｰ改質AS新規材) TOP13		t			
ｱｽﾌｧﾙﾄ乳剤 PK-4(ﾀｯｸｺｰﾄ用)		kg			
路面切削機運転		日			
路面清掃車運転		日			
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬ運転		日			
ﾛｰﾄﾞﾛｰﾗ運転		日			
ﾀｲﾔﾛｰﾗ運転 （賃料）		日			
諸雑費		%			
合　計	100	m2			

施工単価表

施工　第0-0030号内訳表　　頁0-0106/0107

切削ｵｰﾊﾞｰﾚｲ工

[規格１]即日舗設一層 すりつけなし　　[規格２]　　[摘要]　　100　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
単　位　当　り	1	m2			

施工単価表

施工　第0-0031号内訳表　　頁0-0107/0107

廃材処分工

［規格１］［㈱明石資材(神戸)］　［規格２］運搬距離　L=9.5km　［ 摘要 ］　1　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
運搬 処理対象->As塊・Co塊（無筋）	1	m3			
処分費 ｱｽﾌｧﾙﾄ殻	1	式			
単　位　当　り	1	m3			

φ75配水管(材料)

直管・切管使用状況(切管の詳細は切管調書)		本数	延長	備考
直管	(L= 4.0 m)	1	4.000	
切管使用本数		1	3.200	
甲切管	DGX-P-S	1	1.400	
乙切管①	DGX-G-S	1	0.900	
乙切管 ②	DG-G-S	1	0.900	

名称・形質等			管長	当初 数量	当初 延長	備考
DGX-S	直管関係	φ75		2	7.200	
DGX	挿し受片落管	φ100×75	0.410	1	0.410	
DGX	曲管	φ75×45°	0.397	1	0.397	
DGX	両受曲管	φ75×45°	0.137	1	0.137	
DGX	継ぎ輪	φ75	0.190	1	0.190	
GX形	ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿し型)	φ75	0.490	1	0.490	
	仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)	H=740		1		
GX形	P-Linkｾｯﾄ	φ75	0.180	1	0.180	
GX形	G-Linkｾｯﾄ	φ75		4		
GX形	接合ｾｯﾄ(異形管用)	φ75		3		
GX形	ライナ	φ75		1		
	表示帯			9.0		
	ポリエチレンスリーブ	φ75		9.0		
	管明示テープ(区間距離×1.33／20＝)			1		
管材料延長計				9.004		

DGX-S φ75切管調書

直管 4.0 m

切管番号	延長	甲切管	乙切管②			乙切管 ①	管延長	残管延長	切断数	G-Link	P-Link	特殊押輪	
			1	2	3							K形	A形
1	4.00	DGX-P 1.40	DG- G 0.90			DGX-G 0.90	3.20	0.80	3	3	1		
						既設管接続箇所				1			
						計	3.20	0.80	3	4	1		

φ75配水管(手間)

名称・形質等		数量	摘要
鋳鉄管吊込み据付工	φ75	8.5 m	区間距離-仕切弁延長計
鋳鉄管切断工	φ75	3 口	
仕切弁設置工	φ75	1 箇所	
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ設置工	H=740	1 箇所	
GX継手工(直管接合)	φ75	2 口	
GX継手工(異形管接合 P-Link使用)	φ75	1 口	
GX継手工(異形管接合 G-Link使用)	φ75	4 口	
GX継手工(異形管接合)	φ75	3 口	
管明示シート工		9.0 m	
ポリエチレンスリーブ被覆工	φ75	9.0 m	
管明示テープ工	φ75	9.0 m	

φ75配水管土工集計表

	全体	土工無	土工1	土工2
延長 箇所等	9.0		2.7	6.3
会所掘 箇所	5		4	1

工　　種	合計 数量	**採用 数量**	単位	土工1	土工2
舗装版切断（As） t≦15cm	18.00	**18**	m	5.40	12.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	4.96	**5**	m2	1.49	3.47
掘削積込工	5.30	**5**	m3	1.78	3.52
残塊処分工(As)	0.42	**0.4**	m3	0.07	0.35
残塊処分工(土砂)	5.30	**5**	m3	1.78	3.52
仮復旧工(密粒度(再)(13))t=5cm	4.96	**5**	m2	1.49	3.47
路盤工(粒調砕石） t=10cm	1.49	**1**	m2	1.49	
路盤工(粒調砕石） t=15cm	3.47	**3**	m2		3.47
フィルター層（砂） t=5cm	1.49	**1**	m2	1.49	
埋戻工(再生砕石)	2.47	**2**	m3	0.74	1.73
埋戻工(スクリーニングス)	2.20	**2**	m3	0.80	1.40

φ75配水管(土工1)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤	先行路盤
昼間施工	市道	歩道一般(透水)As5cm	As5cm	粒調砕石10cm	ﾌｨﾙﾀｰ層5cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ75	0.093	0.007

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
2.7	0.55	0.90	0.05	4	1.10	矢板無

工種	施工厚	計算式							数量
		幅等		厚		延長		箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.05					2.7	×	2	5.40
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.55		×		2.7			1.49
掘削積込工	1.05	0.55	×	1.05	×	2.7			1.78
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	4	
(管断面控除)									
残塊処分工(As)		1.49	×	0.05					0.07
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量							1.78
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55		×		2.7			1.49
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.55		×		2.7			1.49
フィルター層(砂)	0.05	0.55		×		2.7			1.49
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.55	×	0.50	×	2.7			0.74
埋戻工(スクリーニングス)	0.40	0.55	×	0.40	×	2.7			0.80
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	4	
(管断面控除)		－ 0.007		×		2.7			

φ75配水管(土工2)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道10cm	As5cm	粒調砕石15cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ75	0.093	0.007

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
6.3	0.55	0.90	0.10	1	1.10	矢板無

工種	施工厚	計算式							数量
		幅等		厚		延長		箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.10					6.3	×	2	12.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.10	0.55		×		6.3			3.47
掘削積込工	1.00	0.55	×	1.00	×	6.3			3.52
(管断面控除)		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	1	
残塊処分工(As)		3.47	×	0.10					0.35
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量							3.52
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55		×		6.3			3.47
路盤工(粒調砕石)	0.15	0.55		×		6.3			3.47
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.55	×	0.50	×	6.3			1.73
埋戻工(スクリーニングス)	0.40	0.55	×	0.40	×	6.3			1.40
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	1	
(管断面控除)		－ 0.007		×		6.3			

φ100配水管(材料)

直管・切管使用状況(切管の詳細は切管調書)		本数	延長	備考
直管 (L= 4.0 m)		0	0.000	
切管使用本数		2	5.400	
甲切管	DGX-G-S	1	1.400	
乙切管①	DGX-G-S	2	4.000	

名称・形質等			管長	当初 数量	当初 延長	備考
DGX-S	直管関係	φ100		2	5.400	
DGX	曲管	φ100×45°	0.416	1	0.416	
DGX	両受曲管	φ100×45°	0.156	1	0.156	
DGX	継ぎ輪	φ100	0.200	1	0.200	
DGX	栓(異形管用)	φ100		2		
DGX	耐震型特殊分岐管	φ100×75	0.540	1	0.540	
	特殊分岐管用バルブ	φ75		1		
	特殊分岐管用中栓	φ75		2		
GX形	ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿型)	φ100	0.490	1	0.490	
	仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)	H=740		1		
GX形	G-Linkｾｯﾄ	φ100		4		
GX形	接合ｾｯﾄ(異形管用)	φ100		5		
GX形	ライナ	φ100		2		
	表示帯			7.2		
	ポリエチレンスリーブ	φ100		7.2		
	管明示テープ(区間距離×1.42／20＝)			1		
管材料延長計				7.202		

DGX-S φ100切管調書

直管 4.0 m

切管番号	延長	甲切管	乙切管②			乙切管 ①	管延長	残管延長	切断数	G-Link	P-Link	特殊押輪	
			1	2	3							K形	A形
1	4.00	DGX-G 1.40				DGX-G 2.50	3.90	0.10	2	2			
2	4.00					DGX-G 1.50	1.50	2.50	1	1			
						既設管接続箇所				1			
計							5.40	2.60	3	4			

φ100配水管(手間)

名称・形質等		数量	摘要
鋳鉄管吊込み据付工	φ100	6.7 m	区間距離-仕切弁延長計
鋳鉄管切断工	φ100	3 口	
仕切弁設置工	φ100	1 箇所	
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ設置工	H=740	1 箇所	
GX継手工(直管接合)	φ100	1 口	
GX継手工(異形管接合 G-Link使用)	φ100	4 口	
GX継手工(異形管接合)	φ100	5 口	
栓設置工	φ100	2 口	
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ設置工	φ75	1 箇所	
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ撤去工	φ75	2 箇所	
特殊分岐管用中栓設置工	φ75	2 箇所	
管明示シート工		7.2 m	
ポリエチレンスリーブ被覆工	φ100	7.2 m	
管明示テープ工	φ100	7.2 m	

φ100配水管土工集計表

	全体	土工無	土工1	土工2	土工3	土工4
延長 箇所等	7.2		1.4	2.8	3.0	2箇所
会所掘 箇所	4		1	3	0	

工　　種	合計 数量	**採用 数量**	単位	土工1	土工2	土工3	土工4
舗装版切断（As） t≦15cm	24.00	**24**	m	2.80	5.60	6.00	9.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	6.84	**7**	m2	0.77	1.54	1.65	2.88
掘削積込工	4.38	**4**	m3	0.84	1.78	1.76	
掘削積込工(補助的作業なし)	1.88	**2**	m3				1.88
掘削(人力)	1.48	**1**	m3				1.48
残塊処分工(As)	0.38	**0.4**	m3	0.08	0.08	0.08	0.14
残塊処分工(土砂)	7.74	**8**	m3	0.84	1.78	1.76	3.36
仮復旧工(密粒度(再)(13))	6.84	**7**	m2	0.77	1.54	1.65	2.88
路盤工(粒調砕石） t=10cm	6.07	**6**	m2		1.54	1.65	2.88
路盤工(粒調砕石） t=15cm	0.77	**0.8**	m2	0.77			
フィルター層（砂） t=5cm	1.65	**2**	m2			1.65	
埋戻工(再生砕石）	3.65	**4**	m3	0.39	0.85	0.83	1.58
埋戻工(スクリーニングス）	3.28	**3**	m3	0.36	0.78	0.66	1.48

φ100配水管(土工1)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道10cm	As5cm	粒調砕石15cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ100	0.118	0.011

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
1.4	0.55	0.90	0.10	1	1.12	矢板無

工種	施工厚	計算式							数量
		幅等		厚		延長		箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.10					1.4	×	2	2.80
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.10	0.55		×		1.4			0.77
掘削積込工	1.02	0.55	×	1.02	×	1.4			0.84
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	1	
(管断面控除)									
残塊処分工(As)		0.77	×	0.10					0.08
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量							0.84
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55		×		1.4			0.77
路盤工(粒調砕石)	0.15	0.55		×		1.4			0.77
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.55	×	0.50	×	1.4			0.39
埋戻工(スクリーニングス)	0.42	0.55	×	0.42	×	1.4			0.36
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	1	
(管断面控除)		― 0.011		×		1.4			

φ100配水管(土工2)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道5cm	As5cm	粒調砕石10cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ100	0.118	0.011

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
2.8	0.55	0.90	0.05	3	1.12	矢板無

既設管

管種	撤去延長	管外径	管断面積
鋳鉄管φ100	2.80	0.118	0.0110

工種	施工厚	計算式							数量
		幅等		厚		延長		箇所等	
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05					2.8	×	2	5.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.55		×		2.8			1.54
掘削積込工	1.07	0.55	×	1.07	×	2.8			1.78
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	3	
(管断面控除)		― 0.011		×		2.8			
残塊処分工(As)		1.54	×	0.05					0.08
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量							1.78
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55		×		2.8			1.54
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.55		×		2.8			1.54
埋戻工(再生砕石)	0.55	0.55	×	0.55	×	2.8			0.85
埋戻工(スクリーニングス)	0.42	0.55	×	0.42	×	2.8			0.78
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	3	
(管断面控除)		― 0.011		×		2.8			

φ100配水管(土工3)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤	先行路盤
昼間施工	市道	歩道一般(透水)As5cm	As5cm	粒調砕石10cm	フィルター層5cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ100	0.118	0.011

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
3.0	0.55	0.90	0.05	0	1.12	矢板無

既設管

管種	撤去延長	管外径	管断面積
鋳鉄管φ100	0.90	0.118	0.0110

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.05				3.0 ×	2	6.00
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.55		×	3.0		1.65
掘削積込工	1.07	0.55 ×		1.07 ×	3.0		1.76
(管断面控除)		— 0.011		×	0.9		
残塊処分工(As)		1.65 ×		0.05			0.08
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					1.76
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55		×	3.0		1.65
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.55		×	3.0		1.65
フィルター層(砂)	0.05	0.55		×	3.0		1.65
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.55 ×		0.50 ×	3.0		0.83
埋戻工(スクリーニングス)	0.42	0.55 ×		0.42 ×	3.0		0.66
(管断面控除)		— 0.011		×	3.0		

φ100栓設置(土工4)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道	As5cm	粒調砕石10cm

施工管種

管種	管外径	管断面積
鋳鉄管φ100	0.118	0.011

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.20	1.20	0.20	0.90	1.22	0.05

工種	施工厚	計算式							数量	2箇所計
		幅等		厚		延長		箇所等		
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05	1.20	×	2	＋	1.20	×	2	4.80	9.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	1.20			×	1.20			1.44	2.88
掘削積込工(補助的作業なし)	0.65	1.20	×	0.65	×	1.20			0.94	1.88
掘削(人力)	0.52	1.20	×	0.52	×	1.20			0.74	1.48
(管断面控除)		ー 0.011			×	1.20				
残塊処分工(As)		1.44	×	0.05					0.07	0.14
残塊処分工(土砂)		0.94	＋	0.74					1.68	3.36
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.20			×	1.20			1.44	2.88
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.20			×	1.20			1.44	2.88
埋戻工(再生砕石)	0.55	1.20	×	0.55	×	1.20			0.79	1.58
埋戻工(スクリーニングス)	0.52	1.20	×	0.52	×	1.2			0.74	1.48
(管断面控除)		ー 0.011			×	1.2				

φ150配水管(材料)

直管・切管使用状況(切管の詳細は切管調書)		本数	延長	備考
直管 (L= 5.0 m)				
切管使用本数		1	1.800	
乙切管①	DGX-G-S	1	0.900	
乙切管 ②	DG-G-S	1	0.900	

名称・形質等			管長	当初 数量	当初 延長	備考
DGX-S	直管関係	φ150		1	1.800	
DGX	継ぎ輪	φ150	0.240	1	0.240	
DGX	両受短管	φ150	0.020	1	0.020	
	バルブ付耐震型割丁字管(特殊短管)	φ150×150	0.430	1	0.430	K挿し・密着コア含
	不断水簡易ﾊﾞﾙﾌﾞ	φ150		1		
GX形	ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿型)	φ150	0.550	1	0.550	
	仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)	H=740		2		
GX形	G-Linkｾｯﾄ	φ150		4		
GX形	接合ｾｯﾄ(異形管用)	φ150		1		
DK	帽	φ150		1		特殊押輪3DkN含
	表示帯			3.0		
	ポリエチレンスリーブ	φ150		3.0		
	管明示テープ(区間距離×1.64／20＝)			1		
管材料延長計				3.040		

DGX-S φ150切管調書

直管　5.0 m

切管番号	延長	甲切管	乙切管②			乙切管 ①	管延長	残管延長	切断数	G-Link	P-Link	特殊押輪	
			1	2	3							K形	A形
1	5.00		DG-　G　0.90			DGX-G　0.90	1.80	3.20	2	3			
						既設管接続箇所				1			
計							1.80	3.20	2	4			

φ150配水管(手間)

名称・形質等		数量	摘要
鋳鉄管吊込み据付工	φ150	2.5 m	区間距離-仕切弁延長計
鋳鉄管切断工	φ150	2 口	
不断水連絡工	φ150×φ150	1 箇所	
密着コア取付工	φ150	1 箇所	
不断水バルブ設置工	φ150	1 箇所	
仕切弁設置工	φ150	1 箇所	
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ設置工	H=740	2 箇所	
GX継手工(異形管接合 G-Link使用)	φ150	4 口	
GX継手工(異形管接合)	φ150	1 口	
帽設置工	φ150	1 口	
管明示シート工		3.0 m	
ポリエチレンスリーブ被覆工	φ150	3.0 m	
管明示テープ工	φ150	3.0 m	

φ150配水管土工集計表

	全体	土工無	土工1	土工2	土工3	土工4	土工5
延長 箇所等	3		2.4	0.6	1箇所	1 箇所	1 箇所
会所掘 箇所	4		4	0			

工　　種	合計 数量	**採用 数量**	単位	土工1	土工2	土工3	土工4	土工5
舗装版切断（As） t≦15cm	20.20	**20**	m	4.80	1.20	5.00	4.20	5.00
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	5.87	**6**	m2	1.32	0.33	1.56	1.10	1.56
掘削積込工	2.05	**2**	m3	1.70	0.35			
掘削積込工(補助的作業なし)	3.17	**3**	m3			1.17	0.83	1.17
掘削(人力)	2.44	**2**	m3			0.86	0.72	0.86
残塊処分工(As)	0.32	**0.3**	m3	0.07	0.03	0.08	0.06	0.08
残塊処分工(土砂)	7.66	**8**	m3	1.70	0.35	2.03	1.55	2.03
仮復旧工(密粒度(再)(13))	5.87	**6**	m2	1.32	0.33	1.56	1.10	1.56
路盤工(粒調砕石） t=10cm	5.54	**6**	m2	1.32		1.56	1.10	1.56
路盤工(粒調砕石） t=15cm	0.33	**0.3**	m2		0.33			
フィルター層（砂） t=5cm	3.98	**4**	m2	1.32			1.10	1.56
埋戻工(再生砕石)	3.44	**3**	m3	0.66	0.17	1.01	0.66	0.94
埋戻工(スクリーニングス)	3.37	**3**	m3	0.79	0.14	0.86	0.72	0.86

φ150配水管(土工1)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤	先行路盤
昼間施工	市道	歩道一般(透水)As5cm	As5cm	粒調砕石10cm	ﾌｨﾙﾀｰ層5cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ150	0.169	0.022

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
2.4	0.55	0.90	0.05	4	1.17	矢板無

工種	施工厚	計算式							数量
		幅等		厚		延長		箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.05					2.4	×	2	4.80
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.55		×		2.4			1.32
掘削積込工	1.12	0.55	×	1.12	×	2.4			1.70
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	4	
(管断面控除)									
残塊処分工(As)		1.32	×	0.05					0.07
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量							1.70
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55		×		2.4			1.32
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.55		×		2.4			1.32
フィルター層(砂)	0.05	0.55		×		2.4			1.32
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.55	×	0.50	×	2.4			0.66
埋戻工(スクリーニングス)	0.47	0.55	×	0.47	×	2.4			0.79
		＋ 0.55	×	0.20	×	0.50	×	4	
(管断面控除)		－ 0.022			×	2.4			

φ150配水管(土工2)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道10cm	As5cm	粒調砕石15cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ150	0.169	0.022

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
0.6	0.55	0.90	0.10	0	1.17	矢板無

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.10				0.6 ×	2	1.20
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.10	0.55		×	0.6		0.33
掘削積込工	1.07	0.55 ×		1.07 ×	0.6		0.35
(管断面控除)							
残塊処分工(As)		0.33 ×		0.10			0.03
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					0.35
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55		×	0.6		0.33
路盤工(粒調砕石)	0.15	0.55		×	0.6		0.33
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.55 ×		0.50 ×	0.6		0.17
埋戻工(スクリーニングス)	0.47	0.55 ×		0.47 ×	0.6		0.14
(管断面控除)		ー	0.022	×	0.6		

φ150帽設置(土工3)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道	As5cm	粒調砕石10cm

施工管種

管種	管外径	管断面積
鋳鉄管φ150	0.169	0.022

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.30	1.20	0.20	1.00	1.37	0.05

工種	施工厚	計算式								数量	1箇所計
		幅等		厚		延長		箇所等			
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05	1.20	×	2	＋	1.30	×	2		5.00	5.00
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	1.20			×	1.30				1.56	1.56
掘削積込工(補助的作業なし)	0.75	1.20	×	0.75	×	1.30				1.17	1.17
掘削(人力) (管断面控除)	0.57	1.20 － 0.022	×	0.57	× ×	1.30 1.30				0.86	0.86
残塊処分工(As)		1.56	×	0.05						0.08	0.08
残塊処分工(土砂)		1.17	＋	0.86						2.03	2.03
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.20			×	1.30				1.56	1.56
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.20			×	1.30				1.56	1.56
埋戻工(再生砕石)	0.65	1.20	×	0.65	×	1.30				1.01	1.01
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.57	1.20 － 0.022	×	0.57	× ×	1.3 1.3				0.86	0.86

φ150割丁字管（土工4）

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤	先行路盤
昼間施工	市道	歩道一般(透水)As5cm	As5cm	粒調砕石10cm	ﾌｨﾙﾀｰ層5cm

施工管種

分岐元管種	分岐口径	管外径	管断面積
鋳鉄管φ150	150	0.169	0.022

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.00	1.10	0.30	1.00	1.47	0.05

工種	施工厚	計算式								数量	1箇所計
		幅等		厚		延長		箇所等			
舗装版切断（As） t≦15cm	0.05	1.10	×	2	＋	1.00	×	2		4.20	4.20
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	1.10			×	1.00				1.10	1.10
掘削積込工(補助的作業なし)	0.75	1.10	×	0.75	×	1.00				0.83	0.83
掘削(人力)	0.67	1.10	×	0.67	×	1.00				0.72	0.72
(管断面控除)		－ 0.022			×	1.00					
残塊処分工(As)		1.10	×	0.05						0.06	0.06
残塊処分工(土砂)		0.83	＋	0.72						1.55	1.55
仮復旧工(密粒度(再)(13))t=5cm歩道	0.05	1.10			×	1.00				1.10	1.10
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.10			×	1.00				1.10	1.10
フィルター層(砂)	0.05	1.10			×	1.00				1.10	1.10
埋戻工(再生砕石)	0.60	1.10	×	0.60	×	1.00				0.66	0.66
埋戻工(スクリーニングス)	0.67	1.10	×	0.67	×	1.0				0.72	0.72
(管断面控除)		－ 0.022			×	1.0					

φ150不断水バルブ(土工5)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤	先行路盤
昼間施工	市道	歩道一般(透水)As5cm	As5cm	粒調砕石10cm	フィルター層5cm

施工管種

管種	管外径	管断面積
鋳鉄管φ150	0.169	0.022

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.30	1.20	0.20	1.00	1.37	0.05

工種	施工厚	計算式								数量	1箇所計
		幅等		厚		延長		箇所等			
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05	1.20	×	2	＋	1.30	×	2		5.00	5.00
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	1.20			×	1.30				1.56	1.56
掘削積込工(補助的作業なし)	0.75	1.20	×	0.75	×	1.30				1.17	1.17
掘削(人力) (管断面控除)	0.57	1.20 － 0.022	×	0.57	× ×	1.30 1.30				0.86	0.86
残塊処分工(As)		1.56	×	0.05						0.08	0.08
残塊処分工(土砂)		1.17	＋	0.86						2.03	2.03
仮復旧工(密粒度(再)(13))t=5cm歩道	0.05	1.20			×	1.30				1.56	1.56
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.20			×	1.30				1.56	1.56
フィルター層(砂)	0.05	1.20			×	1.30				1.56	1.56
埋戻工(再生砕石)	0.60	1.20	×	0.60	×	1.30				0.94	0.94
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.57	1.20 － 0.022	×	0.57	× ×	1.3 1.3				0.86	0.86

φ200配水管(材料)

直管・切管使用状況(切管の詳細は切管調書)		当初 本数	当初 延長	備考
直管 (L= 5.0 m)		4	20.000	
切管使用本数		6	25.100	
甲切管	DGX-P-S	1	2.200	
	DGX-G-S	4	5.700	
	DGX-K-S	1	2.400	
乙切管①	DGX-G-S	6	9.800	
乙切管 ②	DG-G-S	5	5.000	

名称・形質等			管長	当初 数量	当初 延長	備考
DGX-S	直管関係	φ200		10	45.100	
DGX	曲管	φ200×45°	0.522	7	3.654	
DGX	両受曲管	φ200×45°	0.232	5	1.160	
DGX	ﾌﾗﾝｼﾞ付きT字管	φ200×φ75	0.470	1	0.470	
DGX	継ぎ輪	φ200	0.250	4	1.000	
DGX	耐震型特殊分岐管	φ200×φ100	0.625	1	0.625	
	特殊分岐管用バルブ	φ100		1		
	特殊分岐管用中栓	φ100		2		
	バルブ付耐震型割T字管(K受)	φ200×φ200		1		密着コア含む
	不断水簡易ﾊﾞﾙﾌﾞ	φ200		1		
GX形	ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿型)	φ200	0.610	4	2.440	
	仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)	H=740		5		
	ｹﾚｯﾌﾟ式単口消火栓(浅埋形)	φ75×φ65		1		
	ﾌﾗﾝｼﾞ短管	φ75×150		1		
	補修弁(ｷｬｯﾌﾟ式)	φ75×100		1		
	ﾌﾗﾝｼﾞ接合補強金具(LSP形)	φ75		3		
	消火栓ﾎﾞｯｸｽ(円形3号)	H=740		1		
GX形	P-Linkｾｯﾄ	φ200	0.220	1	0.220	
GX形	G-Linkｾｯﾄ	φ200		24		
GX形	接続部品	φ200		11		
GX形	ライナ	φ200		7		
DK	曲管	φ200×45°	0.715	2	1.430	
DK	帽	φ200		1		特殊押輪3DkN含
	特殊押輪(3DkN)	φ200		2		
	表示帯			56.1		
	ポリエチレンスリーブ	φ200		56.1		
	管明示テープ(区間距離×1.83／20＝)			6		
管材料延長計				56.099		

DGX-S φ200切管調書

直管　5.0 m

切管番号	延長	甲切管	乙切管②			乙切管 ①	管延長	残管延長	切断数	G-Link	P-Link	特殊押輪	
			1	2	3							K形	A形
1	5.00	DGX-G 1.00	DG- G 0.90	DG- G 1.50		DGX-G 1.00	4.40	0.60	4	6			
2	5.00	DGX-G 0.90	DG- G 0.90			DGX-G 1.00	2.80	2.20	3	4			
3	5.00	DGX-G 1.40	DG- G 0.90			DGX-G 2.20	4.50	0.50	3	4			
4	5.00	DGX-G 2.40				DGX-G 2.40	4.80	0.20	2	2			
5	5.00	DGX-K 2.40				DGX-G 2.40	4.80	0.20	2	1		1	
6	5.00	DGX-P 2.20	DG- G 0.80			DGX-G 0.80	3.80	1.20	3	3	1		
						既設管接続箇所				4			
計							25.10	4.90	17	24	1	1	

φ200配水管(手間)

名称・形質等		当初数量	摘要
鋳鉄管吊込み据付工	φ200	53.7 m	区間距離-仕切弁延長計
鋳鉄管切断工	φ200	17 口	
不断水連絡工	φ200×φ200	1 箇所	
不断水バルブ設置工	φ200	1 箇所	
仕切弁設置工	φ200	4 箇所	
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ設置工	H=740	5 箇所	
消火栓設置工		1箇所	フランジ継手工φ75 1口含む
ﾌﾗﾝｼﾞ継手工	φ75	2 口	消火栓箇所
消火栓ﾎﾞｯｸｽ設置工	H=740	1 箇所	
GX継手工(直管接合)	φ200	10 口	
GX継手工(異形管接合 G-Link使用)	φ200	24 口	
GX継手工(異形管接合)	φ200	11 口	
帽設置工	φ200	1 口	
メカニカル継手工(特殊押輪)	φ200	2 口	
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ設置工	φ100	1 箇所	
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞ撤去工	φ100	2 箇所	
特殊分岐管用中栓設置工	φ100	2 箇所	
管明示シート工		56.1 m	
ポリエチレンスリーブ被覆工	φ200	56.1 m	
管明示テープ工	φ200	56.1 m	

φ200配水管土工集計表

	全体	土工無	土工1	土工2	土工3	土工4	土工5
延長 箇所等	56.1		13.8	42.3	1 箇所	1箇所	1箇所
会所掘 箇所	27		4	23			

工　　種	合計 数量	**採用 数量**	単位	土工1	土工2	土工3	土工4	土工5
舗装版切断（As） t≦15cm	129.20	**130**	m	27.60	84.60	5.80	5.40	5.80
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	39.56	**40**	m2	8.28	25.38	2.04	1.82	2.04
掘削積込工	37.78	**38**	m3	9.51	28.27			
掘削積込工(補助的作業なし)	5.61	**6**	m3			1.94	1.73	1.94
掘削(人力)	3.84	**4**	m3			1.20	1.44	1.20
残塊処分工(As)	2.39	**2**	m3	0.83	1.27	0.10	0.09	0.10
残塊処分工(土砂)	47.23	**47**	m3	9.51	28.27	3.14	3.17	3.14
仮復旧工(密粒度(再)(13))	39.56	**40**	m2	8.28	25.38	2.04	1.82	2.04
路盤工(粒調砕石） t=10cm	31.28	**31**	m2		25.38	2.04	1.82	2.04
路盤工(粒調砕石） t=15cm	8.28	**8**	m2	8.28				
埋戻工(再生砕石）	20.57	**21**	m3	4.14	11.42	1.73	1.55	1.73
埋戻工(スクリーニングス)	20.83	**21**	m3	4.02	12.97	1.20	1.44	1.20
軽量鋼矢板設置撤去工 H=2.0m	3.40	**3.4**	m			1.70		1.70
軽量鋼矢板設置撤去工 H=2.5m	1.40	**1.4**	m				1.40	

φ200 矢板数量計算表

土工	矢板種別	矢板延長
土工3	軽量鋼矢板H=2.0m	1.7 m
土工4	軽量鋼矢板H=2.5m	1.4 m
土工5	軽量鋼矢板H=2.0m	1.7 m

軽量鋼矢板

（連続して使用しない箇所）

工種	種別	延長	計算式
軽量鋼矢板建込引抜工(両側分)	H=2.0m	3.4 m	
	H=2.5m	1.4 m	
土留支保工(設置+撤去)	1段H=2.0m以下	3.4 m	
	2段H=3.5m以下	1.4 m	
アルミ製支保工賃料	H=2.0m　1段	3.4 m	
	H=2.5m　2段	1.4 m	
鋼矢板賃料(施工延長×矢板深さ×2(両側)×0.01515)	H=2.0m	0.8 t	3.4*2.0*2*0.0592
	H=2.5m	0.4 t	1.4*2.5*2*0.0592
鋼矢板賃料計		1.2 t	
鋼矢板修理及び損耗費(鋼矢板賃料計と同量)		1.2 t	

φ200配水管(土工1)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道10cm	As5cm	粒調砕石15cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ200	0.220	0.038

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
13.8	0.60	0.90	0.10	4	1.22	矢板無

工種	施工厚	計算式							数量
		幅等		厚		延長		箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.10					13.8	×	2	27.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.10	0.60		×		13.8			8.28
掘削積込工	1.12	0.60	×	1.12	×	13.8			9.51
		＋ 0.60	×	0.20	×	0.50	×	4	
(管断面控除)									
残塊処分工(As)		8.28	×	0.10					0.83
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量							9.51
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.60		×		13.8			8.28
路盤工(粒調砕石)	0.15	0.60		×		13.8			8.28
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.60	×	0.50	×	13.8			4.14
埋戻工(スクリーニングス)	0.52	0.60	×	0.52	×	13.8			4.02
		＋ 0.60	×	0.20	×	0.50	×	4	
(管断面控除)		－ 0.038		×		13.8			

φ200配水管(土工2)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道5cm	As5cm	粒調砕石10cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ200	0.220	0.038

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
42.3	0.60	0.90	0.05	23	1.12	矢板無

既設管

管種	撤去延長	管外径	管断面積
鋳鉄管φ200	7.00	0.220	0.0380

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.05					42.3 ×	2	84.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.60		×		42.3		25.38
掘削積込工	1.07	0.60	×	1.07	×	42.3		28.27
		＋ 0.60	×	0.20	×	0.50 ×	23	
(管断面控除)		― 0.038		×		7.0		
残塊処分工(As)		25.38	×	0.05				1.27
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量						28.27
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.60		×		42.3		25.38
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.60		×		42.3		25.38
埋戻工(再生砕石)	0.45	0.60	×	0.45	×	42.3		11.42
埋戻工(スクリーニングス)	0.52	0.60	×	0.52	×	42.3		12.97
		＋ 0.60	×	0.20	×	0.50 ×	23	
(管断面控除)		― 0.038		×		42.3		

φ200帽設置工(土工3)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道	As5cm	粒調砕石10cm

施工管種

管種	管外径	管断面積
鋳鉄管φ200	0.220	0.038

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.70	1.20	0.20	1.20	1.62	0.05

工種	施工厚	計算式				数量	1箇所計
		幅等	厚	延長	箇所等		
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05	1.20 ×	2 ＋	1.70 ×	2	5.80	5.80
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	1.20	×	1.70		2.04	2.04
掘削積込工(補助的作業なし)	0.95	1.20 ×	0.95 ×	1.70		1.94	1.94
掘削(人力) (管断面控除)	0.62	1.20 × － 0.038	0.62 × ×	1.70 1.70		1.20	1.20
残塊処分工(As)		2.04 ×	0.05			0.10	0.10
残塊処分工(土砂)		1.94 ＋	1.20			3.14	3.14
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.20	×	1.70		2.04	2.04
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.20	×	1.70		2.04	2.04
埋戻工(再生砕石)	0.85	1.20 ×	0.85 ×	1.70		1.73	1.73
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.62	1.20 × － 0.038	0.62 × ×	1.7 1.7		1.20	1.20
軽量鋼矢板設置撤去工	H=2.0	1.7				1.70	1.70

φ200割丁字管（土工4）

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行仮路盤	
昼間施工	市道	車道5cm	As5cm	粒調砕石10cm	

施工管種

分岐元管種	分岐口径	管外径	管断面積
鋳鉄管φ200	200	0.220	0.038

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.40	1.30	0.40	1.20	1.82	0.05

工種	施工厚	計算式								数量	1箇所計
		幅等		厚		延長		箇所等			
舗装版切断（As） t≦15cm	0.05	1.30	×	2	＋	1.40	×	2		5.40	5.40
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	1.30			×	1.40				1.82	1.82
掘削積込工(補助的作業なし)	0.95	1.30	×	0.95	×	1.40				1.73	1.73
掘削(人力)	0.82	1.30	×	0.82	×	1.40				1.44	1.44
(管断面控除)		－ 0.038			×	1.40					
残塊処分工(As)		1.82	×	0.05						0.09	0.09
残塊処分工(土砂)		1.73	＋	1.44						3.17	3.17
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.30			×	1.40				1.82	1.82
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.30			×	1.40				1.82	1.82
埋戻工(再生砕石)	0.85	1.30	×	0.85	×	1.40				1.55	1.55
埋戻工(スクリーニングス)	0.82	1.30	×	0.82	×	1.4				1.44	1.44
(管断面控除)		－ 0.038			×	1.4					
軽量鋼矢板設置撤去工	H=2.5	1.4								1.40	1.40

φ200不断水バルブ(土工5)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道	As5cm	粒調砕石10cm

施工管種

管種	管外径	管断面積
鋳鉄管φ200	0.220	0.038

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.70	1.20	0.20	1.20	1.62	0.05

工種	施工厚	計算式								数量	1箇所計
		幅等		厚		延長		箇所等			
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05	1.20	×	2	＋	1.70	×	2		5.80	5.80
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	1.20			×	1.70				2.04	2.04
掘削積込工(補助的作業なし)	0.95	1.20	×	0.95	×	1.70				1.94	1.94
掘削(人力) (管断面控除)	0.62	1.20 － 0.038	×	0.62	× ×	1.70 1.70				1.20	1.20
残塊処分工(As)		2.04	×	0.05						0.10	0.10
残塊処分工(土砂)		1.94	＋	1.20						3.14	3.14
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.20			×	1.70				2.04	2.04
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.20			×	1.70				2.04	2.04
埋戻工(再生砕石)	0.85	1.20	×	0.85	×	1.70				1.73	1.73
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.62	1.20 － 0.038	×	0.62	× ×	1.7 1.7				1.20	1.20
軽量鋼矢板設置撤去工	H=2.0	1.7								1.70	1.70

φ300配水管(材料)

直管・切管使用状況(切管の詳細は切管調書)		本数	延長	備考
直管 (L= 6.0 m)		75	450.000	
切管使用本数		8	15.100	
甲切管	DGX-P-S	2	2.500	
	DGX-G-S	6	11.600	
乙切管①	DGX-K-S	1	1.000	

名称・形質等			管長	当初 数量	当初 延長	備考
DGX-S	直管関係	φ300		83	465.100	
DGX	曲管	φ300×5° 5/8	0.375	16	6.000	
DGX	二受T字管	φ300×φ100	0.480	2	0.960	
DGX	二受T字管	φ300×φ150	0.540	1	0.540	
DGX	二受T字管	φ300×φ200	0.650	4	2.600	
DGX	F付T字管	φ300×φ75	0.460	4	1.840	
DGX	両受短管	φ300	0.020	1	0.020	
GX形	ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁(受挿型)	φ300	0.700	2	1.400	
	仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(円形1号)	H=740		2		
	ｶﾑﾛｯｸ式空気弁	φ75×φ25		1		補修弁含
	ｹﾚｯﾌﾟ式消火栓(単口)	φ75×φ65		3		
	ﾌﾗﾝｼﾞ短管	φ75×150		4		
	補修弁(ｷｬｯﾌﾟ式)	φ75×100		3		
	ﾌﾗﾝｼﾞ接合補強金具(LSP形)	φ75		12		
	空気弁ﾎﾞｯｸｽ(円形3号)	H=740		1		
	消火栓ﾎﾞｯｸｽ(円形3号)	H=740		3		
GX形	P-Linkｾｯﾄ	φ300	0.267	2	0.534	
GX形	G-Linkｾｯﾄ	φ300		7		
GX形	接続部品	φ300		24		
GX形	ライナ	φ300		31		
DGX	栓(異形管用)	φ300		1		
DK	帽	φ300		1		特殊押輪3DkN含
	表示帯			479.0		
	ポリエチレンスリーブ	φ300		479.0		
	管明示テープ(区間距離×2.02／20＝)			49		
管材料延長計				478.994		

DGX-S φ300切管調書

直管　6.0 m

切管番号	延長	甲切管	乙切管②			乙切管 ①	管延長	残管延長	切断数	G-Link	P-Link	特殊押輪	
			1	2	3							K形	A形
1	6.00	DGX-G 4.20					4.20	1.80	1	1			
2	6.00	DGX-P 1.00					1.00	5.00	1		1		
3	6.00	DGX-G 1.00					1.00	5.00	1	1			
4	6.00	DGX-G 0.90					0.90	5.10	1	1			
5	6.00	DGX-G 1.00					1.00	5.00	1	1			
6	6.00	DGX-G 3.50					3.50	2.50	1	1			
7	6.00	DGX-P 1.50					1.50	4.50	1		1		
8	6.00	DGX-G 1.00				DGX-K 1.00	2.00	4.00	2	1		1	
						既設管接続箇所				1			
計							15.10	32.90	9	7	2	1	

φ300配水管(手間)

名称・形質等		当初数量	摘要
鋳鉄管吊込み据付工	φ300	477.6 m	区間距離-仕切弁延長計
鋳鉄管切断工	φ300	9 口	
仕切弁設置工	φ300	2 箇所	
仕切弁ﾎﾞｯｸｽ設置工	H=740	2 箇所	
空気弁設置工		1箇所	
消火栓設置工		3箇所	フランジ継手工φ75 1口含む
ﾌﾗﾝｼﾞ継手工	φ75	9 口	空気弁・消火栓箇所
空気弁ﾎﾞｯｸｽ設置工	H=740	1 箇所	
消火栓ﾎﾞｯｸｽ設置工	H=740	3 箇所	
GX継手工(直管接合)	φ300	83 口	
GX継手工(異形管接合 P-Link使用)	φ300	2 口	
GX継手工(異形管接合 G-Link使用)	φ300	7 口	
GX継手工(異形管接合)	φ300	24 口	
栓設置工	φ300	1 口	
帽設置工	φ300	1 口	
管明示シート工		479.0 m	
ポリエチレンスリーブ被覆工	φ300	479.0 m	
管明示テープ工	φ300	479.0 m	

φ300配水管土工集計表

	全体	土工無	土工1
延長 箇所等	479.0		479.0
会所掘 箇所	9		9

工　　種	合計 数量	**採用 数量**	単位	土工1
舗装版切断（As） t≦15cm	958.00	**960**	m	958.00
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	335.30	**335**	m2	335.30
掘削積込工	413.05	**410**	m3	413.05
残塊処分工(As)	33.53	**34**	m3	33.53
残塊処分工(土砂)	413.05	**410**	m3	413.05
仮復旧工(密粒度(再)(13))	335.30	**335**	m2	335.30
路盤工(粒調砕石） t=15cm	335.30	**335**	m2	335.30
埋戻工(再生砕石)	167.65	**170**	m3	167.65
埋戻工(スクリーニングス)	172.59	**170**	m3	172.59

φ300配水管(土工1)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道10cm	As5cm	粒調砕石15cm

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ300	0.323	0.082

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	会所掘数	掘削深(H)	矢板
479.0	0.70	0.90	0.10	9	1.33	矢板無

工種	施工厚	計算式							数量
		幅等		厚		延長		箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.10					479.0	×	2	958.00
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.10	0.70		×		479.0			335.30
掘削積込工	1.23	0.70	×	1.23	×	479.0			413.05
(管断面控除)		＋ 0.70	×	0.20	×	0.50	×	9	
残塊処分工(As)		335.30	×	0.10					33.53
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量							413.05
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.70		×		479.0			335.30
路盤工(粒調砕石)	0.15	0.70		×		479.0			335.30
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.70	×	0.50	×	479.0			167.65
埋戻工(スクリーニングス)	0.63	0.70	×	0.63	×	479.0			172.59
(管断面控除)		＋ 0.70	×	0.20	×	0.50	×	9	
		－ 0.082		×		479.0			

仮配水管数量計算書(材料・手間)

仮配水管総延長及び使用個数

口径別	総延長 (土工延長) (m)	仮バルブ (個)	仮消火栓 (個)	仮給水管取出(箇所)						仮マルチジョイント(個)
				20	25	30	40	50	75	
全口径	**36.2**	**4**	**2**							
80	15.0	2	1							
100	1.0									
150	20.2	2	1							

口径別材料(賃料)及び設置撤去手間

種類	口径	材料			手間	
					設置	撤去
仮配管材	φ80	14.2			14.2	14.2
仮バルブ	φ80	0.269	2	0.538	2	2
仮消火栓	φ80	0.226	1	0.226	1	1
仮配管材	φ100	1.0			1.0	1.0
仮配管材	φ150	19.0			19.0	19.0
仮バルブ	φ150	0.387	2	0.774	2	2
仮消火栓	φ150	0.378	1	0.378	1	1

仮配水管土工種別表

分岐元口径	延長(m)	市道車道 As5cm	市道歩道 As5cm			
合計	36.2	32.4	3.8			
80		土工1	土工2			
	15.0	11.2	3.8			
100		土工3				
	1.0	1.0				
150		土工4				
	20.2	20.2				

仮配水管・仮給水管土工集計表

工　　種	合計数量	採用数量	単位	小計	
				設置	撤去
舗装版切断（As） t≦15cm	72.40	72	m	72.40	
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	30.98	31	m2	15.49	15.49
掘削積込工	5.88	6	m3	5.88	
掘削積込工(補助的作業なし)	2.32	2	m3		2.32
掘削(人力)	3.11	3	m3		3.11
残塊処分工(As)	1.54	2	m3	0.77	0.77
残塊処分工(土砂)	6.59	7	m3	5.88	0.71
仮復旧工(密粒度(再)(13))	30.98	31	m2	15.49	15.49
路盤工(粒調砕石) t=10cm	15.49	15	m2		15.49
フィルター層(砂)	1.52	2	m2		1.52
埋戻工(再生砕石)	2.32	2	m3	2.32	
埋戻工(流用土)	4.25	4	m3		4.25
埋戻工(スクリーニングス)	3.11	3	m3	3.11	

工　　種	小計	設置			
		仮配水管			
		土工1	土工2	土工3	土工4
舗装版切断（As） t≦15cm	72.40	22.40	7.60	2.00	40.40
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	15.49	4.48	1.52	0.40	9.09
掘削積込工	5.88	1.57	0.53	0.14	3.64
残塊処分工(As)	0.77	0.22	0.08	0.02	0.45
残塊処分工(土砂)	5.88	1.57	0.53	0.14	3.64
仮復旧工(密粒度(再)(13))	15.49	4.48	1.52	0.40	9.09
埋戻工(再生砕石)	2.32	0.67	0.23	0.06	1.36
埋戻工(スクリーニングス)	3.11	0.84	0.29	0.07	1.91

工　　種	撤去				
	小計	仮配水管			
		土工1	土工2	土工3	土工4
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	15.49	4.48	1.52	0.40	9.09
掘削積込工(補助的作業なし)	2.32	0.67	0.23	0.06	1.36
掘削(人力)	3.11	0.84	0.29	0.07	1.91
残塊処分工(As)	0.77	0.22	0.08	0.02	0.45
残塊処分工(土砂)	0.71	0.27	0.19	0.02	0.24
仮復旧工(密粒度(再)(13))	15.49	4.48	1.52	0.40	9.09
路盤工(粒調砕石) t=10cm	15.49	4.48	1.52	0.40	9.09
路盤工(粒調砕石) t=15cm	0.00				
フィルター層(砂)	1.52		1.52		
埋戻工(流用土)	4.25	1.12	0.30	0.10	2.73

仮配水管(土工1)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装(布設時)	仮舗装(撤去時)	先行路盤
昼間施工	市道	車道As5cm	As5cm	As5cm	粒調砕石10cm

掘削断面

口径	管断面積	土工延長(L)	掘削幅(W)	掘削深(H)	既設舗装厚	スクリーニングス厚	矢板
φ80	0.005	11.2	0.40	0.40	0.05	0.20	矢板無

布設時

工種	施工厚	計算式						数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05					11.2 ×	2	22.40
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.40			×	11.2		4.48
掘削積込工	0.35	0.40	×	0.35	×	11.2		1.57
残塊処分工(As)		4.48	×	0.05				0.22
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量						1.57
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.40			×	11.2		4.48
埋戻工(再生砕石)	0.15	0.40	×	0.15	×	11.2		0.67
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.20	0.40 － 0.005	×	0.20	× ×	11.2 11.2		0.84

撤去時

工種	施工厚	計算式						数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.40			×	11.2		4.48
掘削積込工(補助的作業なし)	0.15	0.40	×	0.15	×	11.2		0.67
掘削(人力) (管断面控除)	0.20	0.40 － 0.005	×	0.20	× ×	11.2 11.2		0.84
残塊処分工(As)		4.48	×	0.05				0.22
残塊処分工(土砂)		0.67 ＋		0.84 －		1.12 ÷	0.9	0.27
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.40			×	11.2		4.48
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.40			×	11.2		4.48
埋戻工(流用土)	0.25	0.40	×	0.25	×	11.2		1.12

仮配水管(土工2)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤	先行路盤
昼間施工	市道	歩道一般(透水)As5cm	As5cm	粒調砕石10cm	フィルター層5cm
					撤去時

掘削断面

口径	管断面積	土工延長(L)	掘削幅(W)	掘削深(H)	既設舗装厚	スクリーニングス厚	矢板
φ80	0.005	3.8	0.40	0.40	0.05	0.20	矢板無

布設時

工種	施工厚	計算式						数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05					3.8 ×	2	7.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.40			×	3.8		1.52
掘削積込工	0.35	0.40	×	0.35	×	3.8		0.53
残塊処分工(As)		1.52	×	0.05				0.08
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量						0.53
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.40			×	3.8		1.52
埋戻工(再生砕石)	0.15	0.40	×	0.15	×	3.8		0.23
埋戻工(スクリーニングス)	0.20	0.40	×	0.20	×	3.8		0.29
(管断面控除)		－ 0.005			×	3.8		

撤去時

工種	施工厚	計算式						数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.40			×	3.8		1.52
掘削積込工(補助的作業なし)	0.15	0.40	×	0.15	×	3.8		0.23
掘削(人力)	0.20	0.40	×	0.20	×	3.8		0.29
(管断面控除)		－ 0.005			×	3.8		
残塊処分工(As)		1.52	×	0.05				0.08
残塊処分工(土砂)		0.23 ＋		0.29 －		0.30 ÷	0.9	0.19
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.40			×	3.8		1.52
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.40			×	3.8		1.52
フィルター層(砂)	0.05	0.40			×	3.8		1.52
埋戻工(流用土)	0.20	0.40	×	0.20	×	3.8		0.30

仮配水管(土工3)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装(布設時)	仮舗装(撤去時)	先行路盤
昼間施工	市道	車道As5cm	As5cm	As5cm	粒調砕石10cm

掘削断面

口径	管断面積	土工延長(L)	掘削幅(W)	掘削深(H)	既設舗装厚	スクリーニングス厚	矢板
φ100	0.008	1.0	0.40	0.40	0.05	0.20	矢板無

布設時

工種	施工厚	計算式						数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05					1.0 ×	2	2.00
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.40			×	1.0		0.40
掘削積込工	0.35	0.40	×	0.35	×	1.0		0.14
残塊処分工(As)		0.40	×	0.05				0.02
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量						0.14
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.40			×	1.0		0.40
埋戻工(再生砕石)	0.15	0.40	×	0.15	×	1.0		0.06
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.20	0.40 － 0.008	×	0.20	× ×	1.0 1.0		0.07

撤去時

工種	施工厚	計算式						数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.40			×	1.0		0.40
掘削積込工(補助的作業なし)	0.15	0.40	×	0.15	×	1.0		0.06
掘削(人力) (管断面控除)	0.20	0.40 － 0.008	×	0.20	× ×	1.0 1.0		0.07
残塊処分工(As)		0.40	×	0.05				0.02
残塊処分工(土砂)		0.06 ＋		0.07 －		0.10 ÷	0.9	0.02
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.40			×	1.0		0.40
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.40			×	1.0		0.40
埋戻工(流用土)	0.25	0.40	×	0.25	×	1.0		0.10

仮配水管(土工4)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装(布設時)	仮舗装(撤去時)	先行路盤
昼間施工	市道	車道As5cm	As5cm	As5cm	粒調砕石10cm

掘削断面

口径	管断面積	土工延長(L)	掘削幅(W)	掘削深(H)	既設舗装厚	スクリーニングス厚	矢板
φ150	0.018	20.2	0.45	0.45	0.05	0.25	矢板無

布設時

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚		延長	箇所等
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05					20.2 × 2	40.40
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.45		×		20.2	9.09
掘削積込工	0.40	0.45	×	0.40	×	20.2	3.64
残塊処分工(As)		9.09	×	0.05			0.45
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					3.64
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.45		×		20.2	9.09
埋戻工(再生砕石)	0.15	0.45	×	0.15	×	20.2	1.36
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.25	0.45 － 0.018	×	0.25 	× ×	20.2 20.2	1.91

撤去時

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚		延長	箇所等
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.45		×		20.2	9.09
掘削積込工(補助的作業なし)	0.15	0.45	×	0.15	×	20.2	1.36
掘削(人力) (管断面控除)	0.25	0.45 － 0.018	×	0.25 	× ×	20.2 20.2	1.91
残塊処分工(As)		9.09	×	0.05			0.45
残塊処分工(土砂)		1.36 ＋		1.91 －		2.73 ÷ 0.9	0.24
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.45		×		20.2	9.09
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.45		×		20.2	9.09
埋戻工(流用土)	0.30	0.45	×	0.30	×	20.2	2.73

既設管撤去

鋳鉄管吊込み撤去工

口径	延長 (m)	撤去重量 (t)	土工延長計	市道車道 As5cm	市道車道 As10cm	市道歩道 As5cm	充填工 (m)
合計	510.4	41.0	500.3	85.7	16.4	398.2	89.3
100 0.023 t/m	35.2	0.81	31.1	土工1 29.0		土工2 2.1	
150 0.033 t/m	8.6	0.29	8.6			土工3 8.6	
200 0.043 t/m	75.0	3.23	69.0	土工4 31.0	土工5 16.4	土工6 21.6	
300 0.063 t/m	4.2	0.27	4.2			土工7 4.2	
400 0.094 t/m	387.4	36.42	387.4	土工8 25.7		土工9 361.7	89.3

鋳鉄管(既設管)撤去切断工

口径	切断箇所計 (口)	既設管と切断にて接続箇所 (口)	既設管連続場所の切断箇所 (口)	計算式
100	12		12	35.2/3
150	4	1	3	8.6/3
200	28	3	25	75/3
300	2		2	4.2/3
400	130		130	387.4/3

継手取り外し工

口径	特殊押輪 (口)	G-Link (口)
100		3
200		1
300		1

充填工

口径	断面積(m2)	充填延長(m)	充填数量(m3)
400	0.126	89.3	11.2

仕切弁関係

口径	仕切弁 (不断水バルブ) (基)	仕切弁ﾎﾞｯｸｽ(箇所)
100	6	6
150	1	1
200	4	4
400		
合計	11	11

消火栓関係

口径	消火栓 (基)	消火栓ﾎﾞｯｸｽ(箇所)
100		
150		
200		
400	3	3
合計	3	3

現場発生品・支給品運搬
41/2＝　　21回

既設管撤去土工集計表

工　種	合計数量	**採用数量**	単位	土工1	土工2	土工3	土工4	土工5	土工6	土工7	土工8	土工9	土工10
舗装版切断（As） t≦15cm	1024.60	**1020**	m	58.00	4.20	17.20	62.00	32.80	43.20	8.40	51.40	723.40	24.00
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	461.58	**462**	m2	15.95	1.16	4.73	18.60	9.84	12.96	2.94	25.70	361.70	8.00
掘削積込工	647.80	**650**	m3	15.15	1.10	5.11	24.30	12.37	16.93	3.12	36.96	520.12	12.64
残塊処分工(As)	23.59	**24**	m3	0.80	0.06	0.24	0.93	0.98	0.65	0.15	1.29	18.09	0.40
残塊処分工(土砂)	647.80	**650**	m3	15.15	1.10	5.11	24.30	12.37	16.93	3.12	36.96	520.12	12.64
仮復旧工(密粒度(再)(13))	461.58	**462**	m2	15.95	1.16	4.73	18.60	9.84	12.96	2.94	25.70	361.70	8.00
路盤工(粒調砕石) t=10cm	451.74	**452**	m2	15.95	1.16	4.73	18.60		12.96	2.94	25.70	361.70	8.00
路盤工(粒調砕石) t=15cm	9.84	**10**	m2					9.84					
フィルター層 t=5cm	391.49	**391**	m2		1.16	4.73			12.96	2.94		361.70	8.00
埋戻工(再生砕石)	640.59	**640**	m3	13.88	0.95	4.59	23.62	12.00	15.81	3.03	38.04	517.23	11.44
アルミ矢板設置撤去工(H=2.0m)	387.40	**387.4**	m								25.70	361.70	

既設管撤去φ400 矢板数量計算表

土工	矢板種別	矢板延長
土工8	アルミ矢板H=2.0m	25.7 m
土工9	アルミ矢板H=2.0m	361.7 m

アルミ矢板

工種	種別	延長	計算式
アルミ矢板建込引抜工(両側分)	H=2.0m	387.4 m	
土留支保工(設置+撤去)	1段H=2.0m以下	387.4 m	
アルミ製支保工賃料	H=2.0m 1段	387.4 m	
アルミ矢板整備費(日当り施工延長×矢板深さ×2×0.01515)	H=2.0m	1.0 t	16.7*2.0*2*0.01515
アルミ矢板整備費計		1.0 t	
アルミ矢板賃料(供用日数×矢板賃料重量)	H=2.0m	39.5 t	387.4/16.7*1.7*1
アルミ矢板賃料計		39.5 t	

既設管撤去　土工1

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管φ100	29.0

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
0.9	0.55	0.05	0.118	0.011	1.020

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.05				29.0 ×	2	58.00
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.05	0.55		×	29.0		15.95
掘削積込工	0.97	0.55 ×		0.97 ×	29.0		15.15
(管断面控除)		− 0.011		×	29.0		
残塊処分工(As)		15.95 ×		0.05			0.80
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					15.15
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55 ×			29.0		15.95
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.55 ×			29.0		15.95
埋戻工(再生砕石)	0.87	0.55 ×		0.87 ×	29.0		13.88

既設管撤去　土工2

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	歩道	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管φ100	2.1

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
0.9	0.55	0.05	0.118	0.011	1.020

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.05				2.1	× 2	4.20
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.05	0.55		×	2.1		1.16
掘削積込工	0.97	0.55	×	0.97 ×	2.1		1.10
(管断面控除)		− 0.011		×	2.1		
残塊処分工(As)		1.16	×	0.05			0.06
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					1.10
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55	×		2.1		1.16
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.55	×		2.1		1.16
フィルター層(砂)	0.05	0.55	×		2.1		1.16
埋戻工(再生砕石)	0.82	0.55	×	0.82 ×	2.1		0.95

既設管撤去　土工3

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	歩道	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管 φ150	8.6

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
1.0	0.55	0.05	0.169	0.022	1.170

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断（As） t≦15cm	0.05				8.6	× 2	17.20
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.55		×	8.6		4.73
掘削積込工	1.12	0.55	×	1.12 ×	8.6		5.11
(管断面控除)		− 0.022		×	8.6		
残塊処分工(As)		4.73	×	0.05			0.24
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					5.11
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.55	×		8.6		4.73
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.55	×		8.6		4.73
フィルター層(砂)	0.05	0.55	×		8.6		4.73
埋戻工(再生砕石)	0.97	0.55	×	0.97 ×	8.6		4.59

既設管撤去　土工4

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管φ200	31.0

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
1.2	0.60	0.05	0.220	0.038	1.420

工種	施工厚	計算式						数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.05					31.0 ×	2	62.00
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.05	0.60			×	31.0		18.60
掘削積込工	1.37	0.60	×	1.37	×	31.0		24.30
(管断面控除)		− 0.038			×	31.0		
残塊処分工(As)		18.60	×	0.05				0.93
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量						24.30
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.60	×			31.0		18.60
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.60	×			31.0		18.60
埋戻工(再生砕石)	1.27	0.60	×	1.27	×	31.0		23.62

既設管撤去　土工5

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道	As5cm	粒調砕石15cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管φ200	16.4

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
1.2	0.60	0.10	0.220	0.038	1.420

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.10				16.4	× 2	32.80
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.10	0.60		×	16.4		9.84
掘削積込工	1.32	0.60	×	1.32 ×	16.4		12.37
(管断面控除)		− 0.038		×	16.4		
残塊処分工(As)		9.84	×	0.10			0.98
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					12.37
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.60	×		16.4		9.84
路盤工(粒調砕石)	0.15	0.60	×		16.4		9.84
埋戻工(再生砕石)	1.22	0.60	×	1.22 ×	16.4		12.00

既設管撤去　土工6

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	歩道	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管φ200	21.6

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
1.2	0.60	0.05	0.220	0.038	1.420

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.05				21.6	× 2	43.20
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.05	0.60		×	21.6		12.96
掘削積込工	1.37	0.60	× 1.37	×	21.6		16.93
(管断面控除)		− 0.038		×	21.6		
残塊処分工(As)		12.96	× 0.05				0.65
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					16.93
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.60	×		21.6		12.96
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.60	×		21.6		12.96
フィルター層(砂)	0.05	0.60	×		21.6		12.96
埋戻工(再生砕石)	1.22	0.60	× 1.22	×	21.6		15.81

既設管撤去　土工7

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	歩道	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管φ300	4.2

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
0.9	0.70	0.05	0.323	0.082	1.230

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.05				4.2	× 2	8.40
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.05	0.70		×	4.2		2.94
掘削積込工	1.18	0.70	×	1.18 ×	4.2		3.12
(管断面控除)		− 0.082		×	4.2		
残塊処分工(As)		2.94	×	0.05			0.15
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					3.12
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.70	×		4.2		2.94
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.70	×		4.2		2.94
フィルター層(砂)	0.05	0.70	×		4.2		2.94
埋戻工(再生砕石)	1.03	0.70	×	1.03 ×	4.2		3.03

既設管撤去　土工8

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管φ400	25.7

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
1.2	1.00	0.05	0.426	0.142	1.630

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.05				25.7	× 2	51.40
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.05	1.00		×	25.7		25.70
掘削積込工	1.58	1.00	×	1.58 ×	25.7		36.96
(管断面控除)		− 0.142		×	25.7		
残塊処分工(As)		25.70	×	0.05			1.29
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					36.96
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.00	×		25.7		25.70
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.00	×		25.7		25.70
埋戻工(再生砕石)	1.48	1.00	×	1.48 ×	25.7		38.04
アルミ矢板設置撤去工	H=2.0				25.7		25.70

既設管撤去　土工9

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	歩道	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	撤去延長
鋳鉄管φ400	361.7

平均土被り	掘削幅	既設舗装厚	管外径	管断面積	掘削深
1.2	1.00	0.05	0.426	0.142	1.630

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.05				361.7	× 2	723.40
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.05	1.00		×	361.7		361.70
掘削積込工	1.58	1.00	×	1.58	× 361.7		520.12
(管断面控除)		− 0.142			× 361.7		
残塊処分工(As)		361.7	×	0.05			18.09
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					520.12
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.00	×		361.7		361.70
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.00	×		361.7		361.70
フィルター層(砂)	0.05	1.00			361.7		361.70
埋戻工(再生砕石)	1.43	1.00	×	1.43	× 361.7		517.23
アルミ矢板設置撤去工	H=2.0				361.7		361.70

既設管撤去　土工10(モルタル充填)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	歩道As5cm	As5cm	粒調砕石10cm

既設管

管種	掘削延長	掘削幅
鋳鉄管 φ400	2.00	1.00

平均土被り	掘削深	既設舗装厚	管外径
1.20	1.630	0.05	0.426

工種	施工厚	計算式					数量	4箇所計
		幅等		厚	延長	箇所等		
舗装版切断(As)　t≦15cm	0.05	(1.00	＋		2.0)	× 2	6.00	24.00
舗装版取壊し積込工　t≦10cm	0.05	1.00	×		2.0		2.00	8.00
掘削積込工	1.58	1.00	×	1.58 ×	2.0		3.16	12.64
残塊処分工(As)		2.00	×	0.05			0.10	0.40
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量					3.16	12.64
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.00		×	2.0		2.00	8.00
路盤工(粒調砕石)	0.10	1.00		×	2.0		2.00	8.00
ﾌｨﾙﾀｰ層	0.05	1.00		×	2.0		2.00	8.00
埋戻工(再生砕石)	1.43	1.00	×	1.43 ×	2.0		2.86	11.44

舗装復旧関係

市道車道As1層(t=5cm)

施工面積	採用面積
350.5	351

工種	施工厚等	計算式	数量	採用数量	単位
舗装版切断(As) t≦15cm	0.10	3.0+3.7+11.4+3.1+3.9+3.0+2.8+3.4+8.1+6.6+3.1+10.0	62.10	**62**	m
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	350.5	350.5	**351**	m2
残塊処分工(As)		350.5 × 0.05	17.53	**18**	m3
不陸整正工(粒調砕石)	0.03	350.5	350.5	**351**	m2
舗装工(密粒度(再)(13)、PK-3)	0.05	350.5	350.5	**351**	m2

市道車道実掘先行打替As2層式10cm(仮復旧部)

施工面積	採用面積
360.5	361

工種	施工厚等	計算式	数量	採用数量	単位
舗装版取壊し積込工 t≦10cm		360.5	360.5	**361**	m2
掘削積込工	0.05	360.5 × 0.05	18.025	**18**	m3
残塊処分工(As)		360.5 × 0.05	18.025	**18**	m3
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量	18.025	**18**	m3
不陸整正工(補充材無し)		360.5	360.5	**361**	m2
舗装工(密粒度(再)(13)、PK-3)	0.05	360.5	360.5	**361**	m2
舗装工(密粒度(再)(13)、瀝青材無し)	0.05	360.5	360.5	**361**	m2

市道車道As2層(t=10cm)
切削オーバーレイ(1層)

施工面積	採用面積
1567.1	1570

工種	施工厚等	計算式	数量	採用数量	単位
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05	3.1+154.0+3.2+3.2+61.7+93.8++3.2+3.2+21.9+3.2+3.2+20.4+3.2+3.2+104.1+3.1	487.7	**490**	m
切削オーバーレイエ (ﾎﾟｰﾗｽｱｽｺﾝ(13))、PK-4)	0.05	1567.1	1567.1	**1570**	m3
廃材処分工(As)	0.05	1567.1 × 0.05	78.4	**78**	m3

市道歩道一般透水性As1層(t=5cm)

施工面積	採用面積
951.2	951

工種	施工厚等	計算式	数量	採用数量	単位
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05	3.2+2.1+3.2+3.2+2.1+2.1+3.2+1.9+3.0+2.0+3.1	29.1	**29**	m
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	951.2	951.2	**951**	m2
残塊処分工(As)		951.2 × 0.05	47.6	**48**	m3
不陸整正工(粒調砕石)	0.03	951.2	951.2	**951**	m2
舗装工(開粒度(新)(13)、瀝青材無し)	0.05	951.2	951.2	**951**	m2
点字(平板)ﾌﾞﾛｯｸ撤去設置工		1.3+1.3+1.8+1.8+1.3+1.3+1.3+26.6+7.0+3.9	47.6	**48**	m2

区画線関係

一般舗装部

工種	細別	計算式	数量	採用数量	単位
実線 W=15cm	外側線	11.4+8.1+8.9+8.9+10.0	47.30	47	m
実線 W=45cm	停止帯	3.0+3.0+3.0+3.0	12.00	83	m
	横断歩道	12.0+12.0+12.0+12.0+23.0	71.00		
文字・記号 W=15cm換算	止まれ	12.4+12.4	24.80	91	m
	ダイヤマーク	16.51+16.51+16.51+16.51	66.04		
実線・破線 W=15cm 黄	消火栓廻り	2.2 × 3	6.60	7	m
			合計延長	228	m

特記仕様書
（平成29年度　松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事ほか工事）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章

1 一般共通事項

※ 1 現場代理人の兼務

※ 1 本工事については他工事との現場代理人の兼務を認めない。

※ 2 合併工事

※ 1 本工事は、他部署との合併工事はない。

※ 3 近接工事

※ 1 発注時に、確認している近接工事は無いが、近接工事が確認された場合は、
関連他業者との連絡を密にし、互いの工事の影響が少ないように工程管理すること。

※ 4 占用関係

1 国道(　　)　2 県道(　　)
※ 3 市道(　　)　4 法定外道路(　　)
5 港湾(　　)　6 河川(　　)
7 その他(　　)

上記のチェックが入っている占用について、監督員と協議して必要な書類を
提出すること。

※ 5 協議関係(上記占用以外)

1 鉄道等(　　)
※ 2 バス道等(神姫バス、山陽バス　　)
3 学校関係(　　)
※ 4 その他(明舞中央病院　　)

上記1～4のいずれかにチェックが入っている場合は、各関係者に施工内容や時期を
報告し、場合によっては施工協議をする必要も出てくるので、監督員と充分協議すること。

※ 6 工事の範囲

※ 1 当該工事予定範囲について、地元要望等及び現地の状況により、施工範囲の
増減が生じる可能性がある。その場合は、協議のうえ設計変更の対象とする。

※ 7 夜間施工

※ 1 夜間施工は予定していない。ただし、近隣住民の要望等により夜間施工に
変更する場合がある。その場合は、協議のうえ夜間施工とし、設計変更の対象とする。

※ 8 工事の制限

※ 1 工事の確実性、周辺への水の濁り等を考慮して、金曜日、土曜日及び祝日の
前日には、工種を制限しているので監督員と協議し施工すること。

※ 9 交通誘導警備員

※ 1 交通誘導警備員の人数は、下表のとおりとする。

種類	合計	布設工事	給水管切替工事
A	0名	0名	0名
B(交替要員有)	268名	264名	4名
B(交替要員無)	95名	93名	2名
合計	363名	357名	6名

※ 1日1現場当り3名(標準)

※ 1日1現場当りT字交差点部 4名
1日1現場当り十字交差点部5名

※ その他1日1現場当り追加　1名(バス停)
道路管理者及び警察署との協議及び地元要望等に伴い、上記の配置員数に増減

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

が生じた場合は、協議のうえ設計変更の対象とする。また、その配置を監督員と協議すること。
なお、交通誘導員A、Bの定義は次のとおりとする。
交通誘導警備員A；警備業者の警備員（警備業法第2条第4項に規定する警備員を言う。）で、交通誘導警備業務（警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務をいう。）に従事する交通誘導警備業務に係る1級検定合格警備員又は2級検定合格警備員
交通誘導警備員B；警備業者の警備員で交通誘導警備員A以外の交通の誘導に従事するもの

※　10　工事実績データの作成・登録

※　1　工事請負代金額が500万以上の工事について、工事実績情報サービス（コリンズ）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し監督員の確認を受けたうえ、登録すること。
なお、登録期限は受注時は契約後、変更時は変更契約日から、完成時は工事完成後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に適宜登録すること。
変更登録は、工期又は技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。
また、「工事実績データ」の登録後、登録機関発行の「登録内容確認書」を直ちに監督員に提出すること。
なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。

※　2　布設替工事と給水管切替工事を一括で考え、請負代金合計額が500万円以上の場合に一括の内容で登録することとする。

※　11　工事中の安全対策および環境対策

※　1　受注者は、土砂，工事用資材等の運搬に際しては、通行者の安全と一般車の交通確保に十分留意し、道路交通法その他の関係法令に従い、過積載が無いよう努めること。

※　2　日々施工完了後には施工範囲内の清掃をすること。また、休日前には、工事範囲内を点検し、道路および側溝等の清掃をおこなうこと。

※　3　土砂掘削時および運搬時など、粉塵等が舞上がる時は必ず散水し、粉塵の発生を抑えること。

※　4　施工箇所の仮復旧跡の確認を定期的に行うこと。段差等がある場合は、早急に補修をし、安全確保に努めること。

5　夜間施工中は特に照明や騒音等で迷惑を極力掛けないように注意して施工すること。

※　6　工事着手後、作業員全員の参加により月当たり半日以上の時間を割当て、定期的に安全に関する研修・訓練等を実施すること。

※　12　その他事項

※　1　工事の施工にあたり、使用する車両及び建設機械等の燃料として、不正軽油を使用してはならない。また、不正軽油の使用が判明した場合には、速やかに是正措置を講じること。

※　2　当該工事付近に公共基準点（街区三角点多角、街区多角点）がある場合は、明石市公共基準点管理保全要領に定めるところにより、必要な申請書等を作成するほか、公共基準点を保持するための測量をすること。

※　3　設計図書とは、明石市水道部工事請負契約約款第1条に規定する設計図書及び工事設計書のことをいう。

特記仕様書
（平成29年度　松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事ほか工事）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	
	※　4　工期については、契約締結日の翌日から平成30年3月31日までとしている。 ただし、本件に係る予算について、公営企業管理者による次年度への繰り越しが 決定されたときは、平成30年9月30日までとする工期延期を行う予定である。 これ以上の工期延期については、協議により決定するものとする。

章	
2	管きょ工
	1　夜間工事
	1　夜間時は、極力騒音を立てないような施工を行なうこと。
	2　付近住民に工事のお知らせを確実に行なうこと。
	3　配管切断は、ロールカッターの使用も考慮すること。
	4　防音シートの使用も考えて施工計画を立てること。
	※　2　施工前調査
	※　1　以下のような施工前調査を実施し、工事打合簿にて報告または協議をすること。
	※　1　明石市水道工事標準仕様書3.2に記載の現地調査の報告
	※　2　施工前に今回給水管を切替する家屋に漏水が無いか確認し報告すること。
	※　3　その他設計図書に対する疑義（給水管口径、区画線等）
	※　3　試掘調査
	※　1　試掘調査前に事前立会等で確認した試掘位置、試掘目的を工事打合簿にて報告すること。
	※　2　試掘調査後は、以下の項目について速やかに結果をまとめ、工事打合簿にて報告または協議すること。
	・試掘断面の地下埋設物の状況
	・既設舗装構成
	・設計図書通りの撤去・埋設が可能か
	・既設管の外面腐食等の異常の有無
	・接続部がインチ管の場合、既設管外周長さを測定し、インチ管であることの確認
	・その他試掘調査結果で判明した協議事項
	※　4　段階確認
	※　1　下記の項目について事前に立会願を提出し、立会を行うものとする。
	・通常配管及び不断水工事箇所の水圧試験
	・材料納入時の材料検収
	・「土木工事共通仕様書」（兵庫県県土整備部監修）の段階確認一覧表に記載されている事項
	・その他監督員が必要と判断した事項
	※　5　使用材料
	※　1　現地確認・試験掘削の結果等を十分反映させ、設計書に記載の水道材料等を購入するものとする。
	2　仮給水管切替工は、現地確認により既設給水管の口径等を十分把握し、反映させるものとする。
	※　3　やむを得ず在庫品を使用する場合には、使用前に監督員の確認を得ること。
	※　4　支給材料については、監督員と受注者が確認した後、受領し、支給品受領書（様式15）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

を提出すること。

※　5　明石市水道工事標準仕様書4.1に記載している水道材料の指定品については、使用材料確認願（様式29-1）に、使用材料確認一覧表（様式29-2）及び使用するメーカーの日本水道協会検査工場登録通知書を添付すること。また、不断水ﾊﾞﾙﾌﾞ、割丁字管（付属ﾊﾞﾙﾌﾞ）、特殊な仕切弁、消火栓、空気弁、補修弁、排泥弁、止水栓、ｻﾄﾞﾙ分水栓、その他監督員が必要と認める材料に関しては構造図（承認図）も添付すること。

※　6　一体化長さ

※　1　設計水圧0.75Mpa、摩擦係数0.3で設計している。

※　2　上記の条件と管の各口径及び各土被りを考慮し一体化長さを確認し、ライナや特殊押輪の有無を適時確認して施工すること。

※　7　管の据付

※　1　管路の高さを調整する場合は、スクリーニングス等を詰めた土嚢を使用すること。

※　8　ボルトの長さ

※　1　フランジ部で使用するボルトの長さは、ナットから3山以上出ていることとする。

※　9　消火栓・空気弁

※　1　丸型消火栓ボックスを設置する箇所については、補修弁のバルブの位置を配水管法線から、90°の位置に設置すること。

※　2　消火栓及び空気弁の口の高さは、GL－20cm±5に収まるようにフランジ短管で調節すること。

※　3　消火栓及び空気弁の立ち上がり部に使用するフランジ継手材はフランジ接合補強具(LSP形)を使用すること。

※　4　消火栓及び空気弁の立ち上がり部におけるフランジ継手に使用するフランジナットはSUS304製(緩み防止仕様)を使用すること。

※　10　水道メーターの確認

※　1　仮給水管、給水管切替後は水道メーターの逆付けをしてないか確認すること。

※　11　現場発生品の処分

※　1　既設鋳鉄管の処分については、有価物として売却すること。その場合、金属くず商の許可証の写し、物品の受領を証明する書類、計量証明書などを監督員に提出すること。また、計量伝票などの集計を設計変更の対象とする。なお、処分地は○○で運搬距離は○kmを計上している。
ただし、上記書類等が整えば、別の処分地でも可能とする。その場合は、設計変更の対象としない。
有価物として処分出来ないときは、監督員と協議のうえ亀池資材置き場に運搬すること。
そのときは、下記2のとおりとし、設計変更の対象とする。

2　既設鋳鉄管については、明石市水道部所有地である亀池資材置き場（明石市大久保町松陰新田200-1）内に運搬すること。ただし、搬入するときは事前にその量（○tトラック○台分等）、日時を協議すること。搬入時にはトラッククレーンなどで搬入し、水道部職員の指示によりに荷降ろしすること。有価物として処分する場合は、監督員と協議のうえ金属くず商に処分すること。
そのときは、上記1のとおりとし、設計変更の対象とする。

3　既設石綿管の撤去が発生した場合、「水道用石綿セメント管の撤去作業等における石綿対策の手引き」（平成17年8月、厚生労働省健康局水道課）を参考として作業を行うこと。その文章中のプラスチック袋等は、ポリエチレンスリーブ(2重包み)に置き換えて作業すること。
処分地は特記仕様書(追記)のとおりとする。

※　4　本工事にて発生した上記以外の現場発生品については、監督員と協議のうえ亀池資材置き場に運搬すること。

特記仕様書
（平成29年度　松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事ほか工事）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	
	12 その他事項

章	
3	土工事

※ 1 重機

※ 1 低騒音・低振動型

※ 2 排出ガス対策型

※ 3 特殊車両（一般的制限値である幅2.5m、長さ12.0m、高さ3.8m、総重量20.0t等のいずれかを越える車両）
特殊車両がある場合、道路管理者の許可を得ること。

※ 2 アスファルト切断

※ 1 アスファルト切断時に発生する濁水は適切に処理すること。

※ 3 配水管布設時の掘削幅

※ 1 矢板無の場合、単位は㎜

口径	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450
GX形	550	550	550	600	650	700		950	
NS形	600	650	700	750	800	850	900	950	1000
K形	550	650	700	750	800	850	900	950	1000

※ 2 矢板有の場合、単位は㎜

口径	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450
GX形	850	850	850	850	850	850		1000	
NS形	850	850	850	850	850	900	950	1000	1050
K形	850	850	850	850	850	900	950	1000	1050

※ 4 配水管布設時の掘削深

※ 1 配水管布設時の掘削深は、土被り＋布設管外径（D2)+100を基本とする。

※ 2 既設管を撤去し、その断面で新設管を布設する場合、既設管の管底まで掘削し、
上記のように掘削深から100㎜程度上げた状態で管を布設することを基本とする。
ただし、近接する地下埋設物の状態や既設管の配管状況により、曲管等の異形管が
極力増えないように土被りを検討すること。

※ 3 会所掘箇所は、G-Link・P-Link・特殊押輪等の押しボルト設置箇所とする。

※ 4 会所掘箇所の断面は、布設管口径がφ350㎜以下の場合、延長500㎜、深さ200㎜、
φ400㎜以上の場合、延長800㎜、深さ500㎜とし、幅はそれぞれの掘削幅とする。

※ 5 仮配水管・仮給水管の掘削幅・掘削深

※ 1 矢板無の場合、単位は㎜

口径	φ100以下	φ150	φ200	φ250	φ300	φ400
幅	400	450	500	550	600	700
深さ	400	450	500	550	600	800

2 矢板有の場合の掘削幅、単位は㎜

口径	φ100以下	φ150	φ200	φ250	φ300	φ400
幅	700	750	800	850	900	1000

特記仕様書
（平成29年度　松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事ほか工事）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

3　仮給水管設置撤去時の掘削幅は400㎜、掘削深は300㎜とすること。

4　国道に布設撤去する場合は深さ600㎜以上とすること。

※　6　既設管撤去の掘削幅

1　矢板無の場合、単位は㎜

口径	φ75～150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450
幅	550	600	650	700	900	950	1000

2　矢板有の場合、単位は㎜

口径	φ75～150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450
幅	850	850	850	850	850	1000	1050

※　7　給水管の掘削幅、掘削深、延長

※　1　分水穿孔部について、新設管布設後の場合は本管掘削幅、延長は600㎜、深さは新設管布設時の土被りとする。既設管から分岐する場合は、本管口径のK形を布設する場合の掘削幅、延長は600㎜、深さは既設管土被り＋既設管呼び径＋100㎜とする。

※　2　給水管部は、幅500㎜、延長は給水管延長（本管～止水栓距離）－分水穿孔部掘削幅/2、深さは本管土被り-100mmとする。

※　8　掘削・埋戻し

※　1　埋戻し一層厚さ20cm未満とする。

※　2　水圧がかかっている水道管周りを掘削するときは、必ず人力掘削すること。

※　3　管路布設後、管下を埋め戻す場合には、スクリーニングス等を使用し、きちんと胴締めすること。管路布設前に余掘り分を埋め戻す場合は、再生砕石等良質土を使用し、きちんと転圧すること。

※　9　残土・殻処分地

※　1　処分地は特記仕様書(追記）参照。

※　2　特記仕様書(追記)は積算条件を明示しているものであり受入施設を指定するものではなく、受注者は、県登録施設から搬出先施設を選定し、共通仕様書に基づき施工計画書に含め、監督員に提出しなければならない。なお、受注者の選定した施設が積算条件と異なる場合においても設計変更は行わない。
ただし、特記仕様書(追記)の施設が工事発注後に県登録施設からの登録抹消等により受け入れ困難となった場合は、設計変更を行う。

※　10　各種試験

※　1　「土木工事施工管理基準」（兵庫県県土整備部監修）に定める以下の試験等について、基準を次のように定める。

※　1　上層路盤の現場密度の測定・・・埋戻土及び管路掘削箇所について省略する。

11　その他事項

章	
4	舗装工

※　1　舗装前準備

※　1　既設構造物(側溝、街渠等)等に損傷を与えていないか、動いていないか等を確認し、

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

異常がある場合は、適正な方法を検討し、監督員と協議すること。

※ 2 下水道の鉄蓋で古い鉄蓋(コンクリート蓋、コンクリート巻鉄蓋等)がある場合は、舗装復旧前に下水道部が取り替えることがあるので、位置が分かるものと現況写真を提出すること。

※ 3 他の地下埋設物の鉄蓋で高さ調整が必要なものは、位置が分かるものと現況写真と高さ調整の程度（＋〇cm等）が分かるものを提出すること。

※ 4 舗装範囲内にある各種鉄蓋の表面を汚さないよう処置をとること。

※ 5 舗装復旧内に古い消火栓蓋、空気弁蓋、仕切弁蓋がある場合は、取替するかどうか監督員と協議すること。

※ 6 切削オーバーレイで施工する場合、事前にその計画書及び事後には報告書を作成し、工事打合簿にて提出すること。また、それらの書類には以下の項目等を記載すること。

・計画書には、測点位置での既設舗装高さ・予定舗装高さ・予定切削厚さ

・報告書には、測点位置での切削後の舗装高さ・オーバーレイ後の舗装高さ・舗装厚

※ 2 不陸整正工

※ 1 補充材の有無を確認し、路床面の不陸を整正すること。

※ 2 既設構造物、各種鉄蓋と接触する部分は、入念に清掃すること。

※ 3 乳剤散布

※ 1 ムラにならないよう、均一に散布すること。

※ 2 既設構造物、各種鉄蓋と接触する部分等にも散布すること。

※ 4 アスファルト舗装工

※ 1 当日舗装版撤去した範囲について、表層まで復旧出来ない場合は監督員と協議すること。その場合は、周辺住民によく周知し、既設構造物、各種鉄蓋の箇所が歩行者、二輪車、自動車等の交通車両に危険が無いよう、すり合わせし、段差有の看板を立てるなど注意喚起すること。

※ 2 既設舗装との継ぎ目には、アスファルト用の目地テープ等を使用するなど雨水の浸透を防止すること。

※ 5 区画線工

1 横断歩道等交差点付近の復旧は事前に警察と協議すること。

※ 2 施工直前に施工箇所を清掃し、プライマーを塗布すること。

※ 3 ガラスビーズを配合すること。

※ 6 各種試験

※ 1 「土木工事施工管理基準」（兵庫県県土整備部監修）に定める必要な試験等について、試験位置、試験方法等を事前に監督員に報告すること。

※ 2 「土木工事施工管理基準」（兵庫県県土整備部監修）に定める以下の試験等について、基準を次のように定める。

※ 1 アスファルトの現場密度の測定・・・同一配合のアスファルト施工面積500m2以下について省略する。

※ 2 アスファルトコア採取・・・同一配合のアスファルト施工面積1箇所20m2未満の箇所について省略する。

※ 3 表層の平坦性・・・省略する

7 その他事項

特記仕様書（追記）

1　建設発生土の搬出先

品目	建設発生土
施設の名称	㈲ハリマ総合開発
所在地	加古郡稲美町草谷1-70
運搬距離	19.4km
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

2　特定建設資材の分別解体等・再資源化等

1）分別解体等の方法

	工程	作業内容	分別解体等の方法
工程ごとの作業内容及び解体方法	①仮設	仮設工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 ■有　□無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑥その他	その他の工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用

2）再資源化等をする施設の名称及び所在地

品目	アスファルト塊
施設の名称	(株)明石資材神戸
所在地	神戸市西区平野町中津1337-3
運搬距離	9.5km
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

品目	コンクリート塊（無筋）
施設の名称	
所在地	
運搬距離	
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

品目	コンクリート塊（有筋）
施設の名称	
所在地	
運搬距離	
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

水 道 工 事 標 準 仕 様 書

1　総　則

1.1（適　用）

1　水道工事標準仕様書（以下「標準仕様書」という。）は、明石市水道部が発注する水道管（導水・送水・配水）布設、布設替及び給水管工事全般（以下「工事」という。）に適用する。

2　工事請負契約書（以下「契約書」という。）及び仕様書・設計書・設計図（以下「設計図書」という。）のいずれかによって定められている事項は、契約の履行を拘束するものとする。

3　本工事は、契約書及び設計図書のほか、水道工事標準仕様書(日本水道協会)・水道事業実務必携（全国簡易水道協議会)・土木請負工事必携(兵庫県県土整備部)・土木工事共通仕様書(兵庫県県土整備部）・土木施工管理基準(兵庫県県土整備部)・給水装置工事施行基準（明石市水道部）及びその他関係図書による。

1.2（法令等の厳守）

1　本工事の施工にあたり、受注者は建設業法・道路交通法・騒音規制法・労働基準法・労働者災害補償保険法・労働安全衛生法・その他関係法規を厳守し、必要な諸手続きを行い、事故等を起こさないよう十分注意すること。

2　本工事は、総ての法令等の定めによるほか、設計図書に基づき、監督員の指示のもとに、忠実に誠意と責任をもって迅速に施工すること。

1.3（書類の提出）

1　受注者は、明石市及び明石市水道部の定める様式による書類を提出すること。

2　提出した書類に変更を生じたときは、速やかに変更届を提出すること。

1.4（監督員）

1　監督員とは、水道部が指定した当該工事を監督する職員（主任監督員及び監督員）をいい、明石市工事監督規程に基づいて監督するほか、次に掲げる権限を有する。

(1) 工程の管理、工事施工状況の確認及び工事材料の試験の立会い、水圧テスト等の検査を行うこと。

(2) 受注者に対して、指示、協議又は承諾を行うこと。監督員がこれらの権限を行使するときは、書面により行うものとする。ただし、緊急を要する場合は、監督員が受注者に対し、口頭による指示等を行えるものとする。口頭による指示等が行われた場合は、後日書面により監督員と受注者の両者が指示内容等を確認するものとする。

1.5（現場代理人）

1　現場代理人は、工事期間中、受注者として全責任をもち、工事に関する一切の事項を処理することとともに常に監督員と緊密な連絡をとり、工事の円滑、迅速な進行を図ること。

2　現場代理人は、工事の従事者を十分に監督し、工事現場内における風紀を取締り、火災、盗難の予防、衛生等に配慮するとともに、特に住民に迷惑をかけないよう指導すること。

1.6（費用の負担）

材料及び工事の検査並びに工事施工に伴う測量、調査、試験、諸手続きに必要な費用は受注者の負担とする。

1.7（条件の変更）

受注者は工事の施工に当り、次のいずれかに該当する事実を発見したときには、監督員に連絡し、その確認を求めなければならない。

(1) 設計図書と工事現場の状態が一致しないとき。

(2) 設計図書の表示が明確でないとき。

(3) 工事現場の地質、湧水等の状態、施工上の制約等設計図書に明示された自然又は人為的な施工条件が実際と相違するとき。

(4) 設計図書に明示されていない施工条件について、予期することの出来ない特別の状態が生じたとき。

(5) その他設計図書等に疑義が生じたとき。

1.8（工事の中止）

1 自然的又は人為的な事象であって受注者の責めに帰すことができないものにより、受注者が工事を施工できないと認められるときは、監督員は、工事の中止を直ちに受注者に通知して、工事の全部又は一部の施工を一時中止させなければならない。

2 監督員は、前項の規定によるほか、必要があると認めるときは、工事の中止内容を受注者に通知して、工事の全部又は一部の施工を一時中止させることができる。

1.9（工事の検査）

工事の検査については、明石市工事検査規程に基づいて行う。

1.10（目的物の引渡し）

工事目的物の引渡しは、完成検査に合格したのち、工事目的物引渡書を水道部に提出したときをもって完了とする。

1.11（保証期間）

受注者は、２年以内（目的物引渡し日より）に工事目的物に瑕疵があるときは、その瑕疵を補修し、また、その瑕疵によって生じた滅失若しくは棄損に対し、損害を賠償すること。受注者に連絡する余裕のない場合は、水道部が復旧し、実費を徴収する。

2 安全管理

2.1（一般事項）

1 受注者は、常に工事の安全に留意して現場管理を行い、災害の防止に努めること。

2 受注者は、工事現場内の危険防止のため保安責任者を定め、次の事項を守るとともに、平素から防災設備を施すなど常に万全の措置がとれるよう準備しておくこと。

(1) 工事現場における安全な作業を確保するため、適切な照明、防護柵、仮囲い、足場、標示板等を施すこと。

(2) 万一の事故の発生に備え、緊急時における人員召集、資材の調達、関係連絡先との連絡方法等を確認するとともに図表等に表し、見やすい場所に掲示しておくこと。

(3) 暴風雨その他、非常時には、必要な人員を待機させ、臨機応変の措置が取れるようにしておくこと。

(4) 受注者は、熱中症対策等について充分に注意し、作業員に水分補給・塩分補給・休憩等を十分とらせること。

3 受注者は、工事の施工に当り必要な安全管理者、各作業主任者、交通誘導警備員等を配置し

て、安全管理と事故防止に努めること。

2.2（交通の安全確保）

1　受注者は、工事の施工にあたり、警察署長及び道路管理者の交通権限に係る指示に従うとともに、沿道住民の意向を配慮したうえで交通誘導警備員、看板類及び保安設備を配置し、交通の安全を確保すること。

2　受注者は、車両通行止め等のために迂回路を設ける場合は、当該迂回路を必要とする時間中、迂回路の入口に迂回路の地図等を標示する標示板を設置し、迂回路の途中の各交差点において、道路標識「まわり道」を設置するものとする。また、その迂回路に他工事等で車両通行止めが無いことを確認すること。

3　交通誘導警備員には工事現場における安全に関する巡視・点検・連絡調整等を行わせ、一般車輌・通行人等の円滑な誘導並びに安全確保に努めること。

4　看板類及び保安設備は、車両及び一般交通者の妨げとならないよう配置するとともに、常時適正な保守管理を行うこと。

5　歩道（歩道の無い道路では、通常歩行者が通る道路の端の部分）で工事をする場合は、歩行者通路を確保し、常に歩行者の通路として開放すること。

6　歩行者通路は、原則として車道に切回さないこと。ただし切回すことが許可された場合は、歩行者通路と車両通行路とは明確に分離すること。

7　夜間に保安設備を使用する場合は、必要な箇所に赤色警戒灯を点灯するなどして十分注意すること。

2.3（事故防止）

1　受注者は、各工種に適した工法に従って施工し、設備の不備、不完全な工法等によって事故を起こすことが無いよう十分注意すること。

2　工事現場においては、常に危険に対する認識を新たにして、作業の手違い、従事者の不注意のないよう十分徹底しておくこと。

3　工事中、不明管が出てきた場合には、監督員に連絡し、監督員の指示に従って、他の地下埋設物業者に確認したうえ、適切に処理すること。

2.4（事故発生時の措置）

事故等緊急非常事態が発生した時は、第三者及び作業員等の人命救助、人命の安全確保を最優先させるものとし、応急措置を講じるとともに、監督員及び関係各部署へ連絡しなければならない。また、軽微な事故等についても速やかに監督員に事故報告書等で報告するとともに、その指示を受けるものとする。

2.5（現場の整理整頓）

1　受注者は工事施工中、交通及び保安上の障害とならないよう機械器具、不用土砂等を使用の都度、整理整頓し、現場内及びその付近は常に清潔に保つこと。その際に、機械器具等を無断で家の敷地に置いたり、壁等に立て掛けたりしないこと。

2　受注者は、工事完成までに、不用材料、機械類を整理するとともに、仮設物を撤去して、跡地を清掃すること。

2.6（安全教育）

受注者は、作業員全員の参加により、月当たり半日以上の時間を割当て、定期安全研修（訓

練)を実施すること。その計画は、具体的に施工計画書に記載すること。実施状況は資料として整備及び保管すること。(土木工事共通仕様書 1-1-1-26 より)

また、労働者の作業が同一の場所において行われることによって生じる労働災害を防止するために安全衛生協議会を設置し、定期的に会議を開催し、作業間の連絡調整、工程調整等を実施すること。(労働安全衛生法第 30 条第 1 項、労働安全衛生規則 635 条より)

3　工事施工

3.1 (一般事項)

1　受注者は、工事に先立ち、施工計画書を提出し、これに基づき、工事の適正な施工管理を行うこと。なお、施工計画書作成に当たっては、監督員と十分打合せを行うこと。

2　受注者は、常に工事の進行状況を把握し、予定の工事工程と実績とを比較し、工事の円滑な進行を図ること。

特に施工期限が定められた箇所については、監督員と十分協議し、工程の進行を図ること。

3　受注者は、工事の出来形・品質等がこの仕様書・設計図等に適合するよう十分な施工管理を行うこと。

4　受注者は、監督員が常に施工状況の確認が取れるように日報等の必要な資料の提出すること。

3.2 (現場立会、架線・地下埋設物調査及び現地調査)

1　受注者は工事に先立ち、監督員とともに関係官公署等の係員と現場立会し、掘削位置・工法・交通安全設備・道路復旧材料の準備等について、許可条件・指示事項等を確認しなければならない。

2　受注者は、施工区域全域にわたる架線・地下埋設物の種類・位置・規模等を工事着手前に調査確認すること。必要に応じて他の地下埋設物占用者が現地立会を求める場合は、監督員とともに現地立会すること。

3　受注者は、工事施工中損傷を与える恐れのある施設物に対して、受注者の責任で仮防護その他適切な措置をし、工事完了後に原形復旧しなければならない。そのときには、施工前、施工中、施工後の写真撮影すること。

4　近接構造物 (家屋含む) の事前調査を行い、損傷等の有無を撮影し、関係者に提出すること。

5　施工範囲内の道路上の境界ピン・境界杭の有無を調査し報告すること。ある場合は監督員と協議し、その対応を検討すること。

3.3 (官公庁等への手続等)

1　受注者は、関係官公庁及びその他の関係機関への届出等の実施に当たっては、その写しを監督員に提出しなければならない。

2　受注者は、諸手続にかかる許可、承諾等を得たときには、その写しを監督員に提出しなければならない。

3　受注者は、監督員が行う各関係機関への届出等について、必要な書類及び写真等を監督員に提出しなければならない。

3.4 (地元説明)

1　受注者は、工事着手前に所定の工事標示を行い、付近住民に工事内容を説明して協力を求め、工事の円滑な遂行をはかること。

2　工事のため騒音を発し、付近住民の日常生活・業務等を妨害しないように配慮すること。

3　施工について営業等に支障があると思われる時は、監督員並びに付近住民と協議の上で、できるだけこれの軽減に努めること。

4　工事範囲内に自治会がある場合、当該自治会長に第 1 項と同様の工事説明を行うとともに、必要に応じて、工事広報の配布を行い工事同意書の提出を求めること。

5　受注者は施工前及び施工中(断水・濁水などの可能性がある場合)には、関係家屋にビラ等を配布し、周知すること。

6　給水管の切替等で個人の敷地内に入り、量水器または散水栓等から空気を抜く作業等を行う場合は、その旨を事前に説明し、トラブルが起こらないようにすること。

3.5（公害防止）

受注者は、工事の施工に際し、騒音規制法、振動規制法及び公害防止条例等を遵守し、地域住民から騒音、振動、塵埃等による苦情が起こらないよう適切な措置を講ずること。また、建造物、道路等に障害を及ぼさないよう十分注意すること。

3.6（道路の保守）

残土運搬その他によって、道路を損傷した場合は、掘削箇所以外の道路であっても受注者の負担で適切な補修をすること。

なお、関係官公署の検査を受けて引渡が完了するまで及びその保証期間内は受注者が保守の責任を負うこと。

3.7（工事公害の防止）

受注者は、工事用運搬路として、公衆に供する道路を使用するときは、積載物の落下等により、路面を損傷し、あるいは汚損することのないようにするとともに、特に第三者に工事公害による災害を与えないようにしなければならない

3.8（工事用地等の使用）

1　設計図書において受注者が確保するものとされる用地及び施工上受注者が必要とする用地については、自ら準備し、確保するものとする。

2　受注者は、施工上必要な土地等を第三者から借用又は買収したときは、その土地等の所有者との間の契約を遵守し、その土地等の使用による苦情又は紛争が生じないように努めなければならない。

3.9（建設副産物等）

1　受注者は、産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、工事着手前には兵庫県及び神戸市の許可を得た場所と交わした契約書の写しを施工計画書に含め監督員に提出し、施工中には産業廃棄物管理票又は電子マニフェストにより、適正に処理されていることを確認すること。工事完了後は産業廃棄物管理票(D 票、E 票の写し)および産業廃棄物管理票交付状況総括表を監督員に提出すること。

2　資源の有効な利用の促進に関する法律に基づき、建設副産物の適正な処理及び再生資源の活用を図らなければならない。また、明石市のすすめる環境マネジメントシステムの実施・維持に協力し、省エネ・省資源、廃棄物の減量・リサイクルの推進等により環境負荷の低減を図ること。

3　受注者は、土砂・砕石又は加熱アスファルト混合物を工事現場に搬入する場合には、「再生

資源利用計画」を、建設発生土・コンクリート塊・アスファルトコンクリート塊・建設発生木材・建設汚泥又は建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には、「再生資源利用促進計画」を所定の様式に基づき作成し、施工計画書に含め監督員に提出すること。

4　受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した「再生資源利用計画書（実施書）」及び「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出すること。

また、計画書及び実施書のデータを竣工図書として提出すること。

3.10（排出ガス対策型建設機械）

本工事において建設機械を使用する場合は、国土交通省の定めた排出ガス対策型建設機械指定要領に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。なお、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、「建設技術評価制度」又は「民間開発建設技術の審査証明事業」により評価された「排出ガス浄化装置」を装着した建設機械を使用することで同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督員と協議するものとする。

3.11（過積載車両の禁止）

受注者は、道路交通法に基づきダンプトラック等の車両を運転する際に、積載物の重量の制限を超える積載をしないこと。過積載車両もしくは過積載と疑わしい車両については、監督員が改善の指導を行い、受注者は改善結果を文書にて監督員に報告すること。

3.12（交通誘導警備員）

交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置することとする。

3.13（就業時間）

就業時間については、あらかじめ監督員と協議すること。

3.14（工事施工についての折衝報告）

工事施工に関して、関係官公署、付近住民と交渉を要するとき、又は交渉を受けたときは、適切な措置を講ずるとともに、速やかにその旨を監督員に報告すること。

3.15（他工事との協力）

工事現場付近で他工事が施工されているときは、互いに協調して連絡を密に取り、円滑な施工をはかること。

3.16（夜間工事）

夜間工事をする場合は、十分な照明を行うとともに保安設備を施すこと。また、付近住民に協力を依頼するとともに極力騒音・照明等により迷惑をかけないよう十分配慮すること。

3.17（工事記録写真）

受注者は、工事記録写真を整理編集し、監督員が随時点検できるようにするとともに、工事完成の際に提出すること。

3.18（工事関係書類の整備）

受注者は監督員の点検を随時受けられるよう、工事に関する書類を整備しておくこと。

4　材料

4.1（水道材料の規格）

本工事に使用する水道材料は、設計図書に品質規格を規定されたものを除き、明石市水道部

が材料分類ごとに指定したメーカー（別添使用材料登録業者一覧表及び給水装置工事施行基準参照）の製品（以下「指定品」という。）を使用すること。指定品以外の製品及び特殊品を使用する場合については、監督員の承諾を得た後、使用すること。

設計書及び特記仕様書に別途記載がある場合を除き、明石市水道部の規格を以下に示す。

(1)　K形ゴム輪は、同軸押輪・芯出ゴム輪又は同芯ゴム輪と同等品以上とすること。

(2)　特殊押輪、耐震補強金具等は耐震型(離脱防止性能 3DkN 以上)を使用すること。

(3)　K形管のT頭ボルト・ナットは、酸化被膜製と同等品以上とすること。

(4)　フランジボルト・ナットは SUS 製を使用すること。

(5)　フランジ部の紛体塗装面に接触する箇所には、ワッシャー(SUS 製)を使用すること。

(6)　仕切弁・消火栓・補修弁の開閉方向は左開きとする。

(7)　弁栓類等で使用するフランジの規格は２種（0.75MPa）とする。

(8)　鉄蓋・受枠・ボックスは、明石市水道部性能規定書による製品とする。

(9)　直管に内面粉体塗装を使用している路線については、「粉体塗装管」と記載しているポリエチレンスリーブを使用すること。

(10)　表示帯(管明示シート)は、15cm 幅 2 倍折の水道を明記したエコマーク認定品を使用すること。

(11)　管明示テープは、5 ㎝幅の水道用(青色)、年号(工事発注年度)を明記したエコマーク認定品を使用すること。(導水管は黄色無地を併用)

(12)　サドル分水栓穿孔箇所については、密着コアを使用すること。

(13)　割丁字管の分岐口径φ150 以下について、密着コアを使用すること。

4.2（土木材料の規格）

本工事に使用する土木材料は、以下に示す規格及び設計図書に品質規格を規定されたものを除き、土木工事共通仕様書に示す品質規格に適合したもの、またはこれと同等以上の品質を有するものとする。

(1)　スクリーニングスは、JIS　A5001　F-2.5 とする。ただし、監督員と協議のうえ、砂を使用する場合は、海砂(洗い砂)とする。

(2)　再生砕石は、路盤部分は RC-30 とし、その他は RC-40 とする。

(3)　粒調砕石は、M-30 とする。

(4)　再生密粒度アスファルトは、最大粒径 13 ㎜、締固め密度 2.35t/m3 とする。

(5)　再生粗粒度アスファルトは、最大粒径 20 ㎜、締固め密度 2.35t/m3 とする。

(6)　再生アスファルト安定処理混合物は、最大粒径 25 ㎜、締固め密度 2.35t/m3 とする。

4.3（材料の搬入）

受注者は、工事に使用する材料は工事の施工に支障を生じないよう現場に搬入すること。

4.4（材料の確認）

1　工事用材料は、使用前にその品質、寸法又は見本品について監督員の確認を受けるものであること。

ただし、指定品は、確認を省略することができる。

2　受注者は、材料確認に際して立会うこと。立会わないときは、受注者は確認に対し、異議を申し立てることはできない。

3　受注者は、材料確認した材料は損傷、変質等の不良化しないように保管すること。

4　受注者は、材料確認した材料が使用時に損傷、変質等している場合は、新品と取替、再確認を受けること。不良品は現場から直ちに搬出すること。

5　管布設工事

5.1（配管技能者）

1　受注者は、鋳鉄管布設工事に先立ち、当該設計書に適する下記の配管技能者の登録証、受講証等を施工体制台帳に添付すること。配管技能者とは、日本水道協会の配水管技能登録者(一般登録・耐震登録・大口径)又は、各管協会や各メーカーの継手接合研修会受講証等を有する者とする。日本水道協会の配管技能登録者の場合、一般登録はＴ・Ｋ形管等の一般継手（φ450㎜以下)、耐震登録はＮＳ・ＧＸ形管等の耐震継手（φ450 ㎜以下)、大口径は一般継手と耐震継手（全口径）を配管出来る技能を有するものとする。各管協会や各メーカーの継手接合研修会受講証等を有する者の場合、管種・口径を指定している受講証については、その管種・口径とし、ＮＳ形・耐震管の受講証については、そのロ径のＮＳ・ＧＸ形管等の耐震継手及び一般継手を配管出来る技能を有するものとする。

2　受注者は、配水管を布設するときには、上記の配管技能者が、当該工事で使用する管種・口径の施工要領等に従って施工すること。

3　受注者は、給水管の施工がある場合には、明石市水道事業指定給水装置工事事業者証及びその業者が雇用する給水装置工事主任技術者の資格証の写しを施工体制台帳に添付すること。また、その給水装置工事主任技術者が給水装置工事施行基準（明石市水道部）に基づき監督・指導すること。

4　受注者は、上記以外の管種（配水用ポリエチレン管・鋼管等）の施工、または、管更生等が含まれる場合、それぞれの資格証等を有する技能者が施工すること。また、その資格証等を施工体制台帳に含めて監督員に提出すること。

5.2（断水を伴う連絡工事）

1　断水を伴う連絡工事箇所は、監督員立会の上、試掘調査を行い、連絡する既設管及び他の近接埋設物を確認すること。

2　断水を伴う連絡工事にあたっては、事前に施工日時等を監督員と調整の上行うこと。ただし、断水時間は 13 時 30 分から 16 時を基本とすること。断水時間を極力短縮するために必要な諸設備・機械器具及び車輌等を十分点検し、作業員も十分に配置すること。

3　断水工事及び管内洗浄作業等に必要な弁栓類操作は、基本的には水道部職員で行うが、必要に応じて、応援を求めることがある。その時は、速やかに指示に従い応援すること。

4　万が一、連絡工事箇所周辺で濁水が出たときには、水道部職員の指示により周辺家屋への対応をすること。

5.3（広報活動）

1　断水工事を行う場合には、事前に断水となる家屋等を調査し、断水のビラを作成し、監督員が確認したあと、当該家屋に配布すること。そのビラには、日時・区域・連絡先及びその他必要事項を記入すること。

2　断水を伴わない場合でも、仕切弁の開閉操作等により、工事箇所周辺に濁水のおそれがある

場合は、監督員と協議したうえで、断水のビラと同様の濁水のビラを作成し、監督員が確認したあと、当該家屋に配布すること。

3　上記の広報活動をする場合に、当該区域内にある店舗・病院・工場・浴場等には事前に個別に了解を得ること。

4　受水槽物件があれば、事前にその設置管理者と打合せを行い、ポンプ電源や流入側バルブ等の閉止措置を行うこと。

5.4（ボルトの締め付け）

1 ボルトの締め付けに際しては、対称的な位置を順次締め、片締めにならないように、ゴム輪の圧縮を均等にさせること。

2 インパクトレンチを使用する場合には、締め付けの 7 割程度とし、残りはトルクレンチで締め付けること。

3 トルクの管理については、チェックシートに全箇所記載し、竣工図書で提出すること。

5.5（使用機材）

内面粉体塗装管の穿孔作業をするときは、先端角度が 90°から 100°、ねじれ角度が 20°から 30°の電動式穿孔機を使用すること。

5.6（管の明示）

1　管の識別を明確にするために、管明示テープを使用して、上水道管であることを明らかにすること。

2　表示帯（管明示シート）は、管天より 40cm の位置に丁寧に設置すること。

5.7（仮消火栓）

仮消火栓を配置する箇所について、「仮消火栓」の看板等を設置して明示するとともに、撤去予定の消火栓の鉄蓋に使用禁止を明示すること。

5.8（仮舗装復旧）

本工事において仮舗装復旧した箇所について、路面表示部分を掘削した場合は、本復旧までの間、同色のペイント等で修復すること。また、水道の仮舗装箇所と分かるように水色塗料で水道マーク表示を行うこと。

5.9（水圧試験）

1　水道管の水圧試験は、監督員が管内充水後、特に監督員からの指示がある場合を除き、下記の試験水圧まで加圧し確認するものとする。また、水圧計は地面より 70cm 程度の高さに設置すること。

(1)　通常配管（以下の特殊箇所以外）の場合、試験水圧を 0.75MPa とする。30 分間以上の経過後、低下率 1.0%以内を許容限度とする。

(2)　不断水工事の割丁字管箇所は、試験水圧を 1.25MPa とする。ただし、既設管の状態（ＦＣ管又は表面の腐食等が激しい場合）・ＡＣＰ管・ＶＰ管の場合は、最高試験水圧は 1.0MPa 以下でもよい。5 分間以上その状態を保持し、水圧の低下の無いことを確認するものとする。

(3)　中大口径のメカニカル継手管で、監督員が認めた場合は、テストバンドによる継手の水密性検査をもって、水圧試験に代えることが出来るものとする。この場合は、水圧 0.50MPa を負荷して 5 分経過後に 0.40MPa 以上保持することを確認するものとする。

(4)　管更生の場合は、管更生区間のみで水圧試験を(1)の方法で行い、その後、その区間を含めた仕切弁から仕切弁の水圧試験を再度(1)の方法で行うものとする。ただし、管更生区間のみの水圧試験にかかる材料（栓、押輪等）等は設計で計上するものとする。

(5)　配水用ポリエチレン管、鋼管等の場合は、監督員の指示により、試験水圧及び方法を決定する。

2　給水管の水圧試験は、サドル分水栓部分のみ 1.75MPa まで加圧し、1 分間以上のその状態を保持し、水圧の低下の無いことを確認するものとする。

6　提出書類

受注者は、工事請負契約に必要な書類を明石市水道部の入札・契約情報のホームページ及び土木請負工事必携に記載されている書類を関係部署に提出するほか、下記の書類を監督員に提出すること。ただし、監督員が必要でないと認めた場合は、この限りでない。

1　工事日報

受注者は、契約日から竣工日までの日々の作業に対して工事日報を作成し、監督員にすみやかに提出しなければならない。工事日報に記入する項目は、表側に年月日、曜日、天気、工事名、工事場所、当初設計延長（口径別）、出来形延長（口径別、日毎延長、累計延長）、作業内容、使用材料（品名、形質、数量等）を、裏側に日毎の作業内容の図示（下記竣工図(水道管)・(給水管)と同様）とする。また、白色ケント紙 110kg（Ａ４サイズ）で作成すること。ただし、休工日等の場合は連続する日を普通紙１枚で作成すること。

2　竣工図(水道管)

受注者は、竣工図（兼出来形図）を作成し、工事完成図書に添えて提出すること。竣工図（兼出来形図）には次にあげるものをもって構成する。

(1)　平面図（他の埋設管等で切り回している箇所等は別途詳細図）は、布設位置、標準断面図、土被り、延長（管種・口径毎）、防護工等を以下のことに注意して記入すること。

a. 必ず方位を記入すること。

b. 直管、切管、異形管、弁栓類等の種別及び材質を表示すること。切管等の数値は㎜表示とし、整数１位を四捨五入とし、２位表示とすること。

c. 特殊押輪、普通押輪、G-Link、ライナーの区別を表示すること。

d.配管材料記号、引出線及び部材名等を赤色で表示すること。

(2)　消火栓、空気弁、仕切弁、その他監督員の指示する箇所等についてはオフセット測量し、撤去されるおそれの無いマンホールの中心点や地先境界の角、その他３点以上の照点を定め水平距離を測定し記入する。

(3)　仕切弁・バタフライ弁・消火栓・空気弁・補修弁・不断水・仕切弁蓋・消火栓蓋・空気弁蓋・仕切弁 BOX・消火栓 BOX・空気弁 BOX 等の弁栓類関係について、使用したメーカー名を記入すること。

3　竣工図(給水管)

受注者は、竣工図を作成し、白色ケント紙 110kg（Ａ３サイズ）を工事完成図書に添えて提出すること。竣工図には次にあげるものをもって構成する。

平面図には、布設位置、口径を、表には番号、水道番号、家屋名、サドル分水栓、本管深さ、

ＰＰユニオン、ＰＰエルボ、ＶＰユニオン、止水栓、ボックス、ＰＰパイプ、本管止水距離、備考（接続した管種）を記入すること。

４　その他提出書類

書類名	提出時期	提出部数	備考
施工計画書	工事実工程着手前	3 部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1 部返却)
工事用材料使用承諾願	工事実工程着手前	2 部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1 部返却)
施工体制台帳	下請負契約後速やかに	3 部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1 部返却)
再生資源利用[促進]計画書	施工計画書提出時		配水管・給水管合併工事は併せて作成(施工計画書に含める)
工事日報	施工日以後速やかに	1 部	配水管・給水管合併工事は併せて作成
竣工図(原図)	竣工時	1 部	JPEG(A1・カラー・解像度 200dpi 以上)で保存した CD を提出
竣工図(焼き図)(原則 A1 サイズ)	竣工時	4 部	上記竣工図折図で提出 白紙(カラー)・折図(横 15cm×縦 23cm)
工事記録写真（写真帳）	竣工時	1 部	データは CD、または DVD で提出(出来る限り 1 枚で収まるように)
産業廃棄物管理表交付状況総括表	竣工時	1 部	原本を提出し、検査員確認後返却
建設廃棄物処理計画書	竣工時	1 部	施工前に提出予定のものの写しを提出
特定建設作業実施届出書	竣工時	1 部	施工前に提出予定のものの写しを提出
再生資源利用[促進]実施書	竣工時	1 部	CD でデータも提出
工事打合簿	打合せの都度	2 部	1 部返却

その他明石市工事検査要綱及び明石市水道事業施設等工事検査要綱に基づき必要書類を提出すること。CD 及び DVD で提出するものは、工事名・内容が分かるようにすること。

＊　竣工図書は、Ｂ４Ａ４サイズの文書保存箱で工事名･施工年度等を明示して納品すること。

（施行期日）

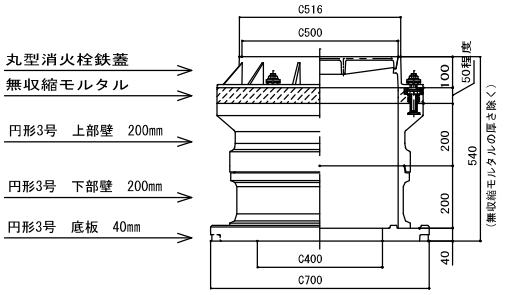
この仕様書は、平成 29 年 4 月 1 日より施行する。

使用材料登録業者一覧表

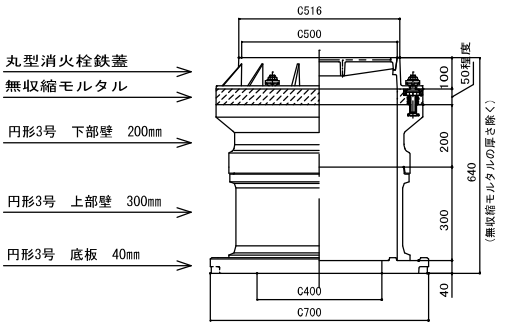
材料分類	適用規格等	登録業者名
水道用ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管直管 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	GX形S種管(溝切するときは1種管) NS形1種管	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、日本鋳鉄管㈱
水道用ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄異形管 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)		㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、日本鋳鉄管㈱、幡豆工業㈱、 ㈱岡本、朝日鋳工㈱、梅原工業㈱、九州鋳鉄管㈱、 大成機工㈱、クロダイト工業㈱
水道用ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁 (内外面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JIS B 2062又はJWWA B 120 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、内ねじ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、幡豆工業㈱、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所 富士鉄工㈱、㈱森田鉄工所、千代田工業㈱、角田鉄工㈱
水道用ﾊﾞﾀﾌﾗｲ弁 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JWWA B 138 (内面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、前澤工業㈱、㈱森田鉄工所、 ㈱清水鐵工所、㈱清水合金製作所、清水工業㈱、 宮部鉄工㈱
水道用地下式消火栓 (内外面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JWWA B 103 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式、ケレップ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、幡豆工業㈱、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 富士鉄工㈱、㈱森田鉄工所、千代田工業㈱、 宮部鉄工㈱、協和工業㈱、角田鉄工㈱
水道用急速空気弁 (内外面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JWWA B 137 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112)	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、幡豆工業㈱、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 ㈱森田鉄工所、千代田工業㈱、宮部鉄工㈱、 協和工業㈱、角田鉄工㈱
水道用補修弁 (内外面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JWWA B 126 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式、ボール式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、幡豆工業㈱、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 富士鉄工㈱、㈱森田鉄工所、千代田工業㈱、 宮部鉄工㈱、角田鉄工㈱、協和工業㈱
伸縮可とう管 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、クロダイト工業㈱、 日本ヴィクトリック㈱
不断水割T字管及び不断水ﾊﾞﾙﾌﾞ (接水部ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研
特殊継輪 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、 川崎機工㈱、クロダイト工業㈱
特殊押輪	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、 川崎機工㈱、クロダイト工業㈱
K形ゴム輪	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、川崎機工㈱
ゴム輪(K形以外)、パッキン(LSP形以外)		大成機工㈱、コスモ工機㈱、川崎機工㈱、㈱クボタ ㈱栗本鐵工所、興和ｺﾞﾑ工業㈱、三報ゴム㈱、 日本鋳鉄管㈱、サンエス護謨工業㈱、協和工業(株)
ﾌﾗﾝｼﾞ継手材(LSP形)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	協和工業㈱、サンエス護謨工業㈱
ボルト・ナット(緩み防止仕様以外) (GX形、NS形、ﾌﾗﾝｼﾞ形はｽﾃﾝﾚｽ製 、K形は酸化被膜製)		㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、㈱岡本、クロダイト工業㈱、 ㈱水研、㈱田中、㈱エスティム、日本鋳鉄管㈱、協和工業㈱
ボルト・ナット(SUS304製　緩み防止仕様)		協和工業㈱、サンエス護謨工業㈱
水道用ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管用 **ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ** **明示テープ(エコ認定製品)**	JWWA K 158 JDPA Z 2005	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、三報ゴム㈱、 サンエス護謨工業㈱、ヨツギ㈱
鉄蓋・受枠	明石市性能規定書	日之出水道機器㈱、長島鋳物㈱、スズテック㈱、 ㈱ダイモン
ボックス(ﾚｼﾞﾝｺﾝｸﾘｰﾄ製)	明石市性能規定書	日之出水道機器㈱、三国プラスチック㈱、長島鋳物㈱ スズキ鋳鉄工業㈱、㈱ダイモン
仮配管	SUS管	明和工業㈱、㈱多久製作所
	PE管	㈱光明製作所

円形3号ボックス組合せ図(標準図)

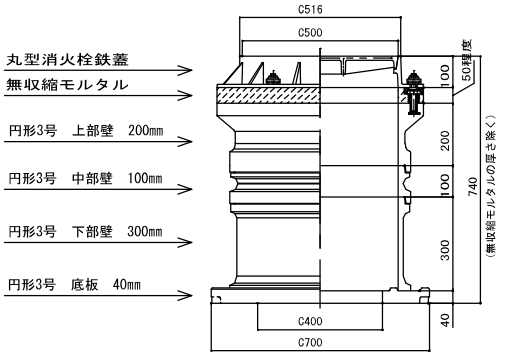
製品高さ　Ｈ＝５４０



製品高さ　Ｈ＝６４０



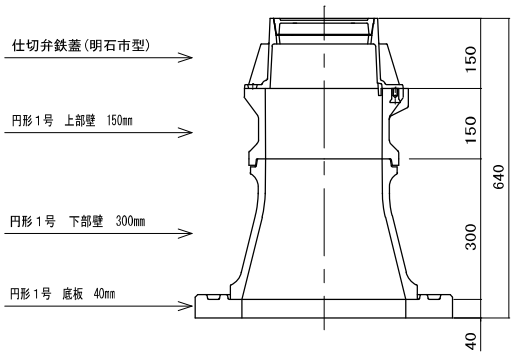
製品高さ　Ｈ＝７４０



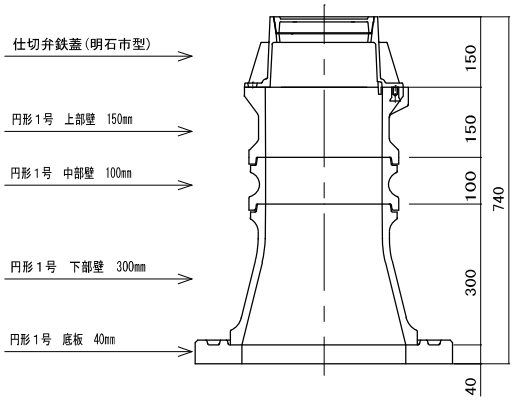
図名	組合せ図(標準図)
種類	円形3号ボックス
明石市水道部	

円形1号ﾎﾞｯｸｽ組合せ図(標準図)

製品高さH=640



製品高さH=740

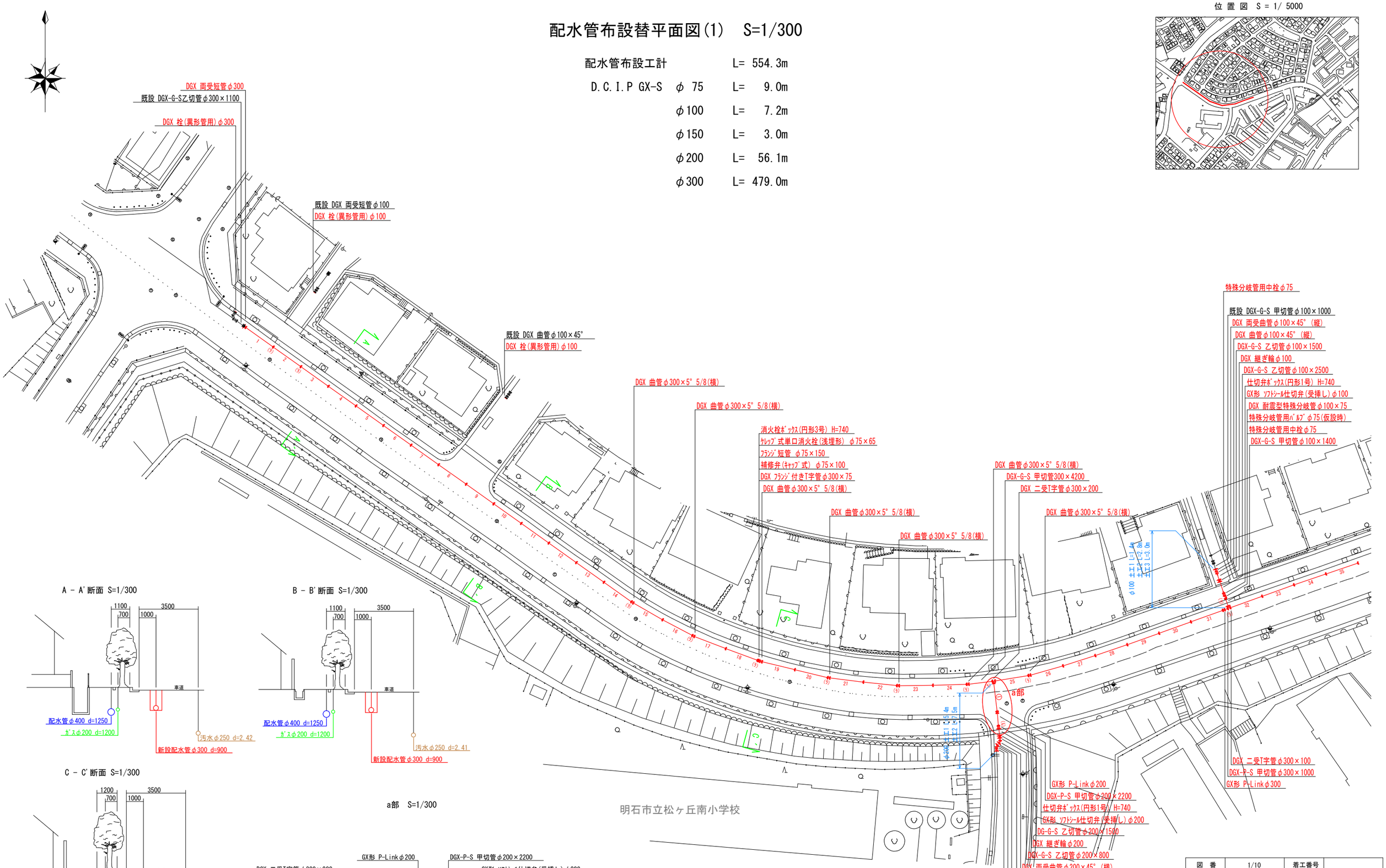


図名	組合せ図(標準図)
種類	円形1号ボックス
明石市水道部	

配水管布設替平面図(1)　S=1/300

配水管布設工計		L= 554.3m
D.C.I.P GX-S	φ 75	L= 9.0m
	φ100	L= 7.2m
	φ150	L= 3.0m
	φ200	L= 56.1m
	φ300	L= 479.0m

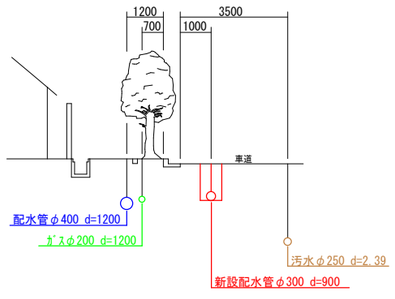
位 置 図　S = 1/ 5000



A － A' 断面 S=1/300

B － B' 断面 S=1/300

C － C' 断面 S=1/300



a部　S=1/300

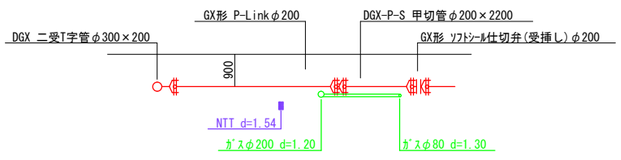
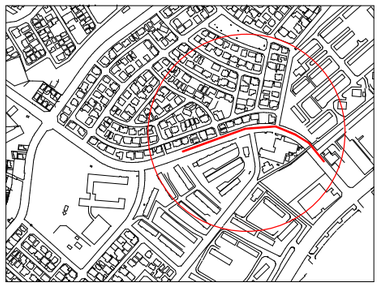
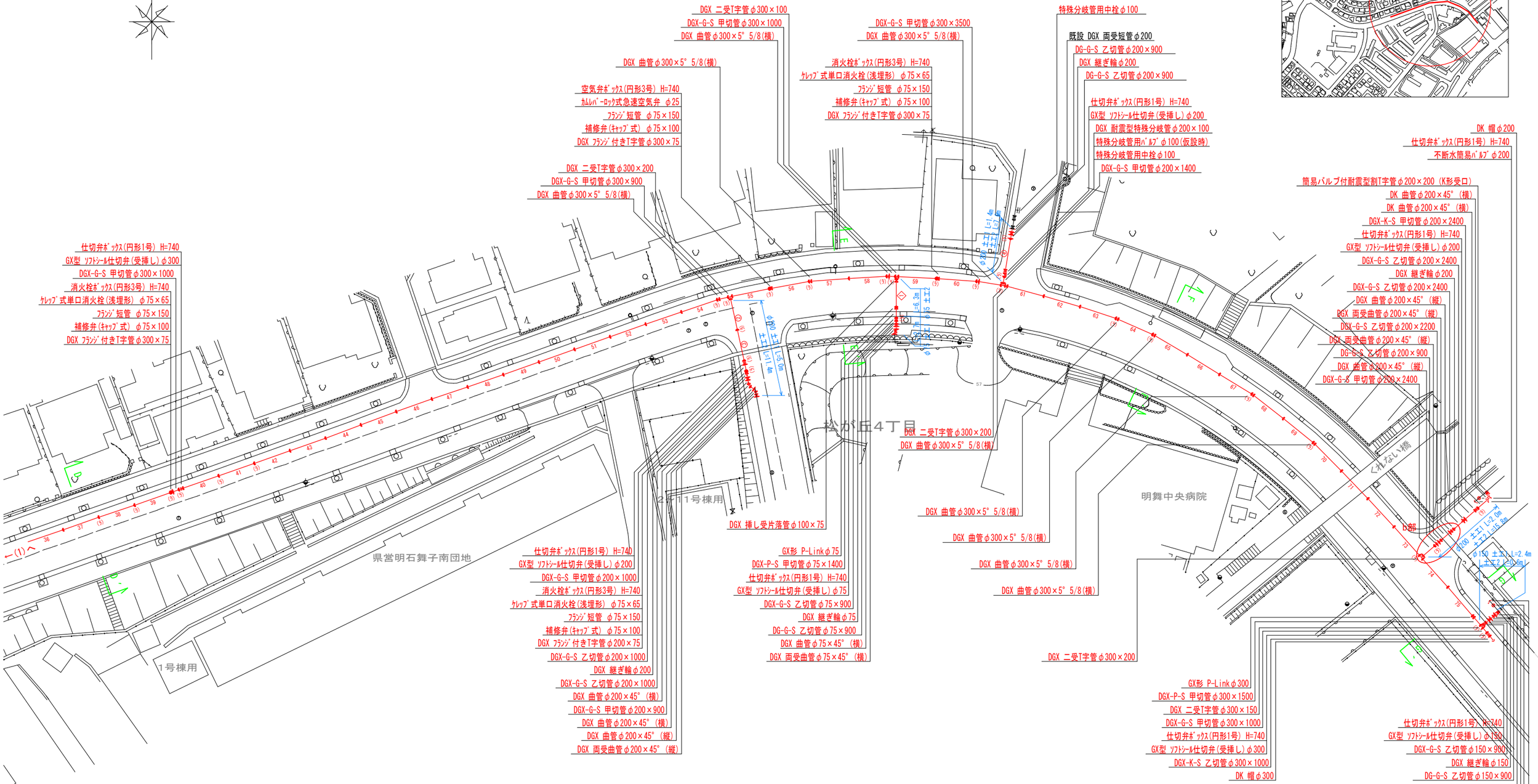


図　番	1/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・配水管平面図(1)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300 , 1/100		
制作日			
設計者		製図者	

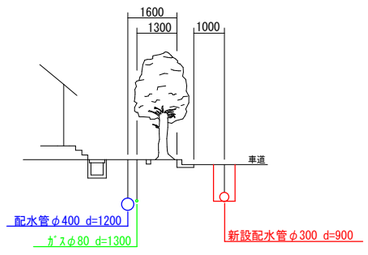
配水管布設替平面図(2)　S=1/300

位 置 図　S = 1/ 5000

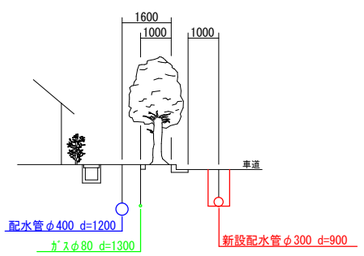




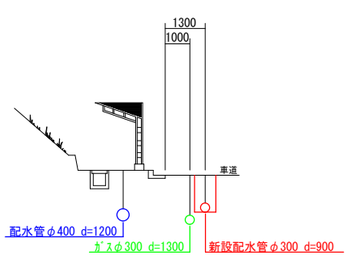
D - D'断面 S=1/300



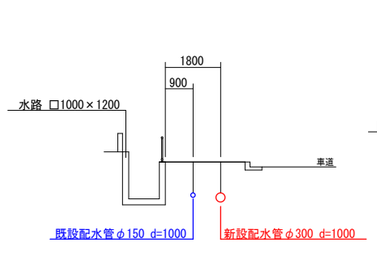
E - E'断面 S=1/300



F - F'断面 S=1/300



G - G'断面 S=1/300



b部詳細

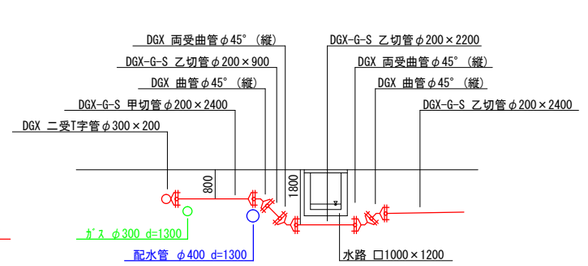
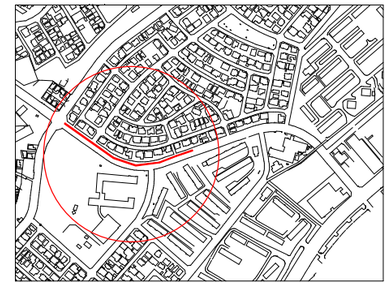


図　番	2/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・配水管平面図(2)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300 ， 1/100		
制作日			
設計者		製図者	

仮配水管布設撤去平面図(1)　S=1/300

位 置 図　S = 1/ 5000



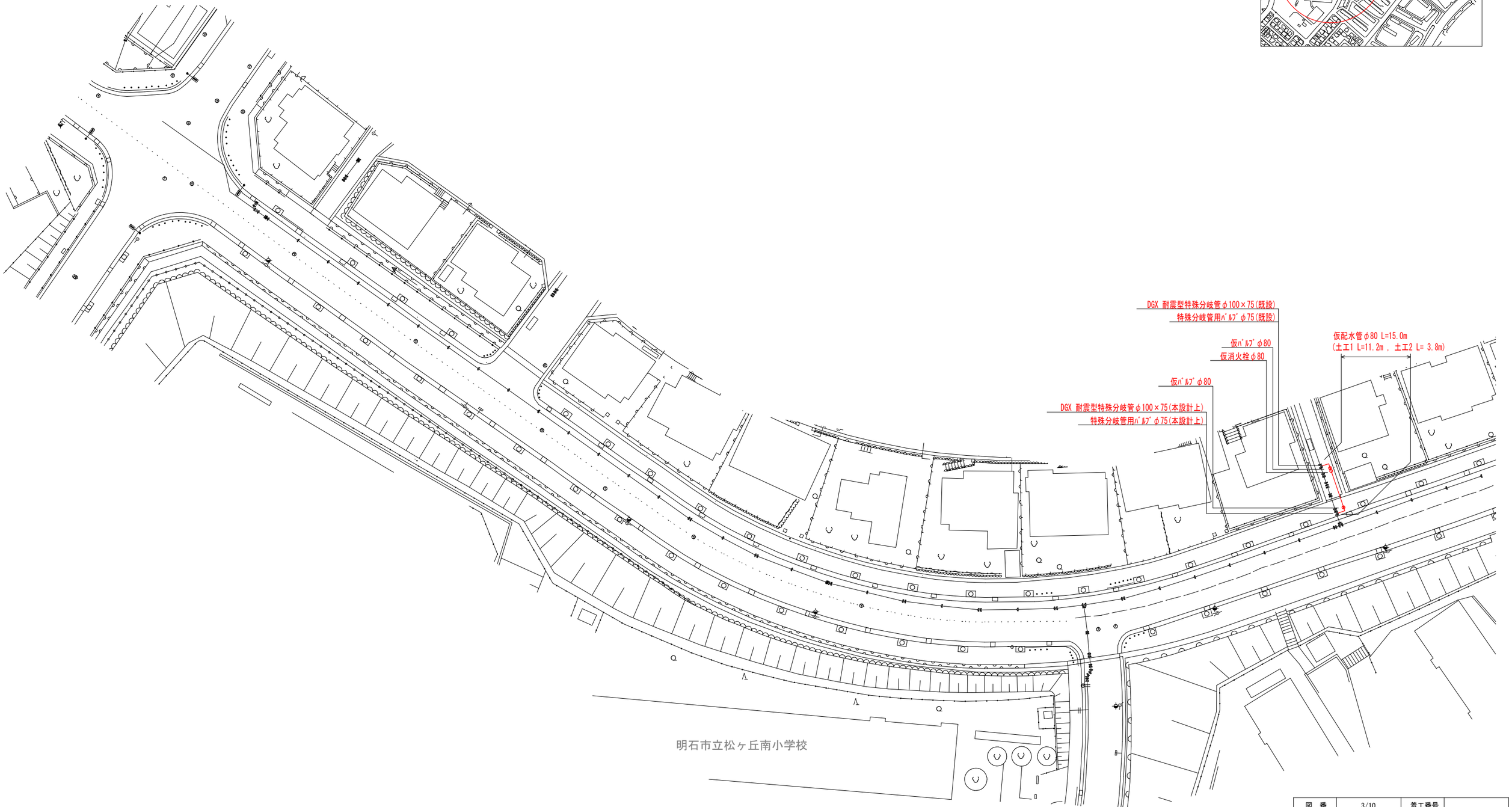
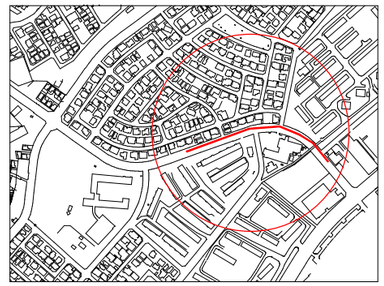


図　番	3/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・仮配水管平面図(1)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺			
制作日			
設計者		製図者	

仮配水管布設撤去平面図(2)　S=1/300

位 置 図　S = 1/ 5000



仮配水管φ150 L=20.2m(土工4 L=20.2m)
φ100 L= 1.0m(土工3 L= 1.0m)

DGX 耐震型特殊分岐管φ200×100(既設)
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞφ100(既設)

ﾚｼﾞｭｰｻｰ φ100×150

仮ﾊﾞﾙﾌﾞφ150

仮消火栓φ150

仮ﾊﾞﾙﾌﾞφ150

ﾚｼﾞｭｰｻｰ φ100×150

DGX 耐震型特殊分岐管φ200×100(本設計上)
特殊分岐管用ﾊﾞﾙﾌﾞφ100(本設計上)

松が丘4丁目

2・11号棟用

県営明石舞子南団地

1号棟用

明舞中央病院

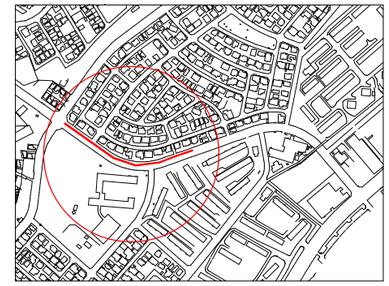
くれない橋

図　番	4/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・仮配水管平面図(2)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300		
制作日			
設計者		製図者	

既設管撤去平面図(1)　S=1/300

鋳鉄管φ100	L=	4.1m
鋳鉄管φ100(掘削有)	L=	31.1m
鋳鉄管φ150(掘削有)	L=	8.6m
鋳鉄管φ200	L=	6.0m
鋳鉄管φ200(掘削有)	L=	69.0m
鋳鉄管φ300(掘削有)	L=	4.2m
鋳鉄管φ400(掘削有)	L=	387.4m
鋳鉄管φ400(ﾓﾙﾀﾙ注入)	L=	89.3m

位 置 図　S = 1/ 5000



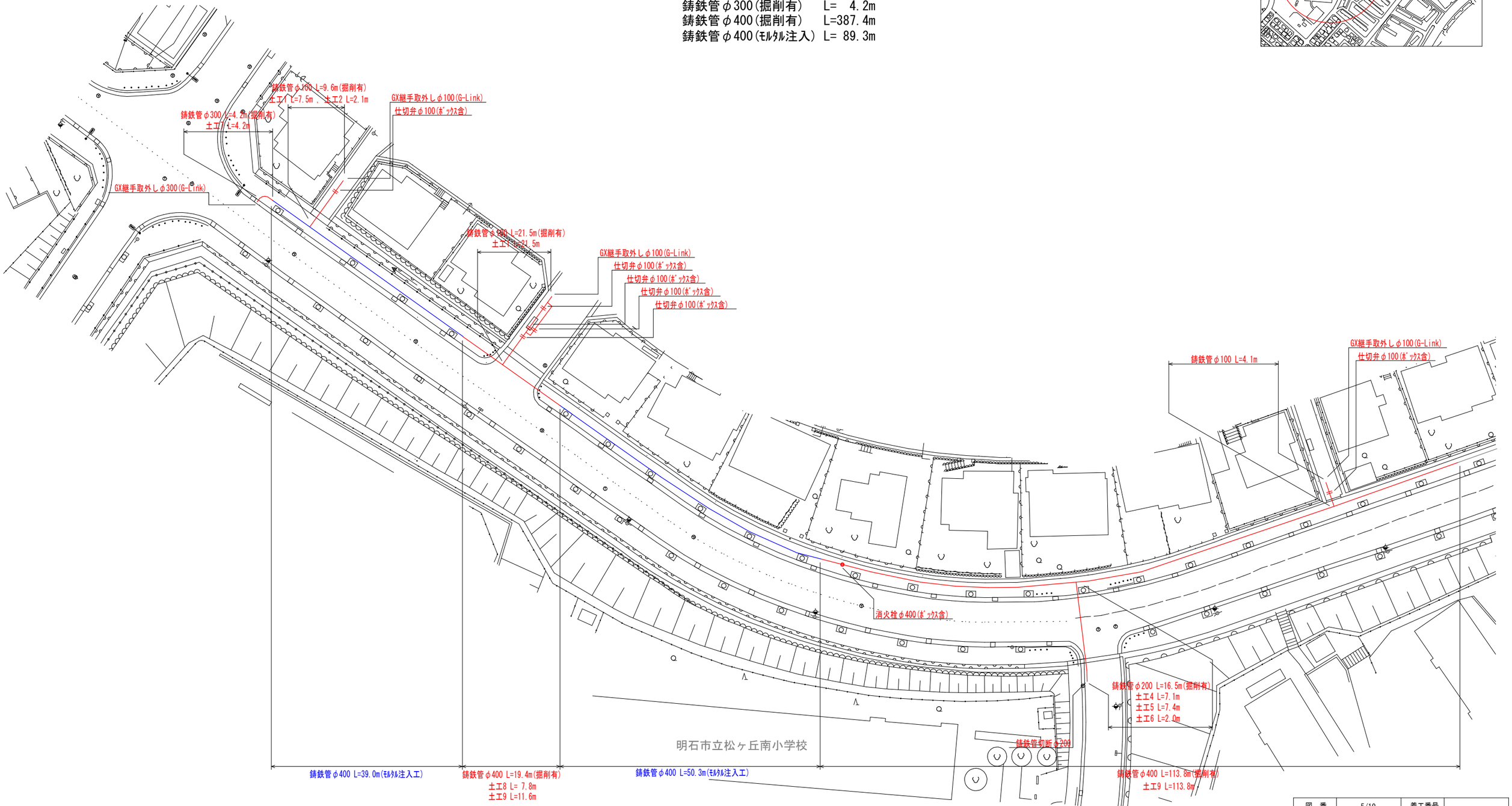
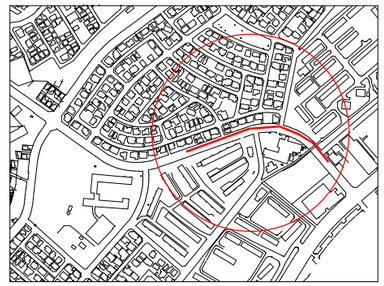


図　番	5/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・既設管撤去平面図(1)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300		
制作日			
設計者		製図者	

既設管撤去平面図(2) S=1/300

位 置 図 S = 1/ 5000



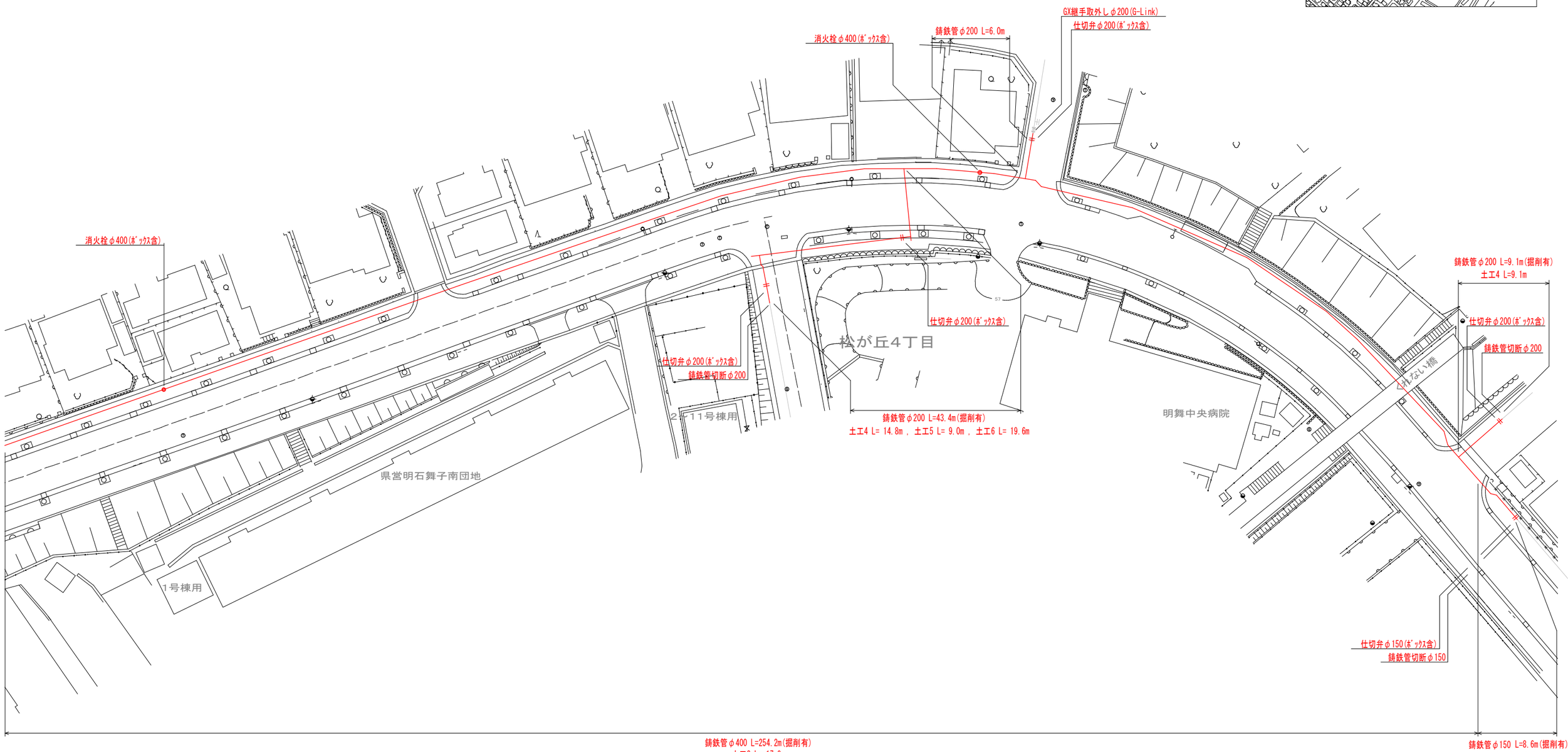
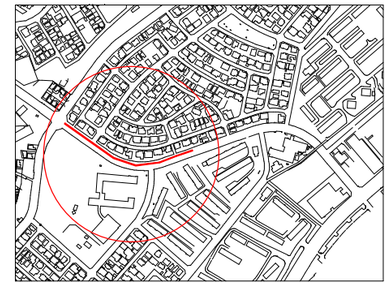
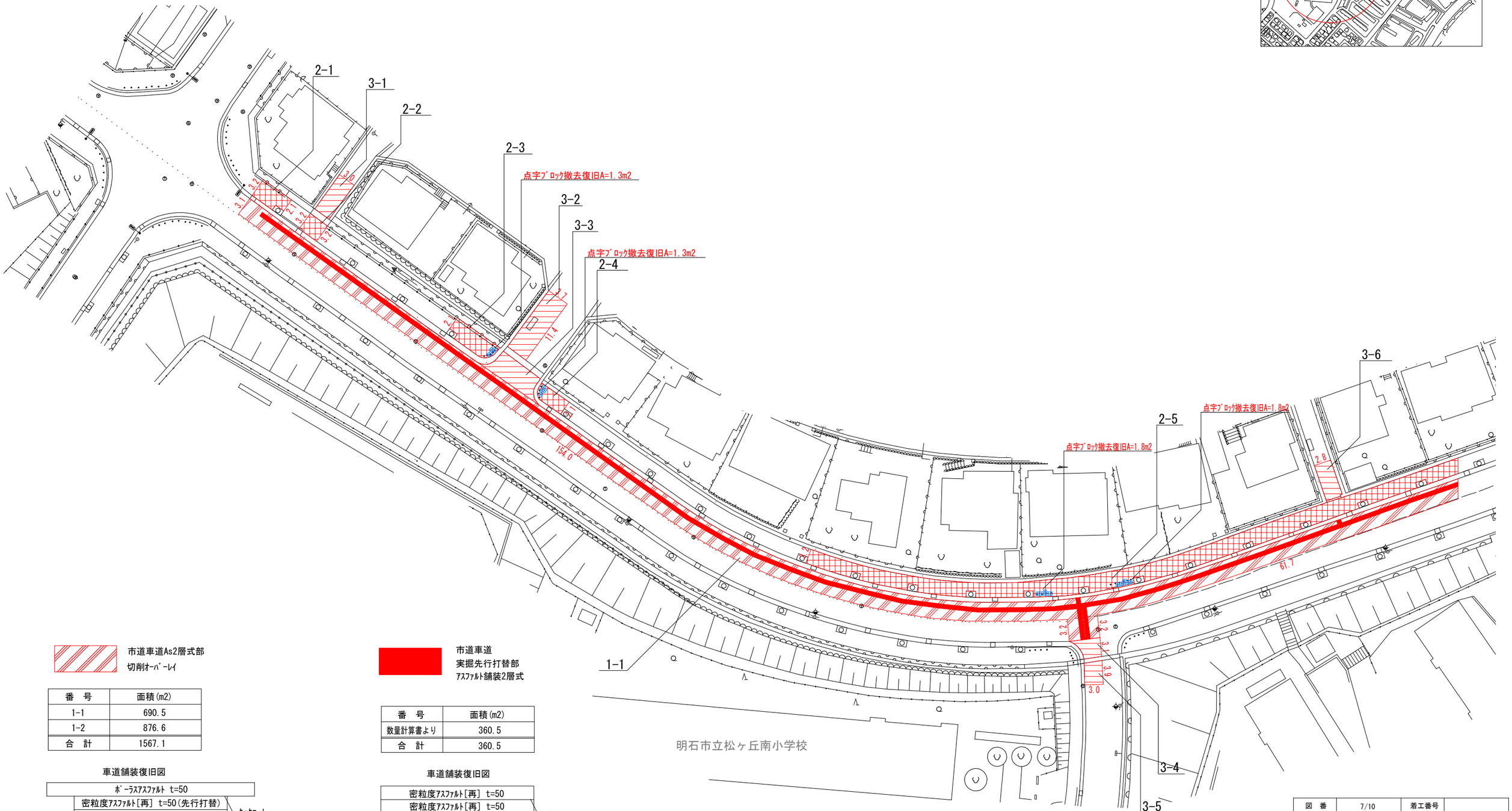


図 番	6/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図 種	位置図・既設管撤去平面図(2)		
場 所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮 尺	1/300		
制作日			
設計者		製図者	

舗装復旧平面図(1)　S=1/300

位 置 図　S = 1/ 5000





市道車道As2層式部
切削ｵｰﾊﾞｰﾚｲ

番　号	面積(m2)
1-1	690.5
1-2	876.6
合　計	1567.1

車道舗装復旧図

ﾎﾟｰﾗｽｱｽﾌｧﾙﾄ t=50
密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ[再] t=50(先行打替)
粒調砕石　t=100 (配管時施工)

ﾀｯｸｺｰﾄ
ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ(先行施工済)

市道車道
実掘先行打替部
ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装2層式

番　号	面積(m2)
数量計算書より	360.5
合　計	360.5

車道舗装復旧図

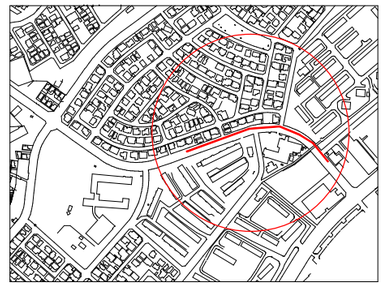
密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ[再] t=50
密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ[再] t=50
粒調砕石　t=100 (配管時施工)

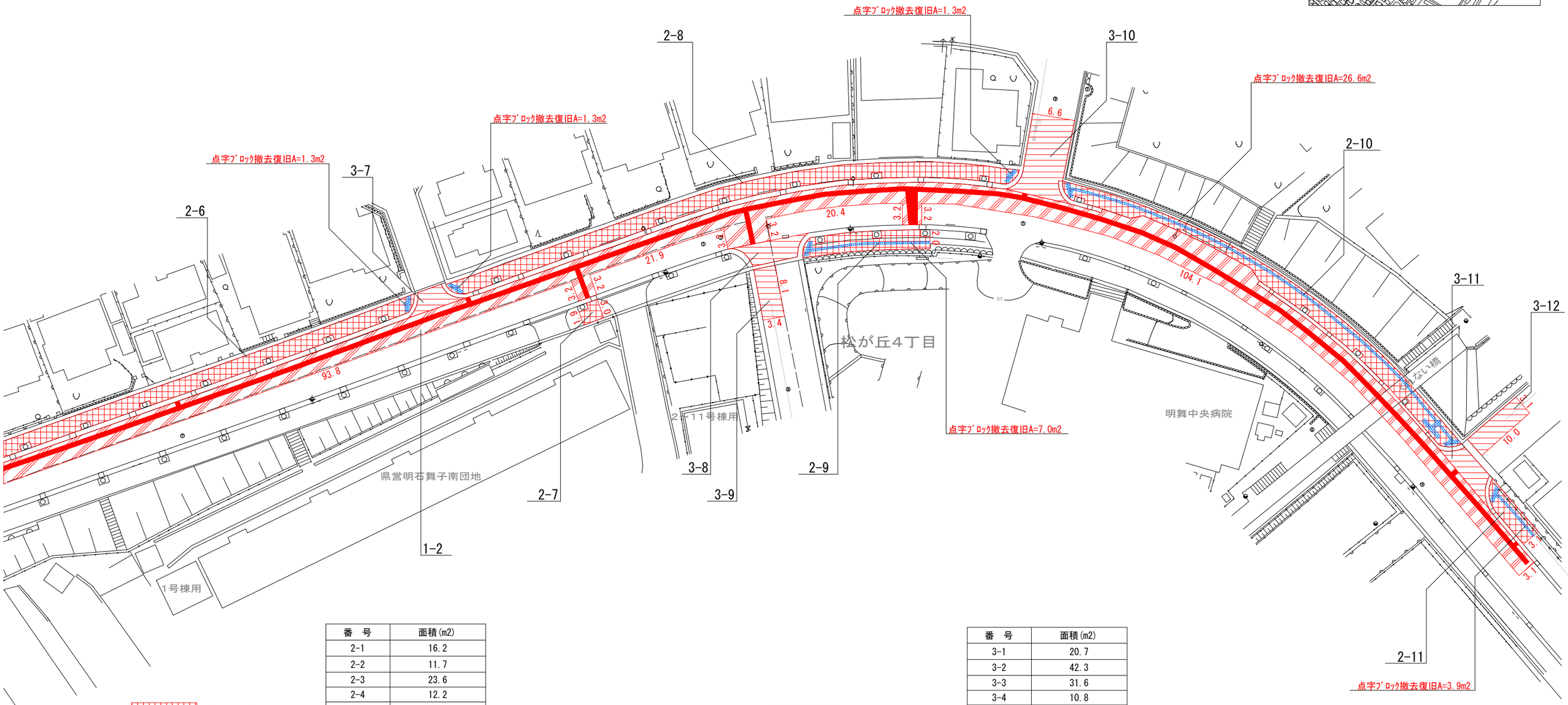
瀝青材無し
ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ

図　番	7/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・舗装復旧平面図(1)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300		
制作日			
設計者		製図者	

舗装復旧平面図(2)　S=1/300

位置図　S = 1/ 5000





市道歩道部
透水性As5cm

歩道舗装復旧図

開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ t=50
粒調砕石　t=100
(配管時施工)
ﾌｨﾙﾀｰ層(砂) t=50　(配管時施工)

番　号	面積(m2)
2-1	16.2
2-2	11.7
2-3	23.6
2-4	12.2
2-5	267.1
2-6	152.6
2-7	8.8
2-8	204.3
2-9	56.2
2-10	168.1
2-11	30.4
合　計	951.2

市道車道部
1層式As5cm

車道舗装復旧図

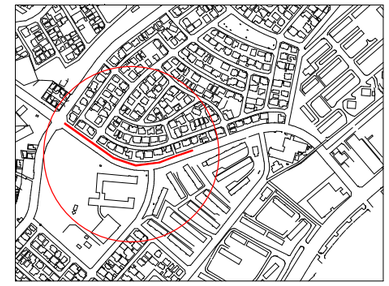
密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ[再] t=50
ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ
粒調砕石　t=100
(配管時施工)

番　号	面積(m2)
3-1	20.7
3-2	42.3
3-3	31.6
3-4	10.8
3-5	11.0
3-6	16.6
3-7	17.9
3-8	29.2
3-9	27.5
3-10	83.7
3-11	26.1
3-12	33.1
合　計	350.5

図　番	8/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・舗装復旧平面図(2)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300		
制作日			
設計者		製図者	

区画線復旧平面図(1)　S=1/300

位 置 図　S = 1/ 5000



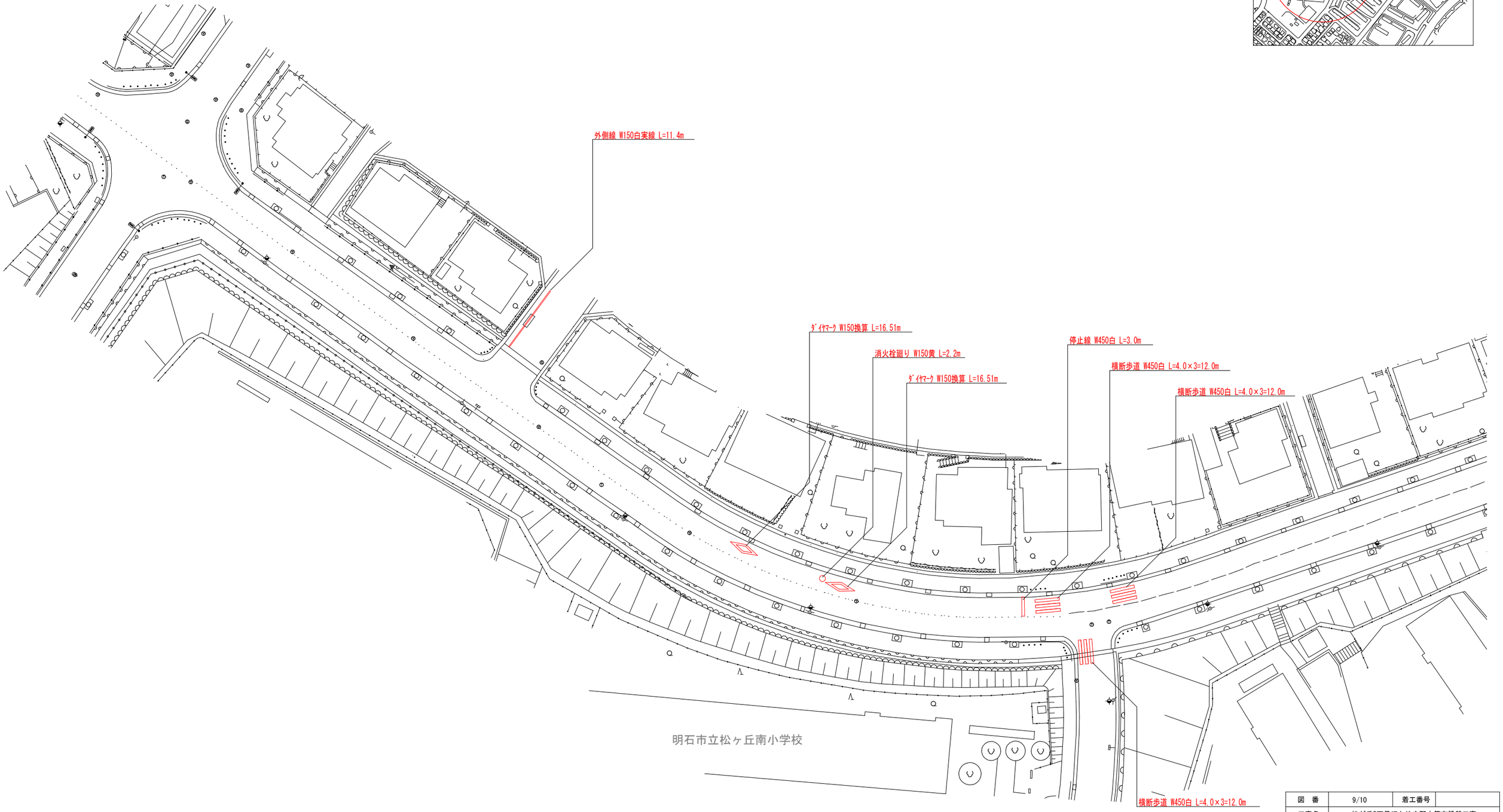
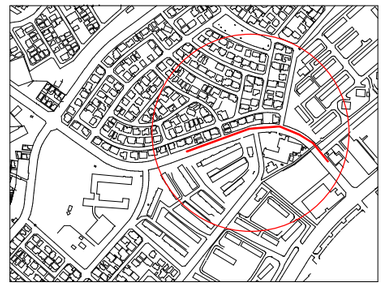


図　番	9/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・区画線復旧平面図(1)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300		
制作日			
設計者		製図者	

区画線復旧平面図(2)　S=1/300

位 置 図　S = 1/ 5000



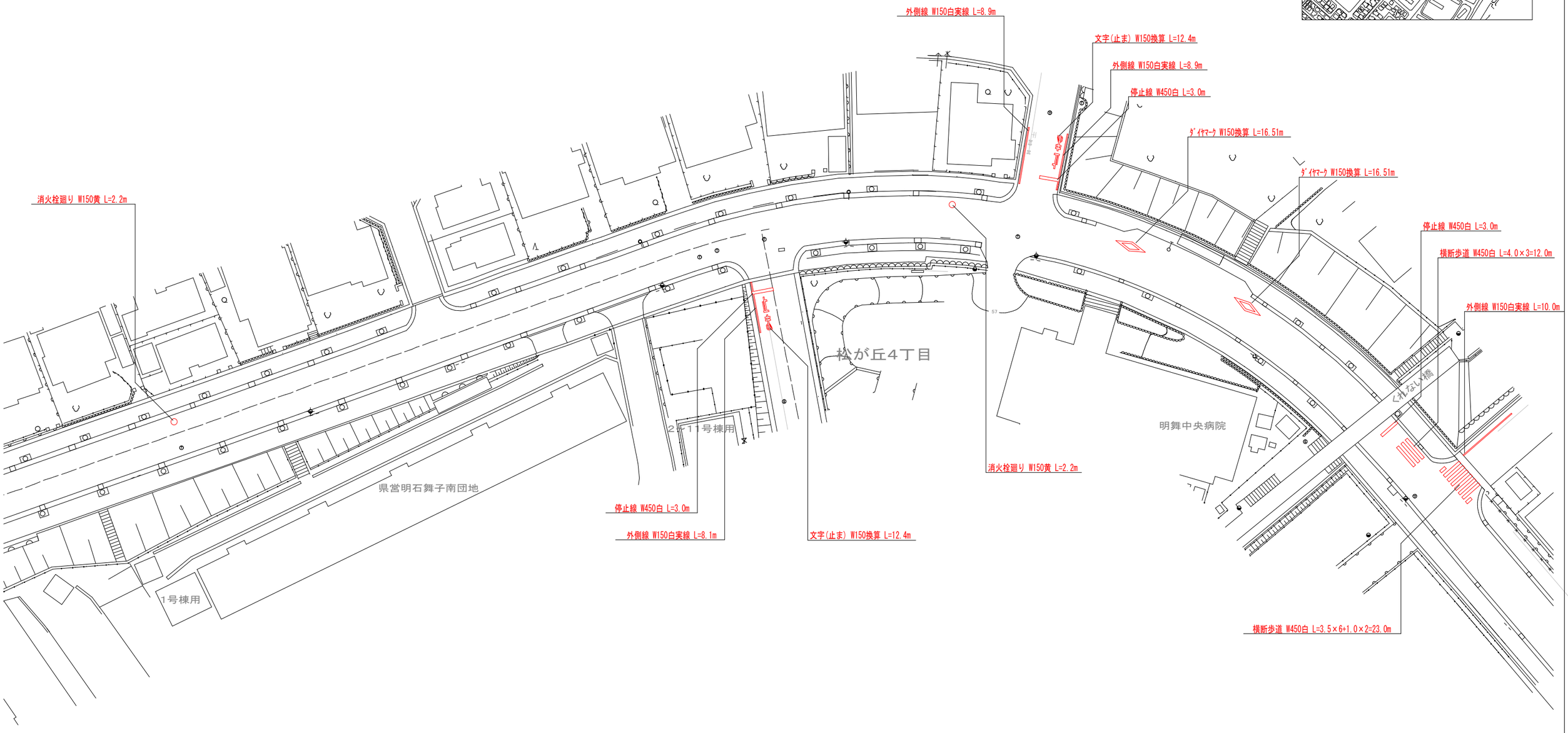
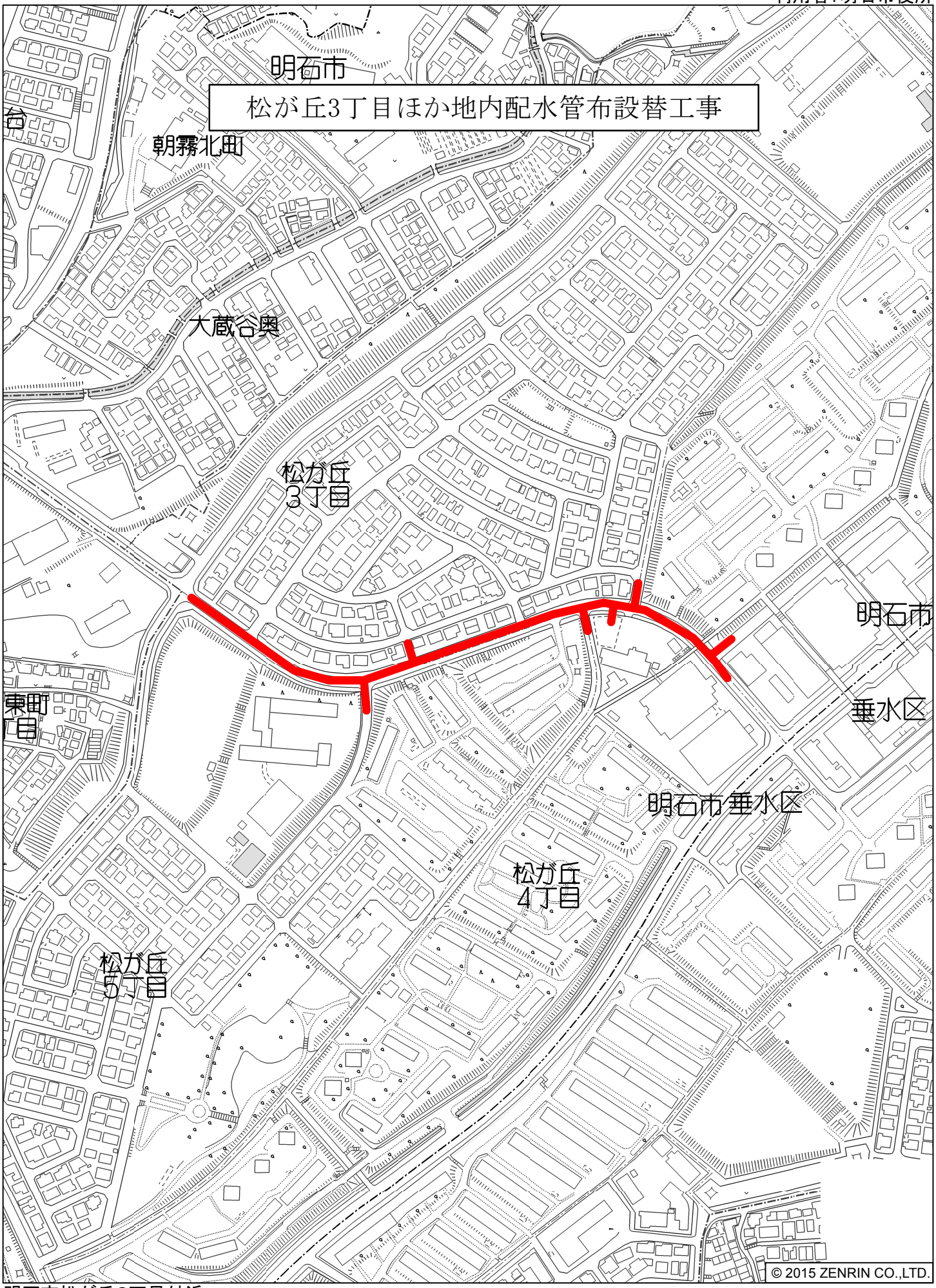


図　番	10/10	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事		
図　種	位置図・区画線復旧平面図(2)		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300		
制作日			
設計者		製図者	

利用者：明石市役所



明石市松が丘3丁目付近

縮尺 1 / 4,000

120m

工　事　設　計　書

年度	平成29年度	技術管理者	課長	係長	係長	精算者	設計者	配水及び給水費	
工事番号	29-5612							設計年月日	平成30年 1月 16日
着工番号								精算年月日	平成30年 1月 16日

施工理由			
施工箇所	明石市松が丘3丁目ほか地内	施工方法及び工事期限	(請負) 単価契約 平成30年3月31日まで
工事名称	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替に伴う給水管切替工事	支払い方法	前払金 なし 中間前払金 なし 部分払 無し
工事概要	給水管切替工計　4箇所 φ20 給水管切替工　2箇所 φ25 給水管切替工　1箇所 φ40 給水管切替工　1箇所		

当初設計金額	円	消費税相当額	円	当初請負金額	円	消費税相当額	円
変更設計金額	円	消費税相当額	円	変更請負金額	円	消費税相当額	円
増減	円	増減	円	増減	円	増減	円

総 括 情 報 表

単価適用年月日	0-30.01.01(0)	
	今　　回	前　　回
工種区分 施工地域区分	01　開削工事及び小口推進工事 01　市街地	

工　事　費　内　訳　書

費目・工種・種別・細目	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
本工事費					
管路(開削)					
給水管					
給水管布設工	1	式			工種　第0001号明細表
給水管布設土工	1	式			工種　第0004号明細表
交通管理工					
交通管理工	1	式			工種　第0006号明細表
直接工事費計					
共通仮設費計					

工　事　費　内　訳　書

費目・工種・種別・細目	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
共通仮設費率分		式			
純工事費計					
現場管理費		式			
工事原価計					
一般管理費等		式			
工事価格計					
消費税相当額		式			
総　計					

給水管布設工

工 種 明 細 表

工種　第0001号明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
管材	(1)	式			工種　第0002号明細表
手間	(1)	式			工種　第0003号明細表
合計	1	式			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0002号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
PP管　φ20 二層管,1種(軟質)	9.0	m			
給水管切替φ20（材料） ｻﾄﾞﾙ分水栓含まない	2	箇所			施工　第0-0001号内訳表
ｻﾄﾞﾙ分水栓(鋳鉄用)　φ300×20 密着コア込	2	個			
PP管　φ25 二層管,1種(軟質)	4.6	m			
給水管切替φ25（材料） ｻﾄﾞﾙ分水栓含まない	1	箇所			施工　第0-0002号内訳表
ｻﾄﾞﾙ分水栓(鋳鉄用)　φ200×25 密着コア込	1	個			
PP管　φ40 二層管,1種(軟質)	10.0	m			
給水管切替φ40（材料） ｻﾄﾞﾙ分水栓含まない	1	箇所			施工　第0-0003号内訳表
ｻﾄﾞﾙ分水栓(鋳鉄用)　φ300×40 密着コア込	1	個			

管材

工 種 明 細 表

工種　第0002号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
表示帯	23.6	m			
管明示ﾃｰﾌﾟ(幅50mm 1巻 20m) 年号入り ｴｺﾏｰｸ認定品	2	巻			
合　　計	1	式			

手間

工 種 明 細 表

工種　第0003号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ポリエチレン管 据付 呼び径　20mm	9.0	m			
給水管切替工(φ300～400×φ20)	2	箇所			施工　第0-0004号内訳表
ポリエチレン管 据付 呼び径　25mm	4.6	m			
給水管切替工(φ200～250×φ25)	1	箇所			施工　第0-0005号内訳表
ポリエチレン管 据付 呼び径　40mm	10.0	m			
給水管切替工(φ300～400×φ40)	1	箇所			施工　第0-0006号内訳表
管明示シート工	23.6	m			
管明示テープ工(ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管) 呼び径φ50mm以下	23.6	m			
合　　計	1	式			

給水管布設土工

工 種 明 細 表

工種　第0004号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土工	(1)	式			工種　第0005号明細表
合　計	1	式			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0005号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
舗装版切断(ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版) As舗装版厚->15cm以下	45	m			
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え　10cm以下	13	m2			
掘削積込工	8	m3			
掘削積込工(補助的作業なし)	1	m3			施工　第0-0007号内訳表
掘削[人力土工] 土砂	0.3	m3			
残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ) 〔㈱明石資材(神戸)〕 運搬距離　L=9.5km	0.9	m3			施工　第0-0008号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔㈲ハリマ総合開発〕 運搬距離　L=19.4km	9	m3			施工　第0-0009号内訳表
仮復旧工 [密粒度[再](13)] 厚 5cm	13	m2			施工　第0-0010号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚10cm	7	m2			

土工

工 種 明 細 表

工種　第0005号明細表

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅：1.8m 未満 仕上り厚15cm	6	m2			
フィルター層 ｔ＝40㎜以上60㎜未満 洗砂	4	m2			
埋戻工（埋戻し材->再生切込砕石）	5	m3			
埋戻工（埋戻し材->流用土）	0.8	m3			
埋戻工（埋戻し材->ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞｽ）	2	m3			
合　　計	1	式			

交通管理工

工 種 明 細 表

工種　第0006号明細表

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
交通誘導警備員	(1)	式			工種　第0007号明細表
合　　計	1	式			

交通誘導警備員

工 種 明 細 表

工種　第0007号明細表

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
交通誘導警備員B(保安要員) 昼間勤務－実働8時間(交替要員なし)	2	人日			
交通誘導警備員　B 昼間勤務－実働9時間(交替要員あり)	4	人日			
合　　計	1	式			

施工単価表

施工　第0-0001号内訳表　　頁0-0013/0022

給水管切替φ20（材料）

［規格１］ｻﾄﾞﾙ分水栓含まない　［規格２］　［ 摘要 ］　1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
PPﾒｰﾀｰｼﾞｮｲﾝﾄ φ20	2	個			
VPﾃｰﾊﾟｰﾕﾆｵﾝ φ20	1	個			
止水栓 φ20	1	個			
止水栓BOX 明石型 H=400	1	個			
PPｴﾙﾎﾞ φ20	2	個			
HI ｴﾙﾎﾞ φ 20 JIS K 6743	2	個			
PP管 φ20 二層管,1種(軟質)	0.5	m			
HIVP管 φ 20 JIS K 6742	0.5	m			
単　位　当　り	1	箇所			

施工単価表

施工　第0-0002号内訳表　　頁0-0014/0022

給水管切替φ25（材料）

［規格１］ｻﾄﾞﾙ分水栓含まない　［規格２］　［ 摘要 ］　1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
PPﾒｰﾀｰｼﾞｮｲﾝﾄ φ25	2	個			
VPﾃｰﾊﾟｰﾕﾆｵﾝ φ25	1	個			
止水栓 φ25	1	個			
止水栓BOX 明石型 H=400	1	個			
PPｴﾙﾎﾞ φ25	2	個			
HI ｴﾙﾎﾞ φ 25 JIS K 6743	2	個			
PP管 φ25 二層管,1種(軟質)	0.5	m			
HIVP管 φ 25 JIS K 6742	0.5	m			
単　位　当　り	1	箇所			

施工単価表

施工　第0-0003号内訳表　　頁0-0015/0022

給水管切替φ40（材料）

［規格１］ｻﾄﾞﾙ分水栓含まない　［規格２］　［ 摘要 ］　1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
PPﾒｰﾀｰｼﾞｮｲﾝﾄ φ40	2	個			
VPﾃｰﾊﾟｰﾕﾆｵﾝ φ40	1	個			
止水栓 φ40	1	個			
止水栓BOX 明石型 H=600	1	個			
PPｴﾙﾎﾞ φ40	2	個			
HI ｴﾙﾎﾞ φ 40 JIS K 6743	2	個			
PP管 φ40 二層管,1種(軟質)	0.5	m			
HIVP管 φ 40 JIS K 6742	0.5	m			
単　位　当　り	1	箇所			

施工単価表

施工　第0-0004号内訳表　　頁0-0016/0022

給水管切替工(φ300～400×φ20)

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ｻﾄﾞﾙ分水栓建込(鋳鉄管 呼び径300～400mm) 配水管呼び径 20mm	1	箇所			
止水栓 取付 (呼び径20mm) 接合及び止水栓筐 ＰＰ用	1	箇所			
ポリエチレン管 据付 呼び径　20mm	0.5	m			
ポリエチレン管継手工 呼び径　20mm	6	口			
硬質塩化ビニル管 据付 呼び径　20mm	0.5	m			
硬質塩化ビニル管 TS継手工(呼び径　20mm)	4	口			
単　位　当　り	1	箇所			

施工単価表

施工　第0-0005号内訳表　　

給水管切替工(φ200～250×φ25)

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ｻﾄﾞﾙ分水栓建込(鋳鉄管 呼び径200～250mm) 配水管呼び径 25mm	1	箇所			
止水栓 取付 (呼び径25mm) 接合及び止水栓筐 ＰＰ用	1	箇所			
ポリエチレン管 据付 呼び径　25mm	0.5	m			
ポリエチレン管継手工 呼び径　25mm	6	口			
硬質塩化ビニル管 据付 呼び径　25mm	0.5	m			
硬質塩化ビニル管 TS継手工(呼び径　25mm)	4	口			
単　位　当　り	1	箇所			

施工単価表

施工　第0-0006号内訳表　　

給水管切替工(φ300～400×φ40)

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　1　箇所　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ｻﾄﾞﾙ分水栓建込(鋳鉄管 呼び径300～400mm) 配水管呼び径 40mm	1	箇所			
止水栓 取付 (呼び径40mm) 接合及び止水栓筐 ＰＰ用	1	箇所			
ポリエチレン管 据付 呼び径　40mm	0.5	m			
ポリエチレン管継手工 呼び径　40mm	6	口			
硬質塩化ビニル管 据付 呼び径　40mm	0.5	m			
硬質塩化ビニル管 TS継手工(呼び径　40mm)	4	口			
単　位　当　り	1	箇所			

施工単価表

施工　第0-0007号内訳表　　頁0-0019/0022

掘削積込工(補助的作業なし)

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　100　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			
ﾊﾞｯｸﾎｳ運転		時間			
合　計	100	m3			
単　位　当　り	1	m3			

施工単価表

施工　第0-0008号内訳表　　頁0-0020/0022

残塊処分工(ｱｽﾌｧﾙﾄ)

［規格１］〔㈱明石資材(神戸)〕　［規格２］運搬距離　L=9.5km　［ 摘要 ］　1　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
運搬 処理対象->As塊・Co塊（無筋）	1	m3			
処分費 ｱｽﾌｧﾙﾄ殻	1	式			
単　位　当　り	1	m3			

施工単価表

施工　第0-0009号内訳表　　頁0-0021/0022

残塊処分工(土砂)

［規格１］〔㈲ハリマ総合開発〕　［規格２］運搬距離　L=19.4km　［ 摘要 ］　1　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
運搬 　処理対象->土砂	1	m3			
処分費 　土 砂	1	式			
単　位　当　り	1	m3			

施工単価表

施工　第0-0010号内訳表　　頁0-0022/0022

仮復旧工［密粒度[再](13)］

［規格１］厚 5cm　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物（再生材） TOP13		t			
振動ﾛｰﾗ運転		日			
振動ｺﾝﾊﾟｸﾀ運転		日			
諸雑費		%			
合　計	100	m2			
単　位　当　り	1	m2			

家屋番号	サドル分水栓				施工(PP管)延長(m)	土工延長(m)	道路種別	備考
	新設/既設	元管種	元口径	給水管				
1	新設	鋳鉄管	300	20	4.5	4.5	市車10	
2	新設	鋳鉄管	300	20	4.5	4.5	市車10	
3	新設	鋳鉄管	300	40	10.0	10.0	市車10	
4	新設	鋳鉄管	200	25	4.6	4.6	市車5	

給水管材料・手間

口径	箇所数	延長
合計	4	23.6
20	2	9.0
25	1	4.6
40	1	10.0

名称等	材料	手間	備考
表示帯(管明示シート工)	23.6	23.6	
管明示テープ(管明示テープ工(PP管))	2	23.6	合計延長÷20(m/巻)

口径	名称等	口径等	材料	手間	備考
20	PP管	φ20	9.00	9.0	個別延長の合計
			9.0		設計数量
	給水管切替	φ20	2	2	
	サドル分水栓(鋳鉄用)	φ300×20	2	2	
25	PP管	φ25	4.60	4.6	個別延長の合計
			4.6		設計数量
	給水管切替	φ25	1	1	
	サドル分水栓(鋳鉄用)	φ200×25	1	1	
40	PP管	φ40	10.00	10.0	個別延長の合計
			10.0		設計数量
	給水管切替	φ40	1	1	
	サドル分水栓(鋳鉄用)	φ300×40	1	1	

給水管土工種別表

分岐元口径	合計		新設		新設		新設	
			市道車道5cm		市道車道10cm		市歩一般透水性5cm	
	箇所	延長	箇所	延長	分水箇所	延長	分水箇所	延長
合計	4	23.60	1	4.60	3	10.20	0	8.80
200	1	4.60	土工1					
			1	4.60				
300	3	19.00			土工2		土工3	
					3	10.20		8.80

給水管土工集計表

工　　種	合計数量	採用数量	単位	土工1		土工2		土工3
				分水穿孔	給水管	分水穿孔	給水管	給水管
舗装版切断（As） t≦15cm	44.50	**45**	m		8.60		18.30	17.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	12.75	**13**	m2	0.36	2.15	1.26	4.58	4.40
掘削積込工	8.11	**8**	m2		1.61		3.20	3.30
掘削積込工(補助的作業なし)	1.04	**1**	m3	0.23		0.81		
掘削(人力)	0.31	**0.3**	m3	0.07		0.24		
残塊処分工(As)	0.87	**0.9**	m3	0.02	0.11	0.06	0.46	0.22
残塊処分工(土砂)	9.46	**9**	m3	0.30	1.61	1.05	3.20	3.30
仮復旧工(密粒度(再)(13))	12.75	**13**	m2	0.36	2.15	1.26	4.58	4.40
路盤工(粒調砕石) t=10cm	6.91	**7**	m2	0.36	2.15			4.40
路盤工(粒調砕石) t=15cm	5.84	**6**	m2			1.26	4.58	
フィルター層(砂) t=5cm	4.40	**4**	m2					4.40
埋戻工(再生砕石)	5.12	**5**	m3		1.08		2.06	1.98
埋戻工(流用土)	0.83	**0.8**	m3	0.20		0.63		
埋戻工(スクリーニングス)	1.98	**2**	m3	0.07	0.32	0.24	0.69	0.66

給水管土工1

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道As5cm	As5cm	粒調砕石10cm

新設/既設	管種	管外径	管断面積
新設	鋳鉄管φ200		

分水穿孔部

箇所数	本管掘削幅(W)	個別延長	管下掘削深	(平均)土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1	0.60	0.60	管上まで	0.90	0.90	0.05

給水管部

掘削幅	掘削深	給水管延長	土工延長	土工延長根拠
0.50	0.80	4.60	4.30	4.6-0.6/2×1

分水穿孔部

工種	施工厚	計算式						数量	1箇所計
		幅等		厚		延長	箇所等		
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.60			×	0.60		0.36	0.36
掘削積込工(補助的作業なし)	0.65	0.60	×	0.65	×	0.60		0.23	0.23
掘削(人力) (管断面控除)	0.20	0.60	×	0.20	×	0.60		0.07	0.07
残塊処分工(As)		0.36			×	0.05		0.02	0.02
残塊処分工(土砂)		掘削工の合計と同量						0.30	0.30
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.60			×	0.60		0.36	0.36
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.60			×	0.60		0.36	0.36
埋戻工(流用土)	0.55	0.60	×	0.55	×	0.60		0.20	0.20
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.20	0.60	×	0.20	×	0.60		0.07	0.07

給水管部

工種	施工厚	計算式						数量
		幅等		厚		延長	箇所等	
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05					4.30	× 2	8.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.50			×	4.30		2.15
掘削積込工	0.75	0.50	×	0.75	×	4.30		1.61
残塊処分工(As)		2.15	×	0.05				0.11
残塊処分工(土砂)		1.61						1.61
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.50			×	4.30		2.15
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.50			×	4.30		2.15
埋戻工(再生砕石)	0.50	0.50	×	0.50	×	4.30		1.08
埋戻工(スクリーニングス)	0.15	0.50	×	0.15	×	4.30		0.32

給水管土工2

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工	市道	車道As10cm	As5cm	粒調砕石15cm

新設/既設	管種	管外径	管断面積
新設	鋳鉄管φ300		

分水穿孔部

箇所数	本管掘削幅(W)	個別延長	管下掘削深	(平均)土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
3	0.70	0.60	管上まで	0.90	0.90	0.05

給水管部

掘削幅	掘削深	給水管延長	土工延長	土工延長根拠
0.50	0.80	10.20	9.15	10.2-0.7/2×3

分水穿孔部

工種	施工厚	計算式					数量	3箇所計
		幅等		厚		延長 箇所等		
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.70		×		0.60	0.42	1.26
掘削積込工(補助的作業なし)	0.65	0.70	×	0.65	×	0.60	0.27	0.81
掘削(人力) (管断面控除)	0.20	0.70	×	0.20	×	0.60	0.08	0.24
残塊処分工(As)		0.42		×		0.05	0.02	0.06
残塊処分工(土砂)		掘削工の合計と同量					0.35	1.05
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.70		×		0.60	0.42	1.26
路盤工(粒調砕石)	0.15	0.70		×		0.60	0.42	1.26
埋戻工(流用土)	0.50	0.70	×	0.50	×	0.60	0.21	0.63
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.20	0.70	×	0.20	×	0.60	0.08	0.24

給水管部

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚		延長 箇所等	
舗装版切断(As) t≦15cm	0.10					9.15 × 2	18.30
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.10	0.50		×		9.15	4.58
掘削積込工	0.70	0.50	×	0.70	×	9.15	3.20
残塊処分工(As)		4.58	×	0.10			0.46
残塊処分工(土砂)		3.20					3.20
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.50		×		9.15	4.58
路盤工(粒調砕石)	0.15	0.50		×		9.15	4.58
埋戻工(再生砕石)	0.45	0.50	×	0.45	×	9.15	2.06
埋戻工(スクリーニングス)	0.15	0.50	×	0.15	×	9.15	0.69

給水管土工3

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤	先行路盤
昼間施工	市道	歩道一般(透)As5cm	As5cm	粒調砕石10cm	フィルター層(砂)5cm

新設/既設	管種	管外径	管断面積
新設			

給水管部

掘削幅	掘削深	給水管延長	土工延長	土工延長根拠
0.50	0.80	8.80	8.80	

給水管部

工種	施工厚	計算式					数量
		幅等		厚	延長	箇所等	
舗装版切断(As) t≦15cm	0.05				8.80 ×	2	17.60
舗装版取壊し積込工 t≦10cm	0.05	0.50		×	8.80		4.40
掘削積込工	0.75	0.50 ×		0.75 ×	8.80		3.30
残塊処分工(As)		4.40 ×		0.05			0.22
残塊処分工(土砂)		3.30					3.30
仮復旧工(密粒度(再)(13))t=5cm歩道	0.05	0.50		×	8.80		4.40
路盤工(粒調砕石)	0.10	0.50		×	8.80		4.40
フィルター層(砂)	0.05	0.50		×	8.80		4.40
埋戻工(再生砕石)	0.45	0.50 ×		0.45 ×	8.80		1.98
埋戻工(スクリーニングス)	0.15	0.50 ×		0.15 ×	8.80		0.66

特記仕様書
（平成29年度　松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事ほか工事）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章

1 一般共通事項

※ 1 現場代理人の兼務

※ 1 本工事については他工事との現場代理人の兼務を認めない。

※ 2 合併工事

※ 1 本工事は、他部署との合併工事はない。

※ 3 近接工事

※ 1 発注時に、確認している近接工事は無いが、近接工事が確認された場合は、
関連他業者との連絡を密にし、互いの工事の影響が少ないように工程管理すること。

※ 4 占用関係

1 国道(　　)　2 県道(　　)
※ 3 市道(　　)　4 法定外道路(　　)
5 港湾(　　)　6 河川(　　)
7 その他(　　)

上記のチェックが入っている占用について、監督員と協議して必要な書類を
提出すること。

※ 5 協議関係(上記占用以外)

1 鉄道等(　　)
※ 2 バス道等(神姫バス、山陽バス　　)
3 学校関係(　　)
※ 4 その他(明舞中央病院　　)

上記1～4のいずれかにチェックが入っている場合は、各関係者に施工内容や時期を
報告し、場合によっては施工協議をする必要も出てくるので、監督員と充分協議すること。

※ 6 工事の範囲

※ 1 当該工事予定範囲について、地元要望等及び現地の状況により、施工範囲の
増減が生じる可能性がある。その場合は、協議のうえ設計変更の対象とする。

※ 7 夜間施工

※ 1 夜間施工は予定していない。ただし、近隣住民の要望等により夜間施工に
変更する場合がある。その場合は、協議のうえ夜間施工とし、設計変更の対象とする。

※ 8 工事の制限

※ 1 工事の確実性、周辺への水の濁り等を考慮して、金曜日、土曜日及び祝日の
前日には、工種を制限しているので監督員と協議し施工すること。

※ 9 交通誘導警備員

※ 1 交通誘導警備員の人数は、下表のとおりとする。

種類	合計	布設工事	給水管切替工事
A	0名	0名	0名
B(交替要員有)	268名	264名	4名
B(交替要員無)	95名	93名	2名
合計	363名	357名	6名

※ 1日1現場当り3名(標準)

※ 1日1現場当りT字交差点部 4名
1日1現場当り十字交差点部5名

※ その他1日1現場当り追加　1名(バス停)
道路管理者及び警察署との協議及び地元要望等に伴い、上記の配置員数に増減

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

が生じた場合は、協議のうえ設計変更の対象とする。また、その配置を監督員と協議すること。
なお、交通誘導員A、Bの定義は次のとおりとする。
交通誘導警備員A；警備業者の警備員（警備業法第2条第4項に規定する警備員を言う。）で、交通誘導警備業務（警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務をいう。）に従事する交通誘導警備業務に係る1級検定合格警備員又は2級検定合格警備員
交通誘導警備員B；警備業者の警備員で交通誘導警備員A以外の交通の誘導に従事するもの

※　10　工事実績データの作成・登録

※　1　工事請負代金額が500万以上の工事について、工事実績情報サービス（コリンズ）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し監督員の確認を受けたうえ、登録すること。
なお、登録期限は受注時は契約後、変更時は変更契約日から、完成時は工事完成後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に適宜登録すること。
変更登録は、工期又は技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。
また、「工事実績データ」の登録後、登録機関発行の「登録内容確認書」を直ちに監督員に提出すること。
なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。

※　2　布設替工事と給水管切替工事を一括で考え、請負代金合計額が500万円以上の場合に一括の内容で登録することとする。

※　11　工事中の安全対策および環境対策

※　1　受注者は、土砂，工事用資材等の運搬に際しては、通行者の安全と一般車の交通確保に十分留意し、道路交通法その他の関係法令に従い、過積載が無いよう努めること。

※　2　日々施工完了後には施工範囲内の清掃をすること。また、休日前には、工事範囲内を点検し、道路および側溝等の清掃をおこなうこと。

※　3　土砂掘削時および運搬時など、粉塵等が舞上がる時は必ず散水し、粉塵の発生を抑えること。

※　4　施工箇所の仮復旧跡の確認を定期的に行うこと。段差等がある場合は、早急に補修をし、安全確保に努めること。

5　夜間施工中は特に照明や騒音等で迷惑を極力掛けないように注意して施工すること。

※　6　工事着手後、作業員全員の参加により月当たり半日以上の時間を割当て、定期的に安全に関する研修・訓練等を実施すること。

※　12　その他事項

※　1　工事の施工にあたり、使用する車両及び建設機械等の燃料として、不正軽油を使用してはならない。また、不正軽油の使用が判明した場合には、速やかに是正措置を講じること。

※　2　当該工事付近に公共基準点（街区三角点多角、街区多角点）がある場合は、明石市公共基準点管理保全要領に定めるところにより、必要な申請書等を作成するほか、公共基準点を保持するための測量をすること。

※　3　設計図書とは、明石市水道部工事請負契約約款第1条に規定する設計図書及び工事設計書のことをいう。

特記仕様書
（平成29年度　松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事ほか工事）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	
	※　4　工期については、契約締結日の翌日から平成30年3月31日までとしている。 ただし、本件に係る予算について、公営企業管理者による次年度への繰り越しが 決定されたときは、平成30年9月30日までとする工期延期を行う予定である。 これ以上の工期延期については、協議により決定するものとする。

章	
2	管きょ工
	1　夜間工事
	1　夜間時は、極力騒音を立てないような施工を行なうこと。
	2　付近住民に工事のお知らせを確実に行なうこと。
	3　配管切断は、ロールカッターの使用も考慮すること。
	4　防音シートの使用も考えて施工計画を立てること。
	※　2　施工前調査
	※　1　以下のような施工前調査を実施し、工事打合簿にて報告または協議をすること。
	※　1　明石市水道工事標準仕様書3.2に記載の現地調査の報告
	※　2　施工前に今回給水管を切替する家屋に漏水が無いか確認し報告すること。
	※　3　その他設計図書に対する疑義（給水管口径、区画線等）
	※　3　試掘調査
	※　1　試掘調査前に事前立会等で確認した試掘位置、試掘目的を工事打合簿にて報告すること。
	※　2　試掘調査後は、以下の項目について速やかに結果をまとめ、工事打合簿にて報告または協議すること。
	・試掘断面の地下埋設物の状況
	・既設舗装構成
	・設計図書通りの撤去・埋設が可能か
	・既設管の外面腐食等の異常の有無
	・接続部がインチ管の場合、既設管外周長さを測定し、インチ管であることの確認
	・その他試掘調査結果で判明した協議事項
	※　4　段階確認
	※　1　下記の項目について事前に立会願を提出し、立会を行うものとする。
	・通常配管及び不断水工事箇所の水圧試験
	・材料納入時の材料検収
	・「土木工事共通仕様書」（兵庫県県土整備部監修）の段階確認一覧表に記載されている事項
	・その他監督員が必要と判断した事項
	※　5　使用材料
	※　1　現地確認・試験掘削の結果等を十分反映させ、設計書に記載の水道材料等を購入するものとする。
	2　仮給水管切替工は、現地確認により既設給水管の口径等を十分把握し、反映させるものとする。
	※　3　やむを得ず在庫品を使用する場合には、使用前に監督員の確認を得ること。
	※　4　支給材料については、監督員と受注者が確認した後、受領し、支給品受領書（様式15）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

を提出すること。

※　5　明石市水道工事標準仕様書4.1に記載している水道材料の指定品については、使用材料確認願（様式29-1）に、使用材料確認一覧表（様式29-2）及び使用するメーカーの日本水道協会検査工場登録通知書を添付すること。また、不断水ﾊﾞﾙﾌﾞ、割丁字管（付属ﾊﾞﾙﾌﾞ）、特殊な仕切弁、消火栓、空気弁、補修弁、排泥弁、止水栓、ｻﾄﾞﾙ分水栓、その他監督員が必要と認める材料に関しては構造図（承認図）も添付すること。

※　6　一体化長さ

※　1　設計水圧0.75Mpa、摩擦係数0.3で設計している。

※　2　上記の条件と管の各口径及び各土被りを考慮し一体化長さを確認し、ライナや特殊押輪の有無を適時確認して施工すること。

※　7　管の据付

※　1　管路の高さを調整する場合は、スクリーニングス等を詰めた土嚢を使用すること。

※　8　ボルトの長さ

※　1　フランジ部で使用するボルトの長さは、ナットから3山以上出ていることとする。

※　9　消火栓・空気弁

※　1　丸型消火栓ボックスを設置する箇所については、補修弁のバルブの位置を配水管法線から、90°の位置に設置すること。

※　2　消火栓及び空気弁の口の高さは、GL－20cm±5に収まるようにフランジ短管で調節すること。

※　3　消火栓及び空気弁の立ち上がり部に使用するフランジ継手材はフランジ接合補強具(LSP形)を使用すること。

※　4　消火栓及び空気弁の立ち上がり部におけるフランジ継手に使用するフランジナットはSUS304製(緩み防止仕様)を使用すること。

※　10　水道メーターの確認

※　1　仮給水管、給水管切替後は水道メーターの逆付けをしてないか確認すること。

※　11　現場発生品の処分

※　1　既設鋳鉄管の処分については、有価物として売却すること。その場合、金属くず商の許可証の写し、物品の受領を証明する書類、計量証明書などを監督員に提出すること。また、計量伝票などの集計を設計変更の対象とする。なお、処分地は○○で運搬距離は○kmを計上している。
ただし、上記書類等が整えば、別の処分地でも可能とする。その場合は、設計変更の対象としない。
有価物として処分出来ないときは、監督員と協議のうえ亀池資材置き場に運搬すること。
そのときは、下記2のとおりとし、設計変更の対象とする。

2　既設鋳鉄管については、明石市水道部所有地である亀池資材置き場（明石市大久保町松陰新田200-1）内に運搬すること。ただし、搬入するときは事前にその量（○tトラック○台分等）、日時を協議すること。搬入時にはトラッククレーンなどで搬入し、水道部職員の指示によりに荷降ろしすること。有価物として処分する場合は、監督員と協議のうえ金属くず商に処分すること。
そのときは、上記1のとおりとし、設計変更の対象とする。

3　既設石綿管の撤去が発生した場合、「水道用石綿セメント管の撤去作業等における石綿対策の手引き」（平成17年8月、厚生労働省健康局水道課）を参考として作業を行うこと。その文章中のプラスチック袋等は、ポリエチレンスリーブ(2重包み)に置き換えて作業すること。
処分地は特記仕様書(追記)のとおりとする。

※　4　本工事にて発生した上記以外の現場発生品については、監督員と協議のうえ亀池資材置き場に運搬すること。

特記仕様書
（平成29年度　松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事ほか工事）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	
	12 その他事項

章	
3	土工事

※ 1 重機

※ 1 低騒音・低振動型

※ 2 排出ガス対策型

※ 3 特殊車両（一般的制限値である幅2.5m、長さ12.0m、高さ3.8m、総重量20.0t等のいずれかを越える車両）
特殊車両がある場合、道路管理者の許可を得ること。

※ 2 アスファルト切断

※ 1 アスファルト切断時に発生する濁水は適切に処理すること。

※ 3 配水管布設時の掘削幅

※ 1 矢板無の場合、単位は㎜

口径	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450
GX形	550	550	550	600	650	700		950	
NS形	600	650	700	750	800	850	900	950	1000
K形	550	650	700	750	800	850	900	950	1000

※ 2 矢板有の場合、単位は㎜

口径	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450
GX形	850	850	850	850	850	850		1000	
NS形	850	850	850	850	850	900	950	1000	1050
K形	850	850	850	850	850	900	950	1000	1050

※ 4 配水管布設時の掘削深

※ 1 配水管布設時の掘削深は、土被り＋布設管外径（D2)+100を基本とする。

※ 2 既設管を撤去し、その断面で新設管を布設する場合、既設管の管底まで掘削し、
上記のように掘削深から100㎜程度上げた状態で管を布設することを基本とする。
ただし、近接する地下埋設物の状態や既設管の配管状況により、曲管等の異形管が
極力増えないように土被りを検討すること。

※ 3 会所掘箇所は、G-Link・P-Link・特殊押輪等の押しボルト設置箇所とする。

※ 4 会所掘箇所の断面は、布設管口径がφ350㎜以下の場合、延長500㎜、深さ200㎜、
φ400㎜以上の場合、延長800㎜、深さ500㎜とし、幅はそれぞれの掘削幅とする。

※ 5 仮配水管・仮給水管の掘削幅・掘削深

※ 1 矢板無の場合、単位は㎜

口径	φ100以下	φ150	φ200	φ250	φ300	φ400
幅	400	450	500	550	600	700
深さ	400	450	500	550	600	800

2 矢板有の場合の掘削幅、単位は㎜

口径	φ100以下	φ150	φ200	φ250	φ300	φ400
幅	700	750	800	850	900	1000

特記仕様書
（平成29年度　松が丘3丁目ほか地内配水管布設替工事ほか工事）

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

3　仮給水管設置撤去時の掘削幅は400㎜、掘削深は300㎜とすること。

4　国道に布設撤去する場合は深さ600㎜以上とすること。

※　6　既設管撤去の掘削幅

1　矢板無の場合、単位は㎜

口径	φ75～150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450
幅	550	600	650	700	900	950	1000

2　矢板有の場合、単位は㎜

口径	φ75～150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450
幅	850	850	850	850	850	1000	1050

※　7　給水管の掘削幅、掘削深、延長

※　1　分水穿孔部について、新設管布設後の場合は本管掘削幅、延長は600㎜、深さは新設管布設時の土被りとする。既設管から分岐する場合は、本管口径のK形を布設する場合の掘削幅、延長は600㎜、深さは既設管土被り＋既設管呼び径＋100㎜とする。

※　2　給水管部は、幅500㎜、延長は給水管延長（本管～止水栓距離）－分水穿孔部掘削幅/2、深さは本管土被り-100mmとする。

※　8　掘削・埋戻し

※　1　埋戻し一層厚さ20cm未満とする。

※　2　水圧がかかっている水道管周りを掘削するときは、必ず人力掘削すること。

※　3　管路布設後、管下を埋め戻す場合には、スクリーニングス等を使用し、きちんと胴締めすること。管路布設前に余掘り分を埋め戻す場合は、再生砕石等良質土を使用し、きちんと転圧すること。

※　9　残土・殻処分地

※　1　処分地は特記仕様書(追記）参照。

※　2　特記仕様書(追記)は積算条件を明示しているものであり受入施設を指定するものではなく、受注者は、県登録施設から搬出先施設を選定し、共通仕様書に基づき施工計画書に含め、監督員に提出しなければならない。なお、受注者の選定した施設が積算条件と異なる場合においても設計変更は行わない。
ただし、特記仕様書(追記)の施設が工事発注後に県登録施設からの登録抹消等により受け入れ困難となった場合は、設計変更を行う。

※　10　各種試験

※　1　「土木工事施工管理基準」（兵庫県県土整備部監修）に定める以下の試験等について、基準を次のように定める。

※　1　上層路盤の現場密度の測定・・・埋戻土及び管路掘削箇所について省略する。

11　その他事項

章	
4	舗装工

※　1　舗装前準備

※　1　既設構造物(側溝、街渠等)等に損傷を与えていないか、動いていないか等を確認し、

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

異常がある場合は、適正な方法を検討し、監督員と協議すること。

※ 2 下水道の鉄蓋で古い鉄蓋(コンクリート蓋、コンクリート巻鉄蓋等)がある場合は、舗装復旧前に下水道部が取り替えることがあるので、位置が分かるものと現況写真を提出すること。

※ 3 他の地下埋設物の鉄蓋で高さ調整が必要なものは、位置が分かるものと現況写真と高さ調整の程度（＋〇cm等）が分かるものを提出すること。

※ 4 舗装範囲内にある各種鉄蓋の表面を汚さないよう処置をとること。

※ 5 舗装復旧内に古い消火栓蓋、空気弁蓋、仕切弁蓋がある場合は、取替するかどうか監督員と協議すること。

※ 6 切削オーバーレイで施工する場合、事前にその計画書及び事後には報告書を作成し、工事打合簿にて提出すること。また、それらの書類には以下の項目等を記載すること。

・計画書には、測点位置での既設舗装高さ・予定舗装高さ・予定切削厚さ

・報告書には、測点位置での切削後の舗装高さ・オーバーレイ後の舗装高さ・舗装厚

※ 2 不陸整正工

※ 1 補充材の有無を確認し、路床面の不陸を整正すること。

※ 2 既設構造物、各種鉄蓋と接触する部分は、入念に清掃すること。

※ 3 乳剤散布

※ 1 ムラにならないよう、均一に散布すること。

※ 2 既設構造物、各種鉄蓋と接触する部分等にも散布すること。

※ 4 アスファルト舗装工

※ 1 当日舗装版撤去した範囲について、表層まで復旧出来ない場合は監督員と協議すること。その場合は、周辺住民によく周知し、既設構造物、各種鉄蓋の箇所が歩行者、二輪車、自動車等の交通車両に危険が無いよう、すり合わせし、段差有の看板を立てるなど注意喚起すること。

※ 2 既設舗装との継ぎ目には、アスファルト用の目地テープ等を使用するなど雨水の浸透を防止すること。

※ 5 区画線工

1 横断歩道等交差点付近の復旧は事前に警察と協議すること。

※ 2 施工直前に施工箇所を清掃し、プライマーを塗布すること。

※ 3 ガラスビーズを配合すること。

※ 6 各種試験

※ 1 「土木工事施工管理基準」（兵庫県県土整備部監修）に定める必要な試験等について、試験位置、試験方法等を事前に監督員に報告すること。

※ 2 「土木工事施工管理基準」（兵庫県県土整備部監修）に定める以下の試験等について、基準を次のように定める。

※ 1 アスファルトの現場密度の測定・・・同一配合のアスファルト施工面積500m2以下について省略する。

※ 2 アスファルトコア採取・・・同一配合のアスファルト施工面積1箇所20m2未満の箇所について省略する。

※ 3 表層の平坦性・・・省略する

7 その他事項

特記仕様書（追記）

1　建設発生土の搬出先

品目	建設発生土
施設の名称	㈲ハリマ総合開発
所在地	加古郡稲美町草谷1-70
運搬距離	19.4km
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

2　特定建設資材の分別解体等・再資源化等

1）分別解体等の方法

	工程	作業内容	分別解体等の方法
工程ごとの作業内容及び解体方法	①仮設	仮設工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 ■有　□無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑥その他	その他の工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用

2）再資源化等をする施設の名称及び所在地

品目	アスファルト塊
施設の名称	(株)明石資材神戸
所在地	神戸市西区平野町中津1337-3
運搬距離	9.5km
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

品目	コンクリート塊（無筋）
施設の名称	
所在地	
運搬距離	
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

品目	コンクリート塊（有筋）
施設の名称	
所在地	
運搬距離	
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

水 道 工 事 標 準 仕 様 書

1　総　則

1.1（適　用）

1　水道工事標準仕様書（以下「標準仕様書」という。）は、明石市水道部が発注する水道管（導水・送水・配水）布設、布設替及び給水管工事全般（以下「工事」という。）に適用する。

2　工事請負契約書（以下「契約書」という。）及び仕様書・設計書・設計図（以下「設計図書」という。）のいずれかによって定められている事項は、契約の履行を拘束するものとする。

3　本工事は、契約書及び設計図書のほか、水道工事標準仕様書(日本水道協会)・水道事業実務必携（全国簡易水道協議会)・土木請負工事必携(兵庫県県土整備部)・土木工事共通仕様書(兵庫県県土整備部）・土木施工管理基準(兵庫県県土整備部)・給水装置工事施行基準（明石市水道部）及びその他関係図書による。

1.2（法令等の厳守）

1　本工事の施工にあたり、受注者は建設業法・道路交通法・騒音規制法・労働基準法・労働者災害補償保険法・労働安全衛生法・その他関係法規を厳守し、必要な諸手続きを行い、事故等を起こさないよう十分注意すること。

2　本工事は、総ての法令等の定めによるほか、設計図書に基づき、監督員の指示のもとに、忠実に誠意と責任をもって迅速に施工すること。

1.3（書類の提出）

1　受注者は、明石市及び明石市水道部の定める様式による書類を提出すること。

2　提出した書類に変更を生じたときは、速やかに変更届を提出すること。

1.4（監督員）

1　監督員とは、水道部が指定した当該工事を監督する職員（主任監督員及び監督員）をいい、明石市工事監督規程に基づいて監督するほか、次に掲げる権限を有する。

(1) 工程の管理、工事施工状況の確認及び工事材料の試験の立会い、水圧テスト等の検査を行うこと。

(2) 受注者に対して、指示、協議又は承諾を行うこと。監督員がこれらの権限を行使するときは、書面により行うものとする。ただし、緊急を要する場合は、監督員が受注者に対し、口頭による指示等を行えるものとする。口頭による指示等が行われた場合は、後日書面により監督員と受注者の両者が指示内容等を確認するものとする。

1.5（現場代理人）

1　現場代理人は、工事期間中、受注者として全責任をもち、工事に関する一切の事項を処理することとともに常に監督員と緊密な連絡をとり、工事の円滑、迅速な進行を図ること。

2　現場代理人は、工事の従事者を十分に監督し、工事現場内における風紀を取締り、火災、盗難の予防、衛生等に配慮するとともに、特に住民に迷惑をかけないよう指導すること。

1.6（費用の負担）

材料及び工事の検査並びに工事施工に伴う測量、調査、試験、諸手続きに必要な費用は受注者の負担とする。

1.7（条件の変更）

受注者は工事の施工に当り、次のいずれかに該当する事実を発見したときには、監督員に連絡し、その確認を求めなければならない。

(1) 設計図書と工事現場の状態が一致しないとき。

(2) 設計図書の表示が明確でないとき。

(3) 工事現場の地質、湧水等の状態、施工上の制約等設計図書に明示された自然又は人為的な施工条件が実際と相違するとき。

(4) 設計図書に明示されていない施工条件について、予期することの出来ない特別の状態が生じたとき。

(5) その他設計図書等に疑義が生じたとき。

1.8（工事の中止）

1 自然的又は人為的な事象であって受注者の責めに帰すことができないものにより、受注者が工事を施工できないと認められるときは、監督員は、工事の中止を直ちに受注者に通知して、工事の全部又は一部の施工を一時中止させなければならない。

2 監督員は、前項の規定によるほか、必要があると認めるときは、工事の中止内容を受注者に通知して、工事の全部又は一部の施工を一時中止させることができる。

1.9（工事の検査）

工事の検査については、明石市工事検査規程に基づいて行う。

1.10（目的物の引渡し）

工事目的物の引渡しは、完成検査に合格したのち、工事目的物引渡書を水道部に提出したときをもって完了とする。

1.11（保証期間）

受注者は、２年以内（目的物引渡し日より）に工事目的物に瑕疵があるときは、その瑕疵を補修し、また、その瑕疵によって生じた滅失若しくは棄損に対し、損害を賠償すること。受注者に連絡する余裕のない場合は、水道部が復旧し、実費を徴収する。

2 安全管理

2.1（一般事項）

1 受注者は、常に工事の安全に留意して現場管理を行い、災害の防止に努めること。

2 受注者は、工事現場内の危険防止のため保安責任者を定め、次の事項を守るとともに、平素から防災設備を施すなど常に万全の措置がとれるよう準備しておくこと。

(1) 工事現場における安全な作業を確保するため、適切な照明、防護柵、仮囲い、足場、標示板等を施すこと。

(2) 万一の事故の発生に備え、緊急時における人員召集、資材の調達、関係連絡先との連絡方法等を確認するとともに図表等に表し、見やすい場所に掲示しておくこと。

(3) 暴風雨その他、非常時には、必要な人員を待機させ、臨機応変の措置が取れるようにしておくこと。

(4) 受注者は、熱中症対策等について充分に注意し、作業員に水分補給・塩分補給・休憩等を十分とらせること。

3 受注者は、工事の施工に当り必要な安全管理者、各作業主任者、交通誘導警備員等を配置し

て、安全管理と事故防止に努めること。

2.2（交通の安全確保）

1　受注者は、工事の施工にあたり、警察署長及び道路管理者の交通権限に係る指示に従うとともに、沿道住民の意向を配慮したうえで交通誘導警備員、看板類及び保安設備を配置し、交通の安全を確保すること。

2　受注者は、車両通行止め等のために迂回路を設ける場合は、当該迂回路を必要とする時間中、迂回路の入口に迂回路の地図等を標示する標示板を設置し、迂回路の途中の各交差点において、道路標識「まわり道」を設置するものとする。また、その迂回路に他工事等で車両通行止めが無いことを確認すること。

3　交通誘導警備員には工事現場における安全に関する巡視・点検・連絡調整等を行わせ、一般車輌・通行人等の円滑な誘導並びに安全確保に努めること。

4　看板類及び保安設備は、車両及び一般交通者の妨げとならないよう配置するとともに、常時適正な保守管理を行うこと。

5　歩道（歩道の無い道路では、通常歩行者が通る道路の端の部分）で工事をする場合は、歩行者通路を確保し、常に歩行者の通路として開放すること。

6　歩行者通路は、原則として車道に切回さないこと。ただし切回すことが許可された場合は、歩行者通路と車両通行路とは明確に分離すること。

7　夜間に保安設備を使用する場合は、必要な箇所に赤色警戒灯を点灯するなどして十分注意すること。

2.3（事故防止）

1　受注者は、各工種に適した工法に従って施工し、設備の不備、不完全な工法等によって事故を起こすことが無いよう十分注意すること。

2　工事現場においては、常に危険に対する認識を新たにして、作業の手違い、従事者の不注意のないよう十分徹底しておくこと。

3　工事中、不明管が出てきた場合には、監督員に連絡し、監督員の指示に従って、他の地下埋設物業者に確認したうえ、適切に処理すること。

2.4（事故発生時の措置）

事故等緊急非常事態が発生した時は、第三者及び作業員等の人命救助、人命の安全確保を最優先させるものとし、応急措置を講じるとともに、監督員及び関係各部署へ連絡しなければならない。また、軽微な事故等についても速やかに監督員に事故報告書等で報告するとともに、その指示を受けるものとする。

2.5（現場の整理整頓）

1　受注者は工事施工中、交通及び保安上の障害とならないよう機械器具、不用土砂等を使用の都度、整理整頓し、現場内及びその付近は常に清潔に保つこと。その際に、機械器具等を無断で家の敷地に置いたり、壁等に立て掛けたりしないこと。

2　受注者は、工事完成までに、不用材料、機械類を整理するとともに、仮設物を撤去して、跡地を清掃すること。

2.6（安全教育）

受注者は、作業員全員の参加により、月当たり半日以上の時間を割当て、定期安全研修（訓

練)を実施すること。その計画は、具体的に施工計画書に記載すること。実施状況は資料として整備及び保管すること。(土木工事共通仕様書 1-1-1-26 より)

また、労働者の作業が同一の場所において行われることによって生じる労働災害を防止するために安全衛生協議会を設置し、定期的に会議を開催し、作業間の連絡調整、工程調整等を実施すること。(労働安全衛生法第 30 条第 1 項、労働安全衛生規則 635 条より)

3　工事施工

3.1 (一般事項)

1　受注者は、工事に先立ち、施工計画書を提出し、これに基づき、工事の適正な施工管理を行うこと。なお、施工計画書作成に当たっては、監督員と十分打合せを行うこと。

2　受注者は、常に工事の進行状況を把握し、予定の工事工程と実績とを比較し、工事の円滑な進行を図ること。

特に施工期限が定められた箇所については、監督員と十分協議し、工程の進行を図ること。

3　受注者は、工事の出来形・品質等がこの仕様書・設計図等に適合するよう十分な施工管理を行うこと。

4　受注者は、監督員が常に施工状況の確認が取れるように日報等の必要な資料の提出すること。

3.2 (現場立会、架線・地下埋設物調査及び現地調査)

1　受注者は工事に先立ち、監督員とともに関係官公署等の係員と現場立会し、掘削位置・工法・交通安全設備・道路復旧材料の準備等について、許可条件・指示事項等を確認しなければならない。

2　受注者は、施工区域全域にわたる架線・地下埋設物の種類・位置・規模等を工事着手前に調査確認すること。必要に応じて他の地下埋設物占用者が現地立会を求める場合は、監督員とともに現地立会すること。

3　受注者は、工事施工中損傷を与える恐れのある施設物に対して、受注者の責任で仮防護その他適切な措置をし、工事完了後に原形復旧しなければならない。そのときには、施工前、施工中、施工後の写真撮影すること。

4　近接構造物 (家屋含む) の事前調査を行い、損傷等の有無を撮影し、関係者に提出すること。

5　施工範囲内の道路上の境界ピン・境界杭の有無を調査し報告すること。ある場合は監督員と協議し、その対応を検討すること。

3.3 (官公庁等への手続等)

1　受注者は、関係官公庁及びその他の関係機関への届出等の実施に当たっては、その写しを監督員に提出しなければならない。

2　受注者は、諸手続にかかる許可、承諾等を得たときには、その写しを監督員に提出しなければならない。

3　受注者は、監督員が行う各関係機関への届出等について、必要な書類及び写真等を監督員に提出しなければならない。

3.4 (地元説明)

1　受注者は、工事着手前に所定の工事標示を行い、付近住民に工事内容を説明して協力を求め、工事の円滑な遂行をはかること。

2　工事のため騒音を発し、付近住民の日常生活・業務等を妨害しないように配慮すること。

3　施工について営業等に支障があると思われる時は、監督員並びに付近住民と協議の上で、できるだけこれの軽減に努めること。

4　工事範囲内に自治会がある場合、当該自治会長に第 1 項と同様の工事説明を行うとともに、必要に応じて、工事広報の配布を行い工事同意書の提出を求めること。

5　受注者は施工前及び施工中(断水・濁水などの可能性がある場合)には、関係家屋にビラ等を配布し、周知すること。

6　給水管の切替等で個人の敷地内に入り、量水器または散水栓等から空気を抜く作業等を行う場合は、その旨を事前に説明し、トラブルが起こらないようにすること。

3.5（公害防止）

受注者は、工事の施工に際し、騒音規制法、振動規制法及び公害防止条例等を遵守し、地域住民から騒音、振動、塵埃等による苦情が起こらないよう適切な措置を講ずること。また、建造物、道路等に障害を及ぼさないよう十分注意すること。

3.6（道路の保守）

残土運搬その他によって、道路を損傷した場合は、掘削箇所以外の道路であっても受注者の負担で適切な補修をすること。

なお、関係官公署の検査を受けて引渡が完了するまで及びその保証期間内は受注者が保守の責任を負うこと。

3.7（工事公害の防止）

受注者は、工事用運搬路として、公衆に供する道路を使用するときは、積載物の落下等により、路面を損傷し、あるいは汚損することのないようにするとともに、特に第三者に工事公害による災害を与えないようにしなければならない

3.8（工事用地等の使用）

1　設計図書において受注者が確保するものとされる用地及び施工上受注者が必要とする用地については、自ら準備し、確保するものとする。

2　受注者は、施工上必要な土地等を第三者から借用又は買収したときは、その土地等の所有者との間の契約を遵守し、その土地等の使用による苦情又は紛争が生じないように努めなければならない。

3.9（建設副産物等）

1　受注者は、産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、工事着手前には兵庫県及び神戸市の許可を得た場所と交わした契約書の写しを施工計画書に含め監督員に提出し、施工中には産業廃棄物管理票又は電子マニフェストにより、適正に処理されていることを確認すること。工事完了後は産業廃棄物管理票(D 票、E 票の写し)および産業廃棄物管理票交付状況総括表を監督員に提出すること。

2　資源の有効な利用の促進に関する法律に基づき、建設副産物の適正な処理及び再生資源の活用を図らなければならない。また、明石市のすすめる環境マネジメントシステムの実施・維持に協力し、省エネ・省資源、廃棄物の減量・リサイクルの推進等により環境負荷の低減を図ること。

3　受注者は、土砂・砕石又は加熱アスファルト混合物を工事現場に搬入する場合には、「再生

資源利用計画」を、建設発生土・コンクリート塊・アスファルトコンクリート塊・建設発生木材・建設汚泥又は建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には、「再生資源利用促進計画」を所定の様式に基づき作成し、施工計画書に含め監督員に提出すること。

4　受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した「再生資源利用計画書（実施書）」及び「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出すること。

また、計画書及び実施書のデータを竣工図書として提出すること。

3.10（排出ガス対策型建設機械）

本工事において建設機械を使用する場合は、国土交通省の定めた排出ガス対策型建設機械指定要領に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。なお、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、「建設技術評価制度」又は「民間開発建設技術の審査証明事業」により評価された「排出ガス浄化装置」を装着した建設機械を使用することで同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督員と協議するものとする。

3.11（過積載車両の禁止）

受注者は、道路交通法に基づきダンプトラック等の車両を運転する際に、積載物の重量の制限を超える積載をしないこと。過積載車両もしくは過積載と疑わしい車両については、監督員が改善の指導を行い、受注者は改善結果を文書にて監督員に報告すること。

3.12（交通誘導警備員）

交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置することとする。

3.13（就業時間）

就業時間については、あらかじめ監督員と協議すること。

3.14（工事施工についての折衝報告）

工事施工に関して、関係官公署、付近住民と交渉を要するとき、又は交渉を受けたときは、適切な措置を講ずるとともに、速やかにその旨を監督員に報告すること。

3.15（他工事との協力）

工事現場付近で他工事が施工されているときは、互いに協調して連絡を密に取り、円滑な施工をはかること。

3.16（夜間工事）

夜間工事をする場合は、十分な照明を行うとともに保安設備を施すこと。また、付近住民に協力を依頼するとともに極力騒音・照明等により迷惑をかけないよう十分配慮すること。

3.17（工事記録写真）

受注者は、工事記録写真を整理編集し、監督員が随時点検できるようにするとともに、工事完成の際に提出すること。

3.18（工事関係書類の整備）

受注者は監督員の点検を随時受けられるよう、工事に関する書類を整備しておくこと。

4　材料

4.1（水道材料の規格）

本工事に使用する水道材料は、設計図書に品質規格を規定されたものを除き、明石市水道部

が材料分類ごとに指定したメーカー（別添使用材料登録業者一覧表及び給水装置工事施行基準参照）の製品（以下「指定品」という。）を使用すること。指定品以外の製品及び特殊品を使用する場合については、監督員の承諾を得た後、使用すること。

設計書及び特記仕様書に別途記載がある場合を除き、明石市水道部の規格を以下に示す。

(1)　K形ゴム輪は、同軸押輪・芯出ゴム輪又は同芯ゴム輪と同等品以上とすること。

(2)　特殊押輪、耐震補強金具等は耐震型(離脱防止性能 3DkN 以上)を使用すること。

(3)　K形管のT頭ボルト・ナットは、酸化被膜製と同等品以上とすること。

(4)　フランジボルト・ナットは SUS 製を使用すること。

(5)　フランジ部の紛体塗装面に接触する箇所には、ワッシャー(SUS 製)を使用すること。

(6)　仕切弁・消火栓・補修弁の開閉方向は左開きとする。

(7)　弁栓類等で使用するフランジの規格は２種（0.75MPa）とする。

(8)　鉄蓋・受枠・ボックスは、明石市水道部性能規定書による製品とする。

(9)　直管に内面粉体塗装を使用している路線については、「粉体塗装管」と記載しているポリエチレンスリーブを使用すること。

(10)　表示帯(管明示シート)は、15cm 幅 2 倍折の水道を明記したエコマーク認定品を使用すること。

(11)　管明示テープは、5 ㎝幅の水道用(青色)、年号(工事発注年度)を明記したエコマーク認定品を使用すること。(導水管は黄色無地を併用)

(12)　サドル分水栓穿孔箇所については、密着コアを使用すること。

(13)　割丁字管の分岐口径φ150 以下について、密着コアを使用すること。

4.2（土木材料の規格）

本工事に使用する土木材料は、以下に示す規格及び設計図書に品質規格を規定されたものを除き、土木工事共通仕様書に示す品質規格に適合したもの、またはこれと同等以上の品質を有するものとする。

(1)　スクリーニングスは、JIS　A5001　F-2.5 とする。ただし、監督員と協議のうえ、砂を使用する場合は、海砂(洗い砂)とする。

(2)　再生砕石は、路盤部分は RC-30 とし、その他は RC-40 とする。

(3)　粒調砕石は、M-30 とする。

(4)　再生密粒度アスファルトは、最大粒径 13 ㎜、締固め密度 2.35t/m3 とする。

(5)　再生粗粒度アスファルトは、最大粒径 20 ㎜、締固め密度 2.35t/m3 とする。

(6)　再生アスファルト安定処理混合物は、最大粒径 25 ㎜、締固め密度 2.35t/m3 とする。

4.3（材料の搬入）

受注者は、工事に使用する材料は工事の施工に支障を生じないよう現場に搬入すること。

4.4（材料の確認）

1　工事用材料は、使用前にその品質、寸法又は見本品について監督員の確認を受けるものであること。

ただし、指定品は、確認を省略することができる。

2　受注者は、材料確認に際して立会うこと。立会わないときは、受注者は確認に対し、異議を申し立てることはできない。

3　受注者は、材料確認した材料は損傷、変質等の不良化しないように保管すること。

4　受注者は、材料確認した材料が使用時に損傷、変質等している場合は、新品と取替、再確認を受けること。不良品は現場から直ちに搬出すること。

5　管布設工事

5.1（配管技能者）

1　受注者は、鋳鉄管布設工事に先立ち、当該設計書に適する下記の配管技能者の登録証、受講証等を施工体制台帳に添付すること。配管技能者とは、日本水道協会の配水管技能登録者(一般登録・耐震登録・大口径)又は、各管協会や各メーカーの継手接合研修会受講証等を有する者とする。日本水道協会の配管技能登録者の場合、一般登録はＴ・Ｋ形管等の一般継手（φ450㎜以下)、耐震登録はＮＳ・ＧＸ形管等の耐震継手（φ450 ㎜以下)、大口径は一般継手と耐震継手（全口径）を配管出来る技能を有するものとする。各管協会や各メーカーの継手接合研修会受講証等を有する者の場合、管種・口径を指定している受講証については、その管種・口径とし、ＮＳ形・耐震管の受講証については、そのロ径のＮＳ・ＧＸ形管等の耐震継手及び一般継手を配管出来る技能を有するものとする。

2　受注者は、配水管を布設するときには、上記の配管技能者が、当該工事で使用する管種・口径の施工要領等に従って施工すること。

3　受注者は、給水管の施工がある場合には、明石市水道事業指定給水装置工事事業者証及びその業者が雇用する給水装置工事主任技術者の資格証の写しを施工体制台帳に添付すること。また、その給水装置工事主任技術者が給水装置工事施行基準（明石市水道部）に基づき監督・指導すること。

4　受注者は、上記以外の管種（配水用ポリエチレン管・鋼管等）の施工、または、管更生等が含まれる場合、それぞれの資格証等を有する技能者が施工すること。また、その資格証等を施工体制台帳に含めて監督員に提出すること。

5.2（断水を伴う連絡工事）

1　断水を伴う連絡工事箇所は、監督員立会の上、試掘調査を行い、連絡する既設管及び他の近接埋設物を確認すること。

2　断水を伴う連絡工事にあたっては、事前に施工日時等を監督員と調整の上行うこと。ただし、断水時間は 13 時 30 分から 16 時を基本とすること。断水時間を極力短縮するために必要な諸設備・機械器具及び車輌等を十分点検し、作業員も十分に配置すること。

3　断水工事及び管内洗浄作業等に必要な弁栓類操作は、基本的には水道部職員で行うが、必要に応じて、応援を求めることがある。その時は、速やかに指示に従い応援すること。

4　万が一、連絡工事箇所周辺で濁水が出たときには、水道部職員の指示により周辺家屋への対応をすること。

5.3（広報活動）

1　断水工事を行う場合には、事前に断水となる家屋等を調査し、断水のビラを作成し、監督員が確認したあと、当該家屋に配布すること。そのビラには、日時・区域・連絡先及びその他必要事項を記入すること。

2　断水を伴わない場合でも、仕切弁の開閉操作等により、工事箇所周辺に濁水のおそれがある

場合は、監督員と協議したうえで、断水のビラと同様の濁水のビラを作成し、監督員が確認したあと、当該家屋に配布すること。

3　上記の広報活動をする場合に、当該区域内にある店舗・病院・工場・浴場等には事前に個別に了解を得ること。

4　受水槽物件があれば、事前にその設置管理者と打合せを行い、ポンプ電源や流入側バルブ等の閉止措置を行うこと。

5.4（ボルトの締め付け）

1 ボルトの締め付けに際しては、対称的な位置を順次締め、片締めにならないように、ゴム輪の圧縮を均等にさせること。

2 インパクトレンチを使用する場合には、締め付けの 7 割程度とし、残りはトルクレンチで締め付けること。

3 トルクの管理については、チェックシートに全箇所記載し、竣工図書で提出すること。

5.5（使用機材）

内面粉体塗装管の穿孔作業をするときは、先端角度が 90°から 100°、ねじれ角度が 20°から 30°の電動式穿孔機を使用すること。

5.6（管の明示）

1　管の識別を明確にするために、管明示テープを使用して、上水道管であることを明らかにすること。

2　表示帯（管明示シート）は、管天より 40cm の位置に丁寧に設置すること。

5.7（仮消火栓）

仮消火栓を配置する箇所について、「仮消火栓」の看板等を設置して明示するとともに、撤去予定の消火栓の鉄蓋に使用禁止を明示すること。

5.8（仮舗装復旧）

本工事において仮舗装復旧した箇所について、路面表示部分を掘削した場合は、本復旧までの間、同色のペイント等で修復すること。また、水道の仮舗装箇所と分かるように水色塗料で水道マーク表示を行うこと。

5.9（水圧試験）

1　水道管の水圧試験は、監督員が管内充水後、特に監督員からの指示がある場合を除き、下記の試験水圧まで加圧し確認するものとする。また、水圧計は地面より 70cm 程度の高さに設置すること。

(1)　通常配管（以下の特殊箇所以外）の場合、試験水圧を 0.75MPa とする。30 分間以上の経過後、低下率 1.0%以内を許容限度とする。

(2)　不断水工事の割丁字管箇所は、試験水圧を 1.25MPa とする。ただし、既設管の状態（ＦＣ管又は表面の腐食等が激しい場合）・ＡＣＰ管・ＶＰ管の場合は、最高試験水圧は 1.0MPa 以下でもよい。5 分間以上その状態を保持し、水圧の低下の無いことを確認するものとする。

(3)　中大口径のメカニカル継手管で、監督員が認めた場合は、テストバンドによる継手の水密性検査をもって、水圧試験に代えることが出来るものとする。この場合は、水圧 0.50MPa を負荷して 5 分経過後に 0.40MPa 以上保持することを確認するものとする。

(4)　管更生の場合は、管更生区間のみで水圧試験を(1)の方法で行い、その後、その区間を含めた仕切弁から仕切弁の水圧試験を再度(1)の方法で行うものとする。ただし、管更生区間のみの水圧試験にかかる材料（栓、押輪等）等は設計で計上するものとする。

(5)　配水用ポリエチレン管、鋼管等の場合は、監督員の指示により、試験水圧及び方法を決定する。

2　給水管の水圧試験は、サドル分水栓部分のみ 1.75MPa まで加圧し、1 分間以上のその状態を保持し、水圧の低下の無いことを確認するものとする。

6　提出書類

受注者は、工事請負契約に必要な書類を明石市水道部の入札・契約情報のホームページ及び土木請負工事必携に記載されている書類を関係部署に提出するほか、下記の書類を監督員に提出すること。ただし、監督員が必要でないと認めた場合は、この限りでない。

1　工事日報

受注者は、契約日から竣工日までの日々の作業に対して工事日報を作成し、監督員にすみやかに提出しなければならない。工事日報に記入する項目は、表側に年月日、曜日、天気、工事名、工事場所、当初設計延長（口径別）、出来形延長（口径別、日毎延長、累計延長）、作業内容、使用材料（品名、形質、数量等）を、裏側に日毎の作業内容の図示（下記竣工図(水道管)・(給水管)と同様）とする。また、白色ケント紙 110kg（Ａ４サイズ）で作成すること。ただし、休工日等の場合は連続する日を普通紙１枚で作成すること。

2　竣工図(水道管)

受注者は、竣工図（兼出来形図）を作成し、工事完成図書に添えて提出すること。竣工図（兼出来形図）には次にあげるものをもって構成する。

(1)　平面図（他の埋設管等で切り回している箇所等は別途詳細図）は、布設位置、標準断面図、土被り、延長（管種・口径毎）、防護工等を以下のことに注意して記入すること。

a. 必ず方位を記入すること。

b. 直管、切管、異形管、弁栓類等の種別及び材質を表示すること。切管等の数値は㎜表示とし、整数１位を四捨五入とし、２位表示とすること。

c. 特殊押輪、普通押輪、G-Link、ライナーの区別を表示すること。

d.配管材料記号、引出線及び部材名等を赤色で表示すること。

(2)　消火栓、空気弁、仕切弁、その他監督員の指示する箇所等についてはオフセット測量し、撤去されるおそれの無いマンホールの中心点や地先境界の角、その他３点以上の照点を定め水平距離を測定し記入する。

(3)　仕切弁・バタフライ弁・消火栓・空気弁・補修弁・不断水・仕切弁蓋・消火栓蓋・空気弁蓋・仕切弁 BOX・消火栓 BOX・空気弁 BOX 等の弁栓類関係について、使用したメーカー名を記入すること。

3　竣工図(給水管)

受注者は、竣工図を作成し、白色ケント紙 110kg（Ａ３サイズ）を工事完成図書に添えて提出すること。竣工図には次にあげるものをもって構成する。

平面図には、布設位置、口径を、表には番号、水道番号、家屋名、サドル分水栓、本管深さ、

ＰＰユニオン、ＰＰエルボ、ＶＰユニオン、止水栓、ボックス、ＰＰパイプ、本管止水距離、備考（接続した管種）を記入すること。

４　その他提出書類

書類名	提出時期	提出部数	備考
施工計画書	工事実工程着手前	3 部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1 部返却)
工事用材料使用承諾願	工事実工程着手前	2 部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1 部返却)
施工体制台帳	下請負契約後速やかに	3 部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1 部返却)
再生資源利用[促進]計画書	施工計画書提出時		配水管・給水管合併工事は併せて作成(施工計画書に含める)
工事日報	施工日以後速やかに	1 部	配水管・給水管合併工事は併せて作成
竣工図(原図)	竣工時	1 部	JPEG(A1・カラー・解像度 200dpi 以上)で保存した CD を提出
竣工図(焼き図)(原則 A1 サイズ)	竣工時	4 部	上記竣工図折図で提出 白紙(カラー)・折図(横 15cm×縦 23cm)
工事記録写真（写真帳）	竣工時	1 部	データは CD、または DVD で提出(出来る限り 1 枚で収まるように)
産業廃棄物管理表交付状況総括表	竣工時	1 部	原本を提出し、検査員確認後返却
建設廃棄物処理計画書	竣工時	1 部	施工前に提出予定のものの写しを提出
特定建設作業実施届出書	竣工時	1 部	施工前に提出予定のものの写しを提出
再生資源利用[促進]実施書	竣工時	1 部	CD でデータも提出
工事打合簿	打合せの都度	2 部	1 部返却

その他明石市工事検査要綱及び明石市水道事業施設等工事検査要綱に基づき必要書類を提出すること。CD 及び DVD で提出するものは、工事名・内容が分かるようにすること。

＊　竣工図書は、Ｂ４Ａ４サイズの文書保存箱で工事名･施工年度等を明示して納品すること。

（施行期日）

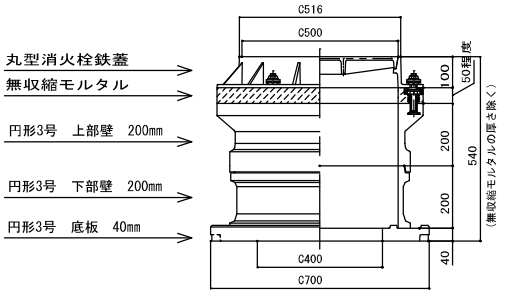
この仕様書は、平成 29 年 4 月 1 日より施行する。

使用材料登録業者一覧表

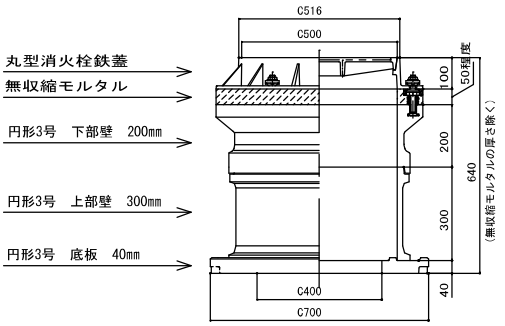
材料分類	適用規格等	登録業者名
水道用ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管直管 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	GX形S種管(溝切するときは1種管) NS形1種管	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、日本鋳鉄管㈱
水道用ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄異形管 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)		㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、日本鋳鉄管㈱、幡豆工業㈱、 ㈱岡本、朝日鋳工㈱、梅原工業㈱、九州鋳鉄管㈱、 大成機工㈱、クロダイト工業㈱
水道用ｿﾌﾄｼｰﾙ仕切弁 (内外面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JIS B 2062又はJWWA B 120 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、内ねじ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、幡豆工業㈱、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所 富士鉄工㈱、㈱森田鉄工所、千代田工業㈱、角田鉄工㈱
水道用ﾊﾞﾀﾌﾗｲ弁 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JWWA B 138 (内面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、前澤工業㈱、㈱森田鉄工所、 ㈱清水鐵工所、㈱清水合金製作所、清水工業㈱、 宮部鉄工㈱
水道用地下式消火栓 (内外面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JWWA B 103 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式、ケレップ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、幡豆工業㈱、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 富士鉄工㈱、㈱森田鉄工所、千代田工業㈱、 宮部鉄工㈱、協和工業㈱、角田鉄工㈱
水道用急速空気弁 (内外面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JWWA B 137 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112)	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、幡豆工業㈱、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 ㈱森田鉄工所、千代田工業㈱、宮部鉄工㈱、 協和工業㈱、角田鉄工㈱
水道用補修弁 (内外面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	JWWA B 126 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式、ボール式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、幡豆工業㈱、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 富士鉄工㈱、㈱森田鉄工所、千代田工業㈱、 宮部鉄工㈱、角田鉄工㈱、協和工業㈱
伸縮可とう管 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、クロダイト工業㈱、 日本ヴィクトリック㈱
不断水割T字管及び不断水ﾊﾞﾙﾌﾞ (接水部ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研
特殊継輪 (内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、 川崎機工㈱、クロダイト工業㈱
特殊押輪	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、 川崎機工㈱、クロダイト工業㈱
K形ゴム輪	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、川崎機工㈱
ゴム輪(K形以外)、パッキン(LSP形以外)		大成機工㈱、コスモ工機㈱、川崎機工㈱、㈱クボタ ㈱栗本鐵工所、興和ｺﾞﾑ工業㈱、三報ゴム㈱、 日本鋳鉄管㈱、サンエス護謨工業㈱、協和工業(株)
ﾌﾗﾝｼﾞ継手材(LSP形)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	協和工業㈱、サンエス護謨工業㈱
ボルト・ナット(緩み防止仕様以外) (GX形、NS形、ﾌﾗﾝｼﾞ形はｽﾃﾝﾚｽ製 、K形は酸化被膜製)		㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、㈱岡本、クロダイト工業㈱、 ㈱水研、㈱田中、㈱エスティム、日本鋳鉄管㈱、協和工業㈱
ボルト・ナット(SUS304製　緩み防止仕様)		協和工業㈱、サンエス護謨工業㈱
水道用ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管用 **ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ** **明示テープ(エコ認定製品)**	JWWA K 158 JDPA Z 2005	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、三報ゴム㈱、 サンエス護謨工業㈱、ヨツギ㈱
鉄蓋・受枠	明石市性能規定書	日之出水道機器㈱、長島鋳物㈱、スズテック㈱、 ㈱ダイモン
ボックス(ﾚｼﾞﾝｺﾝｸﾘｰﾄ製)	明石市性能規定書	日之出水道機器㈱、三国プラスチック㈱、長島鋳物㈱ スズキ鋳鉄工業㈱、㈱ダイモン
仮配管	SUS管	明和工業㈱、㈱多久製作所
	PE管	㈱光明製作所

円形3号ボックス組合せ図(標準図)

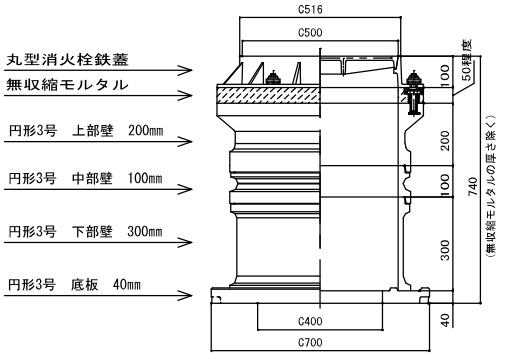
製品高さ　Ｈ＝５４０



製品高さ　Ｈ＝６４０



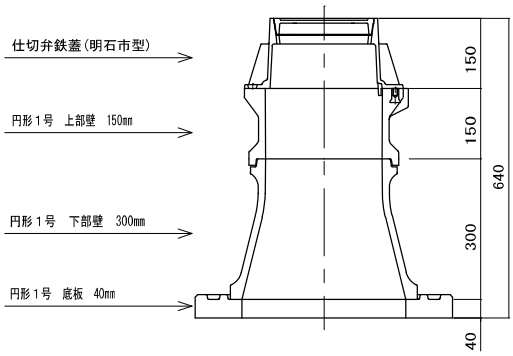
製品高さ　Ｈ＝７４０



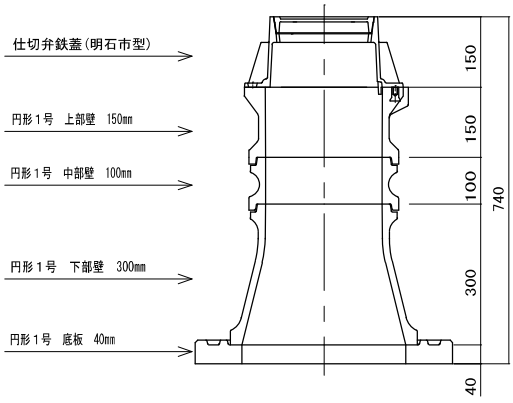
図名	組合せ図(標準図)
種類	円形3号ボックス
明石市水道部	

円形1号ﾎﾞｯｸｽ組合せ図(標準図)

製品高さH=640



製品高さH=740

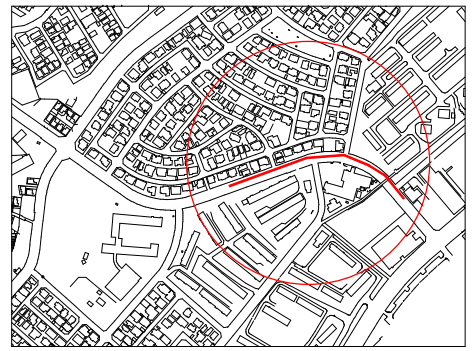


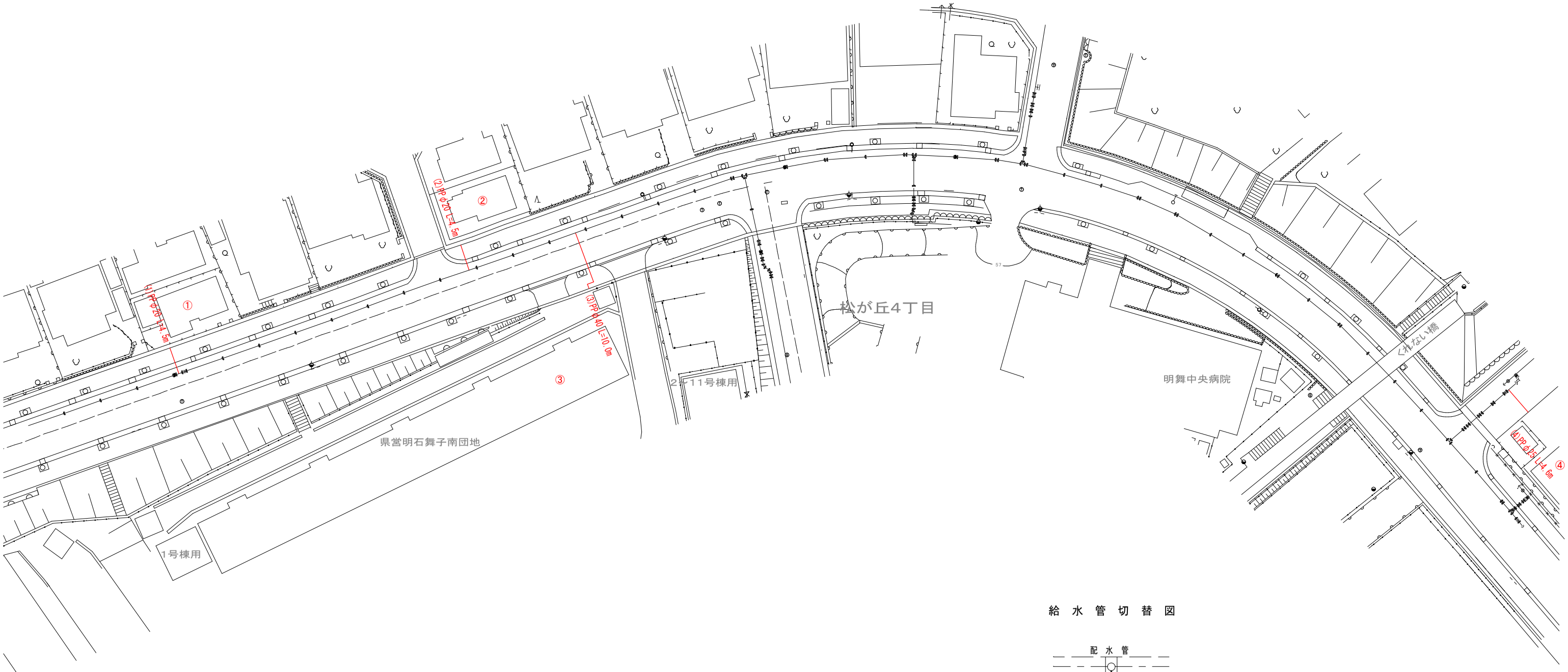
図名	組合せ図(標準図)
種類	円形1号ボックス
明石市水道部	

給水管切替平面図　S=1/300

φ200×25　　1箇所
φ300×20　　2箇所
φ300×40　　1箇所

位置図 S = 1/ 5000





給　水　管　切　替　図

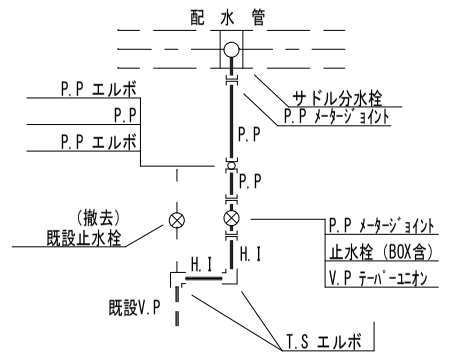
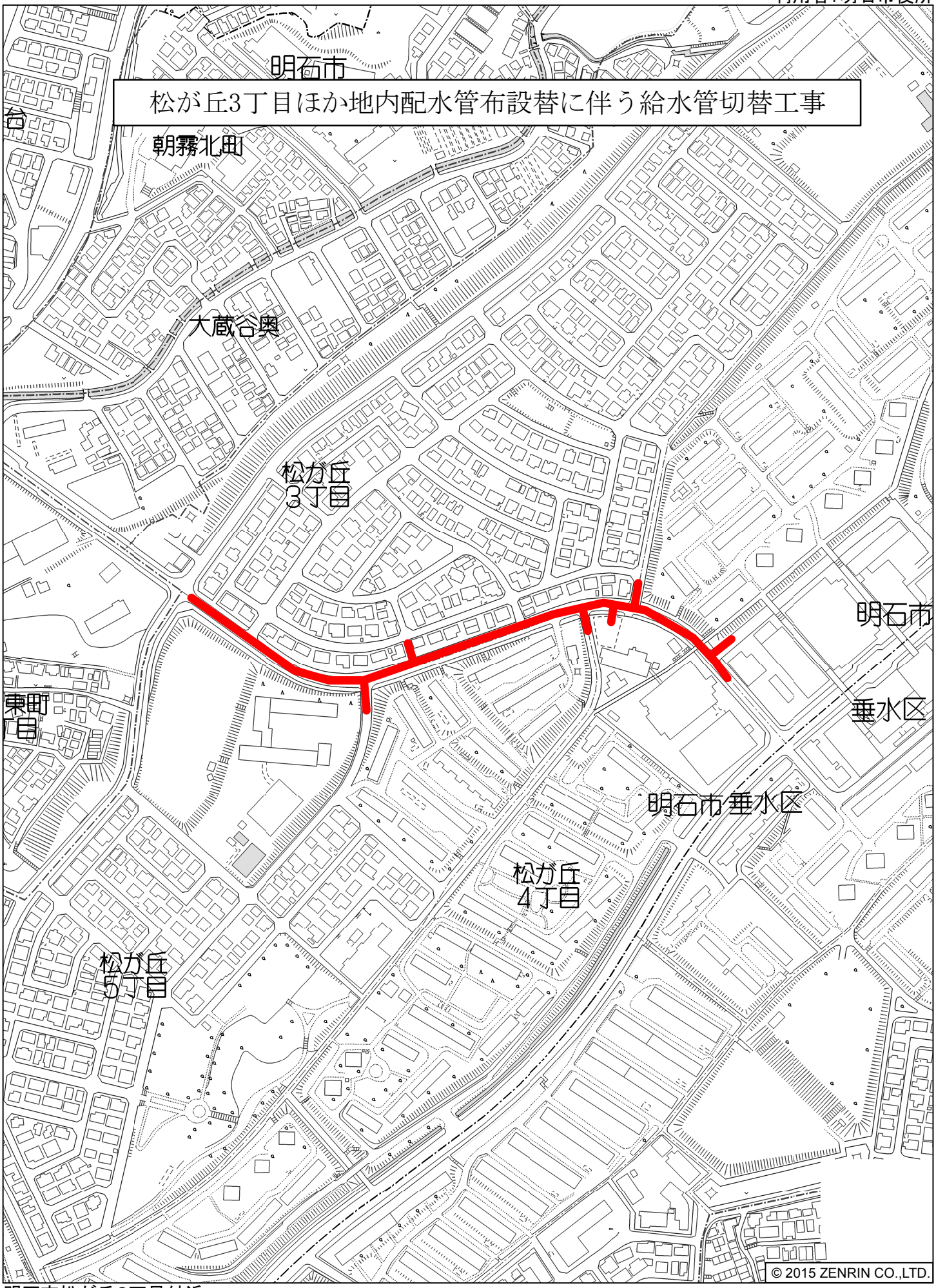


図　番	1/1	着工番号	
工事名	松が丘3丁目ほか地内配水管布設替に伴う給水管切替工事		
図　種	位置図・給水管切替平面図		
場　所	明石市松が丘3丁目ほか地内		
縮　尺	1/300		
制作日			
設計者		製図者	

利用者：明石市役所



明石市松が丘3丁目付近

縮尺 1 / 4,000　120m